

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズ ガイド

[はじめに](#)

[バージョン 5.5 の新機能](#)

[設定と管理](#)

[Server Administrator のインストール](#)

[Server Administrator の使用](#)

[Remote Access Controller](#)

[Instrumentation Service \(計装サービス\)](#)

[ベースボード管理コントローラ / Integrated Dell Remote Access Controller の操作](#)

[Storage Management Service](#)

[Server Administrator ログ](#)

[警告処置の設定](#)

[トラブルシューティング](#)

[用語集](#)

メモおよび注意

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** 注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示し、その危険を回避する方法を説明しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2008 Dell Inc. All rights reserved.

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標: Dell、DELL ロゴ、PowerEdge、PowerVault、OpenManage は Dell Inc の商標です。Microsoft、Windows、MS-DOS、Active Directory、Windows Server、Windows NT は米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Novell と ConsoleOne は Novell, Inc. の登録商標で、SUSE は米国およびその他の国における同社の登録商標です。Intel と Pentium は Intel Corporation の登録商標で、Intel386 は同社の商標です。Red Hat と Red Hat Enterprise Linux は Red Hat, Inc. の登録商標で、VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。UNIX は米国およびその他の国における Open Group の登録商標です。OS/2 は International Business Machines Corporation の登録商標です。VMware は VMware Inc. の登録商標で、ESX Server は同社の商標です。AMD は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Citrix は米国およびその他の国における Citrix Systems, Inc. の商標または登録商標です。

Server Administrator には、Apache Software Foundation(www.apache.org)によって開発されたソフトウェアが含まれています。Server Administrator は OverLIB JavaScript ライブラリを利用しています。このライブラリは www.bosrup.com から入手できます。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2008 年 7 月

[目次ページに戻る](#)

警告処置の設定

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズ ガイド

- [対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで警告処置を設定する](#)
- [Microsoft Windows 2000、Windows Server 2003、Windows Server 2008 で警告処置を設定する](#)
- [BMC プラットフォームイベントフィルタ警告メッセージ](#)
- [サービス名を理解する](#)

対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで警告処置を設定する

イベントの警告処置を設定する場合、**サーバーで警告を表示する**処置を指定できます。この処置を実行するため、Server Administrator は /dev/console にメッセージを書き込みます。Server Administrator で X Window System を実行している場合、デフォルトではそのメッセージが表示されません。X Window System の実行中に Red Hat® Enterprise Linux ® システムで警告メッセージを参照するには、イベント発生前に xconsole または xterm -C を起動する必要があります。X Window System の実行中に SUSE ® Linux Enterprise Server システムで警告メッセージを参照するには、イベント発生前に xterm -C を起動する必要があります。

イベントの警告処置を設定する場合、**メッセージをブロードキャスト**するように処置を指定できます。この処置を実行するために、Server Administrator はメッセージ権限が **はい** に設定された状態でログインしているユーザー全員にメッセージを送信する wall コマンドを実行します。Server Administrator で X Window System を実行している場合、デフォルトではそのメッセージが表示されません。X Window System の実行中にブロードキャストメッセージを表示するには、イベント発生前に xterm または gnome-terminal などのターミナルを起動する必要があります。To see the broadcast message

 **メモ:** SUSE Linux Enterprise Server (バージョン 9) では、wall が送信するメッセージは Konsole ターミナルプログラムではなく xterm ターミナルプログラムによって表示されます。

イベントの警告処置を設定する場合、**メッセージをブロードキャスト**するように処置を指定できます。Server Administrator が実行できるアプリケーションには制限があります。正しく実行するために、次のガイドラインに従ってください。

- 1 Server Administrator は X Window System ベースのアプリケーションを正しく実行できないため、この種類のアプリケーションは指定しないでください。
- 1 Server Administrator はユーザーからの入力が必要とするアプリケーションを正しく実行できないため、ユーザーからの入力が必要とするアプリケーションを指定しないでください。
- 1 出力やエラーメッセージが見えるように、アプリケーション指定時に、stdout と stderr をファイルにリダイレクトしてください。
- 1 複数のアプリケーション(またはコマンド)で警告を実行する場合、それを実行するスクリプトを作成し、その完全パスを**アプリケーションの絶対パス** ボックスに入力してください。

例 1:

```
ps -ef >/tmp/psout.txt 2>&1
```

例 1 のコマンドは、ps のアプリケーションを実行し、stdout を /tmp/psout.txt ファイルにリダイレクトして、stderr を stdout と同じファイルにリダイレクトします。

例 2:

```
mail -s "Server Alert" admin </tmp/alertmsg.txt >/tmp/mailout.txt 2>&1
```

例 2 のコマンドはメールアプリケーションを実行して、/tmp/alertmsg.txt ファイルに含まれているメッセージを Red Hat Enterprise Linux ユーザーまたは SUSE Linux Enterprise Server ユーザーまたはシステム管理者に**サーバー警告**という件名で送信します。イベントが発生する前に、ユーザーはファイル /tmp/alertmsg.txt を作成する必要があります。さらに stdout と stderr は、エラーが起きた場合、ファイル /tmp/mailout.txt にリダイレクトされます。

Microsoft Windows 2000、Windows Server 2003、Windows Server 2008 で警告処置を設定する

警告処置を指定するとき .cmd、.com、.bat、.exe ファイルを警告処置として実行できますが、Visual Basic スクリプトはアプリケーション実行機能によっては自動的に解釈されません。

この問題を解決するには、まずコマンドプロセッサ cmd.exe を呼び出して、スクリプトを起動します。たとえば、アプリケーションを実行する警告処置の値は次のようになります。

```
c:\winnt\system32\cmd.exe /c d:\example\example1.vbs
```

ここで、d:\example\example1.vbs はスクリプトファイルのフルパスです。

アプリケーションフィールドの絶対パス内ではインタラクティブアプリケーション(グラフィカルユーザーインターフェイスを持つアプリケーションまたはユーザー入力が必要とするアプリケーション)のパスは設定しないでください。一部のオペレーティングシステムではインタラクティブアプリケーションは予想通りに動作しないことがあります。

 **メモ:** cmd.exe ファイルとスクリプトファイルは両方共、フルパスを指定してください。

BMC プラットフォームイベントフィルタ警告メッセージ

使用可能なすべてのプラットフォームイベントフィルタ(PEF)メッセージと各イベントの説明を [表 11-1](#) に示します。

表 11-1 BMC PEF 警告イベント

イベント	説明
ファンロープエラー	ファンの稼働速度が遅すぎるかまったく稼働していません。

電圧プローブエラー	電圧が低すぎて適切な操作が行えません。
離散的電圧プローブエラー	電圧が低すぎて適切な操作が行えません。
温度プローブ警告	温度が高温、低温の限界に近づいています。
温度プローブエラー	温度が高すぎるか低すぎて適切な操作が行えません。
シャースイッチトリガーが検出されました	シャースイッチが開けられました。
冗長性(PS またはファン)が低下しています。	ファンおよび / または電源装置の冗長性が少なくなりました。
冗長性(PS またはファン)が低下しています。	システムのファンおよび / または電源装置の冗長性が残っていません。
プロセッサ警告	プロセッサがピークパフォーマンスまたは速度以下で実行されています。
プロセッサエラー	プロセッサが失敗しました。
PPS/VRM/DcToDc 警告	電源装置、電圧調整モジュールまたは DC ツー DC 変換機でエラー条件が保留になっています。
電源装置 / VRM/D2D エラー	電源装置、電圧調整モジュールまたは DC ツー DC 変換機が失敗しました。
ハードウェアログが一杯または空です。	ハードウェアログがいっぱいか空のため、システム管理者の注意が必要です。
自動システム回復	システムがハングしているか、応答しておらず、自動システム回復によって設定された処置を実行しています。

サービス名を理解する

次のサービスのサービス実行ファイルおよび表示名が変更されました。

表 11-2 サービス名

目的	サービス名	旧リリース	現在のリリース
Web Server			
	表示名	セキュリティ保護されたポートサーバー	DSM SA 接続サービス
	実行ファイル名	Omaws[32 64]	dsm_om_connsvc[32 64]
			dsm_om_connsvc
スケジュールまたは通知			
	表示名	OM 一般サービス	DSM SA 共有サービス
	実行ファイル名	Omsad[32 64]	dsm_om_shrsvc[32 64]
			dsm_om_shrsvc

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

トラブルシューティング

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [対応 Windows オペレーティングシステムで Server Administrator のインストールエラーを修正する](#)
- [OpenManage Server Administrator サービス](#)

対応 Windows オペレーティングシステムで Server Administrator のインストールエラーを修正する

再インストールを強制し、Server Administrator のアンインストールを実行することによりインストールエラーを修正することができます。

再インストールを強制するには:

1. 過去にインストールされた Server Administrator のバージョンを検索します。
2. そのバージョンのインストールパッケージを Dell? サポートサイト support.dell.com からダウンロードします。
3. `srvadmin\windows\SystemManagement` ディレクトリから `SysMgmt.msi` を指定します。
4. コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、再インストールを強制します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vamus
```

5. **カスタムセットアップ** を選択し、すでにインストールされている機能をすべて選択します。どの機能がインストールされているかかでない場合は、すべての機能を選択してからインストールを実行します。

 **メモ:** Server Administrator をデフォルトでないディレクトリにインストールしている場合は、必ず**カスタムセットアップ**においてもこれを変更するようにしてください。

6. アプリケーションがインストールされた後、プログラムの追加と削除機能を使って Server Administrator をアンインストールすることができます。

OpenManage Server Administrator サービス

この表には、システム管理情報を提供するために OMSA で使用されるサービスとこれらのサービスの失敗による影響を示します。

表 A-1

サービス名	説明	失敗の影響	回復の仕組み	重大度
Windows: DSM SA 接続サービス Linux: dsm_om_connsvc	対応ウェブブラウザとネットワーク接続を持つどのシステムからでも OMSA にリモート / ローカルアクセスが可能です。	対応ウェブブラウザとネットワーク接続を持つどのシステムからでも OMSA にリモート / ローカルアクセスが可能です。	再起動サービス	重要
共通サービス				
Windows: DSM SA 共有サービス Linux: dsm_om_shrsvc	起動時にインベントリコレクタを実行して、OMSA の SNMP と CIM プロバイダが Dell System Management Console と Dell IT Assistant (ITA) を使ってリモートソフトウェアアップデートを行うために消費するシステムソフトウェアのインベントリを実行します。	ソフトウェアアップデートは ITA を使って行うことはできません。ただし、個々の Dell アップデートパッケージを使って OMSA のローカルおよび外部でアップデートを行うことはできます。アップデートはサードパーティツール (MSSMS、Altiris、Novell ZENworks など) を使って行うことができます。	再起動サービス	警告
計装サービス				
Windows: DSM SA データマネージャ Linux: dsm_sa_datamgr32d (dataeng サービス下でホスト)	システムの監視、詳細なエラーとパフォーマンス情報への迅速なアクセスの提供、シャットダウン、起動、セキュリティを含む監視下システムのリモート管理の許可。	ユーザーはこれらのサービスを実行することなく GUI/CLI 上でハードウェアレベルの詳細を設定、表示することはできません。	再起動サービス	重要
DSM SA イベントマネージャ (Windows) Linux: dsm_sa_eventmgr32d (dataeng サービス下でホスト)	OS とし捨てん管理用のファイルイベントログサービスを提供し、イベントログアナライザによっても使用されます。	このサービスが停止されると、イベントログ機能は正しく動かなくなります。	再起動サービス	警告
Linux: dsm_sa_snmp32d (dataeng サービス下でホスト)	データエンジン Linux SNMP インタフェース	SNMP get/set /trap 要求は管理ステーションからは実行できません。	再起動サービス	重要

ストレージ管理サービス				
Windows: mr2kserve	ストレージ管理サービスはストレージ管理情報と、システムに接続されたローカルまたはリモートストレージを設定するための高度な機能を提供します。	ユーザーはサポートされているすべての RAID および非 RAID コントローラのストレージ機能を実行するわけではありません。	再起動サービス	重要
リモートアクセスコントローラサービス				
Windows: リモートアクセス コントローラ (RAC) サービス Linux: racsrv	AC サービスは、PPP 接続とプロセスの作成 / 監視に使用します。 RAC ファームウェアから非同期で受信した RAC イベント。	サービスが実行されていないと、ファームウェアからのイベントは処理されません。コンソールはリダイレクトできません。RAC カード上のファームウェアはローカル racadm ユーティリティを使ってアップグレードできません。しかしながら、アップデートはリモート racadm ユーティリティまたはフロッピーディスクを使って実行できます。	再起動サービス	重要
Windows: RAC Win VNC サービス Linux: racXvnc	このサービスはリモートユーザーへのコンソールのリダイレクトに使用します。	コンソールはリダイレクトできません。	再起動サービス	警告
Linux: racser	RAC カードへの Point to Point (PPP) 接続を確立します。	コンソールはリダイレクトできません。RAC カード上のファームウェアは racadm ユーティリティを使ってアップグレードできません。 しかしながら、アップデートはリモート racadm ユーティリティまたはフロッピーディスクを使って実行できます。	再起動サービス	重要
リモートアクセスコントローラサービス (RIALTO)				
Windows: リモートアクセス コントローラ 4 (RAC4) Linux: Racsvc	RAC サービスは主として RAC 仮想 UART 経由での SPCMP シリアルメッセージの処理に使用し、ファームウェアから非同期で受信した RAC イベントを処理します。	サービスが実行されていないと、ファームウェアからのイベントは処理されません。ユーザーはローカル racadm を使用して DRAC を設定できません。RAC カード上のファームウェアはローカル racadm ユーティリティを使ってアップグレードできません。 ただし、アップグレードや設定はリモート racadm ユーティリティを使って実行できます。フロッピーディスクユーティリティを使ってファームウェアのフラッシュを行うこともできます。	再起動サービス	重要

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズ ガイド

以下に、システムドキュメントで使用される技術用語、略語、頭字語の定義を示します。

ACL

アクセス制御リストの略語。ACL ファイルは、Novell® Web Server に保管されているリソースに誰がアクセスできるかを定義するリストが入ったテキストファイルです。

ADB

割り当てデータベース (assign database) の略語。

AGP

アドバンスドグラフィックスポート (Advanced Graphics Port) の略語。

ASIC

特定用途向け内蔵回路 (Application-Specific Integrated Circuit) の頭字語。

ASPI

高機能 SCSI プログラミングインタフェース (Advanced SCSI programming interface) の頭字語。

autoexec.bat ファイル

コンピュータを起動すると、`config.sys` ファイル内のコマンドが実行された後で、`autoexec.bat` ファイル内のコマンドが実行されます。起動ファイルには、コンピュータに接続されている各デバイスの特定を定義するコマンドが入っており、アクティブディレクトリ以外のディレクトリにあるプログラムを検索して実行します。

BGA

システムボードへの接続にピンではなく底面に並ぶ球状のハンダを使用する集積回路 (IC) パッケージであるボールグリッドアレイ (Ball Grid Array) の略語。

BMC

ベースボード管理コントローラの省略。このコントローラは IPMI 構造にインテリジェンスを提供します。

bpi

インチあたりのビット数 (bits per inch) の略語。

bps

秒あたりのビット数 (bits per second) の略語。

BTU

英国熱量単位 (British thermal unit) の略語。

CA

証明機関 (Certification authority) の略語。

CDRAM

キャッシュ DRAM の略語。三菱によって開発された、小さい SRAM キャッシュを含む高速 DRAM メモリチップ。

CHAP

Challenge-Handshake Authentication Protocol の略語。PPP サーバーが使用している認証スキームで、接続時またはそれ以降に、接続元の一致を確認します。

CI/O

完全入出力 (Comprehensive input/output) の略語。

CIM

DMTF からの管理情報について説明したモデル、Common Information Model の頭字語。CIM は実装に依存しないため、異なる管理アプリケーションでさまざまなソースから必要なデータを収集できます。CIM にはシステム、ネットワーク、アプリケーションおよびデバイスのスキーマが含まれ、新しいスキーマが追加されます。CIM にはシステム、ネットワーク、アプリケーション、およびデバイスのスキーマが含まれ、新しいスキーマが追加されます。

CIMOM

Common Information Model Object Manager の略語。

CLI

コマンドラインインタフェース (Command Line Interface) の略語。

CMC

シャーシ管理 コントローラの頭字語

CMOS

相補形金属酸化膜半導体 (Complementary metal-oxide semiconductor) の略語。システムでは、NVRAMストレージにCMOSメモリチップが使われます。

COMn

コンピュータ上にある 1 ~ 4 番目のシリアルポートのデバイス名は、COM1、COM2、COM3、COM4 です。COM1 と COM3 のデフォルト割り込みは IRQ4、COM2 と COM4 のデフォルト割り込みは IRQ3 です。したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときには、割り込みのコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

config.sys ファイル

コンピュータを起動すると、(autoexec.bat ファイルのコマンドが実行される前に) config.sys ファイルが実行されます。この起動ファイルには、インストールするデバイスや使用するドライバを指定するコマンドが含まれます。このファイルには、オペレーティング システムのメモリ使用方法とファイル管理方法を決定するコマンドが含まれます。

ConsoleOne

Novell ConsoleOne は、Java ベースのグラフィカルユーティリティの基盤で、異なる場所やプラットフォームからのネットワークリソースを管理します。ConsoleOne では、Novell およびすべての外部製品を一ヶ所で管理することができます。

COO

所有コスト (Cost Of Ownership) の略語。

cpi

インチあたり文字 (characters per inch) の略語。

CRC

周期冗長検査コード (Cyclic redundancy code) の略語。破損を検出するために、データのブロックから取り出し、保存、または転送される数値。CRC を再計算して元転送された値と比較することによって、転送エラーの種類を検出できます。

CSR

認証署名要求 (Certificate signing request) の略語。

DAT

デジタルオーディオテープ (Digital Audio Tape) の略語。

dB

デシベル (decibel) の略語。

dBA

補正デシベル (adjusted decibel) の略語。

DBS

Demand Based Switching の略語。DBS は、プロセッサの使用率が低いときに低電力状態 (周波数と電圧) に切り替えて電源管理を行うことです。アプリケーションのパフォーマンスを犠牲にすることなく、システムの平均消費電力を節約します。

DHCP

ダイナミックホスト設定プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol) の略語。このプロトコルは IP アドレスをローカルエリアネットワーク (LAN) のコンピュータに動的に割り当てる手段を提供します。

DIMM

デュアルインラインメモリモジュール (Dual in-line memory module) の略語。DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

ドイツ工業規格である Deutsche Industrie Norm の頭字語。DIN コネクタは、DIN によって定義された多くの標準に従うコネクタです。DIN コネクタは、パソコンで幅広く使用されています。たとえば、PC のキーボードコネクタは DIN コネクタです。

DIP

デュアルインラインパッケージ (dual in-line package) の頭字語。システム基板や拡張カードなどの回路基板には、回路基板を設定するための DIP スイッチが含まれている場合があります。DIP スイッチは常にオンとオフの切り替えスイッチです。

DKS

ダイナミックカーネルサポート (Dynamic kernel support) の略語。

DMA

ダイレクトメモリアccess (direct memory access) の略語。DMA チャネルを使うと、RAM とデバイス間の特定の種類のデータ転送を行ってマイクロプロセッサをバイパスできます。

DMTF

ハードウェアとソフトウェアのプロバイダを代表する協会、Distributed Management Task Force の略語。

dpi

インチあたりドット (dots per inch) の略語。

DPMS

ディスプレイ電力管理信号 (Display Power Management Signaling) の略語。モニタの電力管理状態をアクティブにするために、ビデオコントローラが送信するハードウェア信号を定義する Video Electronics Standards Association (VESA®) によって作成された標準。DPMS 準拠のモニタは、システムのビデオコントローラから特定の信号を受信して省電力モードになるように設計されています。

DRAC 4

Dell™ Remote Access Controller 4 の頭字語。

DRAC 5

Dell™ Remote Access Controller 5 の頭字語。

DRAC II

Dell OpenManage™ Remote Assistant Card II の頭字語。

DRAC III

Dell Remote Access Controller III の頭字語。

DRAC III/XT

Dell Remote Access Card III/XT の頭字語。

DRAM

ダイナミックランダムアクセスメモリ (Dynamic random-access memory) の頭字語。通常、システムの RAM は DRAM チップのみで構成されます。DRAM チップは無限に充電状態を保存できないため、システムは各 DRAM チップを継続的にリフレッシュします。

DSM SA 接続サービス

Dell Systems Management Server Administration の頭字語。HTTPS プロトコルを使って、ウェブページをウェブブラウザで表示可能にするアプリケーション。「[ウェブサーバー](#)」を参照してください。

DTE

データ端末装置 (Data terminal equipment) の略語。コンピュータシステムのように、ケーブルまたは通信回線を使ってデジタル形式でデータを送信できるデバイス。DTE は、モデムのようなデータ通信機器 (DCE) デバイスを使って、ケーブルまたは通信回線に接続されます。

ECC

誤り検出訂正 (Error checking and correction) の略語。

ECP

拡張機能ポート (Extended Capabilities Port) の略語。

EDO

拡張データ出力ダイナミックランダムアクセスメモリ (Extended data output dynamic random access memory) の略語。従来方式の DRAM より高速な DRAM です。EDO RAM は前のブロックを CPU に送信すると同時に次のメモリのブロックを取り込むことができます。

EEPROM

電氣的消去可能な PROM (Electrically erasable programmable read-only memory) の略語。

EIDE

Enhanced Integrated Drive Electronics の略語。EIDE デバイスは、従来の IDE 標準に、1 つ以上の次の拡張機能を提供します。

- 1 最大 16 MB / 秒のデータ転送レート。
- 1 CDDドライブやテープドライブなどのハードドライブ以外のドライブもサポート
- 1 528 MB 以上の容量を持つハードドライブをサポート。
- 1 2 つのデバイスを接続したコントローラを最大 2 つまでサポート。

EISA

32 ビット拡張バスデザインである拡張業界標準アーキテクチャ (Extended Industry-Standard Architecture) の略語。EISAシステムの拡張カードコネクタは、8ビットまたは16ビットのISA拡張カードとの互換性もあります。

EISA 拡張カードをインストールするときに設定コンフリクトを回避するには、EISA コンフィグレーション ユーティリティを使用する必要があります。このユーティリティは、どの拡張スロットにカードを入れるか指定し、対応する EISA 設定ファイルからカードの必要システムリソース情報を取得します。

EMC

電磁環境適合性 (Electromagnetic Compatibility) の略語。

EMI

電磁妨害 (Electromagnetic interference) の略語。

EMM

拡張メモリマネージャ (Expanded memory manager) の略語。Intel386? 以上のマイクロプロセッサで拡張メモリをエミュレートする拡張メモリを使用するユーティリティ。

EMS

拡張メモリ仕様 (Expanded Memory Specification) の略語。

EPP

双方向データ転送を向上させる拡張パラレルポート (Enhanced Parallel Port) の略語。ネットワークや SCSI アダプタなど、ノートブックコンピュータのパラレルポートに接続する多くのデバイスはこの EPP 標準を利用するように設計されています。

EPROM

消去可能 PROM (erasable programmable read-only memory) の略語。

ERA

埋め込みリモートアクセス (Embedded Remote Access) の略語。

ERA/MC

埋め込みリモートアクセスモジュラーコンピュータ (Embedded Remote Access Modular Computer) の略語。 [モジュラーシステム](#)を参照してください。

ERA/O

埋め込みリモートアクセス (Embedded Remote Access) の略語。

ESD

静電気放電 (Electrostatic discharge) の略語。

ESM

埋め込みシステム管理 (Embedded systems management) の略語。

F

華氏の省略。

FAT

ファイル割り当てテーブル (File allocation table) の頭字語。 FAT と FAT32 は次のように定義されるファイルシステムです。

- 1 **FAT** - MS-DOS、Windows 3.x、Windows 95、および Windows 98 で使用されるファイルシステム。 Windows NT® および Windows 2000も、FAT ファイルシステムを使うことができます。オペレーティングシステムはテーブルを維持して、ファイルストレージに使用されているディスクスペースにある多数のセグメントのステータス情報を整理します。
- 1 **FAT32** - FAT ファイルシステムから派生した形式。 FAT32 では FAT より小さいクラスタサイズをサポートするため、FAT32 ドライブをより効率的に割り当てます。

FCC

連邦通信委員会 (Federal Communications Commission) の略語。

FEPRM

フラッシュ消去可能 PROM (Flash Erasable Programmable Read-Only Memory) の略語。フラッシュメモリはEEPROMに似た非揮発性ストレージ デバイスの一種ですが、消去がブロックまたはチップ全体単位で行われます。

FPBGA

フィールドプログラム可能ゲート配列 (Field Programmable Gate Array) の略語。高いゲート密度を持ったプログラム可能ロジックチップ (PLD)。

FRU

フィールド置換可能ユニット (Field Replaceable Unit) の略語。

FTP

ファイル転送プロトコル (File transfer protocol) の略語。

G

重力の略語。

gcc

Gnu C コンパイラ (Gnu C Compiler) の略語。

GUI

グラフィカルユーザインタフェース (Graphical user interface) の頭字語

h

16 進法 (Hexadecimal) の略語。基本の 16 進数システムは、システムの RAM やデバイスの I/O メモリのアドレスを識別するためにプログラミングでよく使用されます。たとえば、0 ~ 16 の 10 進数のシーケンスは、16 進数では 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10 の表記で表します。テキストでは 16 進数には h がつくことがよくあります。

HBA

ホストバスアダプタ (Host bus adapter) の略語。システムに常駐する PCI アダプタカード。その唯一の機能は、データコマンドを PCI バスフォーマットからストレージ相互接続フォーマット (例: SCSI、ファイバチャネル) に変換して、ハードドライブ、テープドライブ、CD ドライブ、その他のストレージデバイスと直接通信することです。

HMA

ハイメモリ領域 (high memory area) の略語。1 MB を超える拡張メモリの最初の 64 KB を指します。XMS に準拠するメモリマネージャは、コンベンショナルメモリの直接的な拡張領域として HMA を使用することができます。XMM を参照。

HPFS

Windows NTオペレーティングシステムの、高性能ファイルシステム (High Performance File System) オプションの略語。

HTTP

ファイル転送プロトコル (File transfer protocol) の略語。HTTP は Web 上で HTML 文書のやり取りに使用されるクライアントサーバー TCP/IP プロトコルです。

HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル、セキュリティ (HyperText Transmission Protocol, Secure) の略語。HTTPS は HTTP のセキュリティ強化版で、ウェブブラウザがセキュリティ保護されたトランザクションを処理するのに使用されます。HTTPS は、SSL が HTTP 下にある固有のプロトコルです。HTTP URL で SSL を持つものには「https://」を、SSL のない HTTP URL には引き続き「http://」を使用する必要があります。

Hz

ヘルツ (Hertz) の略語。

I/O

入出力 (input/output) の略語。キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 処理は計算処理とは区別されます。たとえばプログラムが文書をプリンタに送信すると、プリンタは出力作業を行います。一方、プログラムが用語を並べ替える作業はコンピュータ計算作業と考えられます。

ICES

カナダ標準機構、Interference-Causing Equipment Standard の略語。

ICMP

Internet Control Message Protocol の略語。ICMP は TCP/IP プロトコルで、エラーメッセージと制御メッセージの送信に使用されます。

ICU

ISA コンフィグレーションユーティリティの略語。

ID

身分証明 (Identification) の略語。

IDE

Integrated Drive Electronics の略語。IDE は、ハードドライブや CD で主に使用されているコンピュータシステムインタフェースです。

iDRAC

Integrated Dell Remote Access Controller の頭字語。

IHV

独立ハードウェアベンダ (Independent hardware vendor) の略語。IHV はしばしば、製造するコンポーネント用に独自の MIB を開発します。

IP アドレス

インターネットプロトコルアドレス (Internet protocol address) の略語。「TCP/IP」を参照してください。

IPMI

Intel アーキテクチャに基づいた企業用コンピュータの周辺機器管理の業界標準であるインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (Intelligent Platform Management Interface) の略語。IPMI の主な特徴は、インベントリ、モニタ、ログおよび回復制御機能が、メインのプロセッサ、BIOS、およびオペレーティングシステムと関係なく提供されていることです。

IPX

Internetwork Packet EXchange の略語。

IRQ

割り込み信号 (Interrupt request) の略語。周辺デバイスによってデータ送受信される信号は、IRQ 回線を通じてマイクロプロセッサに送られます。各周辺接続には IRQ 番号が割り当てられる必要があります。たとえば、システムの最初のシリアルポート (COM1) はデフォルトで IRQ4 に割り当てられます。2 つの機器が同じ IRQ 番号を共有することはできませんが、両方の機器を同時に動作させることはできません。

ISA

業界標準アーキテクチャ (Industry-Standard Architecture) の頭字語。16 ビット拡張バスのデザイン。ISAシステムの拡張カードコネクタは、8ビットのISA拡張カードとの互換性もあります。

iSCSI

インターネット SCSI の頭字語。データストレージ機能にリンクする IP ベースストレージネットワーク基準。IP ネットワーク上に SCSI コマンドを実行すると、iSCSI を使用して、インターネット上のデータ転送および離れた場所のストレージの管理が行われます。

ISV

独立ソフトウェアベンダ (Independent software vendor) の略語。

ITE

情報技術機器 (Information technology equipment) の略語。

Java

Sun Microsystems によって開発されたクロスプラットフォームのプログラミング言語。

JSSE

Java Secure Socket Extension の略語。

K

キロの略語。1000 の単位。

KB

キロバイト (kilobyte) の略語。1 KB は1024 バイトに相当します。

Kbit(s)

キロビット (kilobit) の略語。1 Kbit は 1024 ビットに相当します。

Kbit(s)/sec

秒あたりのキロビット (kilobits per second) の略語。

Kerberos

ネットワーク認証プロトコル。秘密鍵暗号を用いて、クライアント / サーバーアプリケーションのための強固な認証システムを提供するように設計されています。

kHz

キロヘルツ (kilohertz)。1 kHz は 1000 ヘルツに相当します。

LAN

ローカルエリアネットワーク (local area network) の頭字語。LAN システムは、LAN 専用回線によってすべての機器をつなぐため、通常、同じ建物か近くのいくつかの建物間に限られています。

LCC

鉛または無鉛のチップキャリア (leaded or leadless chip carrier) の略語。

LDAP

軽量ディレクトリアクセスプロトコル (Lightweight Directory Access Protocol) の略語。TCP/IP 上で実行しているディレクトリサービスを検索したり、変更したりするためのネットワークプロトコル。

LED

発光ダイオード (light-emitting diode) の略語。電流が流れると点灯する電子部品です。

LIF

Low insertion force の略語。一部のシステムでは、LIF ソケットやLIFコネクタを使用して、デバイス (マイクロプロセッサチップなど) の取り付けや取り外しをおこなうときに、デバイスにかかる圧力を最小限に抑えています。

LOM

LOM on Motherboard (マザーボード上のLOM) の略語。

LPTn

システム上にある1～3番目のパラレルポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、LPT3です。

LRA

ローカルレスポンスエージェント (local response agent) の略語。

mA

ミリアンペアの略語。

mAh

ミリアンペア時 (milliampere-hour) の略語。

Mb

メガビット (megabit) の略語。

MB

メガバイト (megabyte) の略語。1 メガバイトは 1,048,576 バイトです。ただし、ハードディスクドライブの容量を表すときには、1 MB = 1,000,000 バイトを意味する場合があります。

MB/sec

1秒あたりのメガバイト数 (megabyte (s) per second) の略語。

Mbps

1秒あたりのメガビット数 (megabits per second) の略語。

MBR

マスタブートレコード (master boot record) の略語。

MCA

マルチプロセッシング用に設計されたマイクロチャネルアーキテクチャ (Micro Channel Architecture) の略語。MCA は新しい周辺デバイスを取り付けるときに発生する可能性のあるコンフリクトをなくします。MCA は EISA または XT バス アーキテクチャとは互換性がないため、古いカードと一緒に使用することはできません。

MHz

メガヘルツ (megahertz) の略語。

MIB

管理情報ベース (management information base) の頭字語。MIB を使用して、SNMP管理デバイスに状態/コマンドの詳細を送受信します。

MIDI

楽器用デジタルインタフェース (musical instrument digital interface) の略語。

MOF

Managed Object Format の頭字語。これは ASCII ファイルで、CIM スキーマの正式な定義が含まれます。

MPEG

Motion Picture Experts Group の頭字語。MPEG はデジタルビデオファイルのフォーマットです。

ms

ミリ秒 (millisecond) の略語。

MS-DOS

Microsoft Disk Operating System (マイクロソフトディスクオペレーティングシステム)

MTBF

平均故障間隔 (mean time between failures) の略語。

mV

ミリボルト (millivolt) の略語。

NDIS

Network Driver Interface Specification の略語。

NIC

network interface controller の頭字語。

NIF

network interface function の頭字語。この用語は NIC と同義です。

NIS

情報技術機器 (network Information system) の略語。NISは、小規模ネットワーク用のネットワーク命名および管理システムです。すべてのホストのユーザーが、1 つのユーザー ID およびパスワードで、ネットワーク内にあるすべてのホスト上のファイルまたはアプリケーションにアクセスすることができます。

NMI

マスク不可能割り込み (nonmaskable interrupt) の略語。デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラー (パリティエラーなど) をマイクロプロセッサに知らせます。

ns

nanosecond (ナノ秒)。10 億分の 1 秒。

NTFS

NT File System (NTファイルシステム)。Windows NTオペレーティングシステムのオプションです。NTFS は、Windows NT オペレーティング システム内で使用するよう特別に設計された高度なファイルシステムです。ファイルシステムの回復、大きなストレージ メディア、および長いファイル名をサポートしています。また、ユーザー定義アトリビュートとシステム定義アトリビュートを使ってすべてのファイルをオブジェクトとして処理することにより、オブジェクト指向のアプリケーションもサポートしています。FAT と FAT32 も参照してください。

NTLM

Windows NT LAN Manager の略語。NTLM は、Windows NT オペレーティング システムのセキュリティ プロトコルです。

NuBus

Apple Macintosh パーソナル コンピュータで使用される専用拡張バス。

NVRAM

不揮発性ランダムアクセスメモリ (nonvolatile random-access memory) の略語。コンピュータの電源を切っても情報が失われないメモリです。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

OID

object identifier の略語。オブジェクトを一意に識別する、実装固有の整数またはポインタ。

OSWDT

オペレーティングシステムウォッチドッグタイマー (Operating System Watch Dog Timer) の略語。watch dog timer は、システムのハードウェアのタイミングデバイスであり、オペレーティングシステムは応答しない場合、システムをリセットするようにトリガーします。

OTP

一回限りプログラム可能 (one-time programmable) の略語。

PAM

Pluggable Authentication Modules の頭字語 PAM を使うと、システム管理者は認証プログラムをコンパイルし直さずに、認証ポリシーを設定することができます。

PC カード

クレジットカードサイズの取り外し可能なモジュールで、PCMCIA によって標準化されたノートブックコンピュータで使用します。「PCMCIA」カードとも呼ばれます。PC カードは、ノートブックコンピュータにモデム、ネットワークアダプタ、サウンドカード、ラジオトランシーバ、固体ディスクおよびハードディスクを取り付けるのに使用される 16 ビットデバイスです。PC カードはカードサービス ソフトウェアで自動的に設定される「プラグアンドプレイ」デバイスです。

PCI

周辺機器相互接続 (Peripheral Component Interconnect) の略語。PCI は、Intel Corporation が開発した 32 ビット、または 64 ビットのローカルバス規格です。

PCMCIA

Personal Computer Memory Card International Association の略語。ノートブックコンピュータに接続できるモデムや外付けハードドライブなどのデバイスの規格を作成した国際通商協会。

PERC

Expandable RAID controller の頭字語。

PGA

pin grid array の略語。マイクロプロセッサチップの取り外しが可能なマイクロプロセッサ ソケット。

PIC

プログラム可能割り込み信号コントローラ (programmable interrupt controller) の頭字語。

PIP

周辺交換プログラム (peripheral interchange program) の頭字語。

PKCS #7

公開鍵暗号標準 (Public Key Cryptography Standard) #7 の略語。PKCS #7 は、認証チェーンなどの署名データをカプセル化した、RSA Data Security, Inc. の標準です。

PKIS

Novell Public Key Infrastructure Services の略語。

PLCC

プラスチック有鉛チップキャリア (plastic leaded chip carrier) の略語。

PME

電力管理イベント (Power Management Event) の略語。PME は、PCI デバイスがウェイク イベントを判断できるようにする周辺機器相互接続上のピンです。

POST

電源投入時自己診断 (power-on self-test) の頭字語。システムの電源が入ると、オペレーティングシステムをロードする前に、POST が RAM、ディスクドライブ、キーボードなどの様々なシステムコンポーネントをテストします。

ppm

1分あたりのページ数 (pages per minute) の略語。

PPP

Point-to-Point Protocol の略語。

PQFP

plastic quad flat pack の略語。マイクロプロセッサチップが固定されて取り外しできないマイクロプロセッサソケット。

PS

電源装置 (power supply) の略語。

PS/2

Personal System/2 の略語。

PXE

Preboot eXecution Environmentの略語。

QFP

クワッドフラットパック (quad flat pack) の略語。

RAC

Remote Access Controller の頭字語。

RAID

redundant array of independent disks。

RAM

ランダムアクセスメモリ (random-access memory) の略語。プログラムの命令やデータの保存に使用される主要な一時記憶領域。RAM 内部の各領域は、メモリアドレスと呼ばれる数値によって識別されます。コンピュータの電源を切ると、RAM に保存されている情報はすべて失われます。

RAMDAC

ランダムアクセスメモリデジタルアナログコンバータ (random-access memory digital-to-analog converter) の頭字語。

RAW

未処理。この用語は、I/O デバイスに未解凍で渡されるデータを指します。逆にクックド (cooked) というと、I/O デバイスに渡される前に処理されたデータを指します。しばしば、専用のフォーマットに保存されていない非圧縮テキストを指すこともあります。この用語は、端末へのデータ出力のクックドモードとローモードをサポートする UNIX から来ています。

RBAC

Role-based access control の略語。

RDRAM

Rambus DRAM の頭字語。Rambus, Inc. の DRAM チップテクノロジー ダイレクト RDRAM がコンピュータに使用されています。ダイレクト RDRAM チップは RIMM モジュールにあります。これは DIMM に似ていますが、ピン設定が異なります。チップをデュアル チャンネルで作成して、転送レートを 2 倍の 3.2 GB/sec にすることができます。

readme ファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属しているテキストファイル。そのソフトウェアまたはハードウェアに関する補足情報やマニュアルのアップデートが入っています。通常、readme ファイルには、インストール情報、新製品の拡張機能、マニュアルに記載されていない訂正事項、確認されている問題点など、その製品を使用する際に必要な情報が入っています。

RFI

無線周波数干渉 (radio frequency interference) の略語。

RGB

赤 / 緑 / 青 (red/green/blue) の略語。

RIMM

Rambus In-line Memory Module の略語。Rambus の DIMM モジュールに相当します。

RMI

Remote Method Invocation の略語。Java プログラミング言語ライブラリの一部。これで、1 つのシステムで実行中の Java プログラムが、別のシステムで実行中の他の Java プログラムのオブジェクトとメソッドにアクセスできます。

ROM

読み取り専用メモリ (read-only memory) の頭字語。コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。RAMとは違って、コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。ROM コードの例として、コンピュータのブートルーチンと POST を起動するプログラムなどが挙げられます。

rpm

1分あたりの回転数 (revolutions per minute) の略語。

RPM

Red Hat® Package Manager の略語。

RTC

リアルタイムクロック (real-time clock) の略語。システム内部にあるバッテリーで動く時計回路で、システムの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

SAN

ストレージエリアネットワーク (storage area network) の頭字語。

SAS

セキュア認証サービス (Secure Authentication Services) またはシリアル付き SCSI (Serial-attached SCSI) の頭字語。セキュリティプロトコルまたは認証について言及している場合、SAS はセキュア認証サービスを意味します。細径ケーブルでのデジタルデータ転送にシリアル (1 回につき 1 ビット) 方法を使用するコンピュータ周辺機器について言及している場合、SAS は、シリアル付き SCSI を意味します。

SCA

single connector attachment の略語。

schema

特定環境における管理オブジェクトを説明したクラス定義の集まり。CIM スキーマは各管理環境に共通した管理オブジェクトを表すのに使用するクラス定義の集まりです。CIM が共通情報モデル (Common Information Model) と呼ばれるのはこのためです。

SCSI

小型コンピュータシステムインタフェース (small computer system interface) の頭字語。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つ I/O バスインタフェース。1 つの SCSI インタフェースに最大 7 個 (新しい SCSI タイプによっては 15 個) のデバイスを接続できます。

SDMS

SCSI デバイス管理システム (SCSI device management system) の略語。

sec

秒 (second) の略語。

SEC

単一エッジコンタクト (single-edge contact) の略語。

SEL

システムイベントログ (system event log) の略語。

SGRAM

synchronous graphics RAM の頭字語。

SIMD

Single Instruction Multiple Data の略語。

SIMM

single in-line memory module の頭字語。DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

SIP

single in-line package の頭字語。接続ピンが一方から突き出た電子コンポーネントのハウジングの一種。SIP は、シングルインラインピンパッケージ (Single In-line Pin Package-SIPP) とも呼ばれます。

SKU

stock keeping unit の頭字語。

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology。ハードディスクドライブにエラーや障害があった場合に、システム BIOS が報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART 準拠のハードディスクドライブおよびシステム BIOS のサポートが必要です。

SMBIOS

system management BIOS の頭字語。

SMD

表面取り付けデバイス (surface mount device) の略語。

SMTP

Simple Mail Transfer Protocol の略語。

SNMP

シンプルネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol) の略語。一般的なネットワーク管理 / モニタプロトコルである SNMP は、元来の TCP/IP プロトコルスイートの一部です。SNMP は、ネットワークサーバーやルータなど異なるネットワークデバイスについての重要な情報を管理アプリケーションに送る形式を提供します。

SODIMM

small outline-DIMM の頭字語。TSOP チップパッケージの使用により、薄型プロファイルを持つ DIMM モジュール。SODIMM は一般にノートブックコンピュータで使用されます。

SOIC

Small Outline IC の略語。SOIC は小型でプラスチックの長方形の面実装チップパッケージで、外側に伸びたガルウィング型のピンを使用します。

SOJ

small outline package J-lead の略語。小型でプラスチックの長方形の面実装チップパッケージで、2 つの長い側面に J 字型のピンが付いています。

SRAM

静的ランダムアクセスメモリ (static random-access memory) の略語。SRAM チップは定期的なリフレッシュを必要としないため、DRAM チップよりかなり高速です。

SSL

secure socket layer の略語。

SVGA

super video graphics array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニターが必要です。同様に、プログラムが表示可能な表示色数は、モニターの性能、ビデオドライバ、およびビデオメモリの量によって決まります。

system.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、system.ini ファイルが参照されて、Windows 動作環境の各種オプションが設定されます。system.ini ファイルには、Windows 用にインストールされているビデオ、マウス、キーボードのドライバの種類に関する情報などが記録されています。

コントロールパネルまたは Windows セットアッププログラムを実行すると、system.ini ファイルのオプションを変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で system.ini ファイルのオプションの変更や追加をおこなう必要があります。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略語。実行中の Windows と UNIX など、異なるシステムを含むコンピュータ ネットワークで情報を転送するシステム。

TFTP

Trivial File Transfer Protocol の略語。TFTP は TCP/IP FTP プロトコルのバージョンの 1 つで、ディレクトリ機能もパスワード機能もありません。

tpi

1 インチあたりのトラック数 (tracks per inch) の略語。

TPM

Trusted Platform Module の頭字語

TQFP

薄型クワッドフラットパック (thin quad flat pack) の略語。

TSOP

thin small outline package の略語。超薄型でプラスチックの長方形の面実装型チップパッケージで、2 つの短い側面にガルウイング型のピンが付いています。

TSR

メモリ常駐 (terminate-and-stay-resident) の略語。TSRプログラムは、「バックグラウンド」で実行されます。ほとんどの TSRプログラムには特定のキーコンビネーション (「ホットキー」ともいう) が組み込まれており、別のプログラムを実行している間に TSRプログラムのインタフェイスを起動することができます。TSR プログラムを使い終わったら、元のアプリケーションプログラムに戻り、TSR プログラムをメモリに常駐させて後で再使用することができます。TSR プログラムは、メモリ コンフリクトを引き起こす場合があります。トラブルシューティングを行うときは、TSR プログラムを起動しない状態でコンピュータをリブートして、このようなメモリコンフリクトの可能性を除外してください。

UART

Universal asynchronous receiver transmitter の頭字語。シリアルポートを構成する電子回路。

UDP

User datagram protocol の略語。

UL

Underwriters Laboratories の略語。

UMB

上位メモリブロック (upper memory block) の略語。

unicode

固定幅の 16 ビット文字エンコード。Unicode Consortium によって開発され、維持されている。

UPS

無停電電源装置 (Uninterruptible power supply) の略語。電気的な障害が発生した場合に、システムの電源が切れないようにするための バッテリー電源ユニットです。

URL

Uniform Resource Locator (以前の名称は Universal Resource Locator) の略語。

USB

Universal Serial Bus の略語。USB コネクタは、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。また、USB デバイスはシステムの 実行中に取り付けたり取り外したりすることができます。

UTP

unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア) の略語。

UUID

ユニバーサル固有識別 (Universal Unique Identification) の略語。

V

ボルトの略語。

VAC

ボルト交流 (volt(s) alternating current) の略語。

varbind

オブジェクト識別子 (OID) の割り当てに使用されるアルゴリズム。varbind は、企業を一意に識別する 10 進数接頭辞に到達する規則を提供するとともに、その企業の MIB で定義されるオブジェクトの一意 ID を指定する数式も提供します。

VCCI

Voluntary Control Council for Interference の略語。

VDC

ボルト直流 (volts direct current) の略語。

VESA

ビデオ電子規格協会（Video Electronics Standards Association）の頭字語。

VGA

video graphics array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニターが必要です。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、ビデオ アダプタに搭載されたビデオメモリの容量に応じて異なります。

VGA 対応コネクタ

VGA ビデオアダプタが内蔵された一部のシステム上では、VGA 対応コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをコンピュータに追加することができます。VGA 対応コネクタは、VGA パススルーコネクタとも呼ばれます。

VLSI

超大規模集積回路（very-large-scale integration）の略語。

VLVESA

very low voltage enterprise system architecture の頭字語。

vpp

ピーク時電圧（peak-point voltage）の略語。

VRAM

ビデオランダムアクセスメモリ（video random-access memory）の略語。ビデオアダプタの中には、VRAM チップ（または VRAM と DRAM の組み合わせ）を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAM はデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時に行うことができます。

VRM

電圧変換モジュール（Voltage Regulator Module）の略語。

W

ワット（watt）の略語。

Wakeup on LAN

ネットワークによってクライアントステーションの電源をオンにできる機能。リモート ウェイクアップを使うと、就労日が終わってからユーザーのマシン上でソフトウェアのアップグレードやその他の管理タスクを実行することができます。また、リモート ユーザーがオフになっているマシンにアクセスすることもできます。Intel ではリモート ウェイクアップを「Wake-on-LAN」と呼びます。

WH

watt-hour (s)（1 時間当たりのワット数）の略語。

win.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、win.ini ファイルが参照されて、Windows の操作環境のさまざまなオプションが設定されます。win.ini ファイルにはおもに、Windows にインストールされているプリンタとフォントが記録されています。また、win.ini ファイルには通常、ハードドライブにインストールされている Windows アプリケーションプログラムのオプションを設定するセクションも含まれています。コントロールパネルまたは Windows セットアッププログラムを実行すると、win.ini ファイルのオプションを変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で win.ini ファイルのオプションの変更や追加を行う必要があります。

Winbind

異機種環境のネットワーク上のユーザーが、UNIX または Windows NT オペレーティングシステムを搭載しているワークステーションからログインできるようにするプログラム。このプログラムは、Windows NT を各 UNIX ワークステーションに対し UNIX のように見せかけることで、Windows ドメインで UNIX ワークステーションを機能させます。

Windows 95

MS-DOS を必要としない完成した総合オペレーティングシステム。パフォーマンスと使いやすさが向上し、ワークグループ機能が拡張され、ファイルの参照や管理を簡単に行うことができます。

Windows NT

サーバーとワークステーションのための高度なオペレーティングシステムです。科学技術や財務アプリケーションの実行に向いています。

WMI

Windows Management Instrumentation の略語。WMI は CIM オブジェクトマネージャサービスを提供します。

X Window System

Red Hat Enterprise Linux ® 環境で使用されるグラフィカルユーザーインタフェース。

X.509 証明書

X.509 証明書は公開暗号鍵を ID またはその他の主体の属性に結合します。主体は人々、アプリケーションコード（署名アプレットなど）または一意に識別されたその他のエンティティ（DSM SA Connection Service またはウェブサーバーなど）である可能性があります。

Xen

Xen は x86 システム用の仮想マシンモニタです。

XMM

拡張メモリマネージャ（eXtended Memory Manager）の略語。XMM は、アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムで、XMS に準拠する拡張メモリを使用できるようにするユーティリティです。

XMS

拡張メモリ仕様（eXtended Memory Specification）の略語。

ZIF

ゼロ圧力（zero insertion force）の頭字語。一部のコンピュータでは、ZIF ソケットや ZIF コネクタを使用して、デバイス（プロセッサチップなど）の取り付けや取り外しを行うときにデバイスに圧力がかからないようにします。

ZIP

Imaging? 提供の 3.5 インチのリムーバブルディスクドライブ。基本的に 100 MB のリムーバブルカートリッジを使用します。ドライブは、ディスクをカタログ化してセキュリティのためにファイルをロックするソフトウェアとバンドルされています。250 MB バージョンの Zip ドライブも 100 MB の Zip カートリッジに読み書きします。

アセットタグコード

通常はシステム管理者によって、セキュリティやトラッキング目的でコンピュータごとに割り当てられるコード。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード。アダプタカードは、拡張バスと周辺デバイス間のインタフェースを提供することによって、コンピュータに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSI アダプタなどが挙げられます。

インタレース

画面の代替走査線をアップデートすることによりビデオ解像度を向上させる技術。インタレースを行うと画面のちらつきが出るため、ほとんどのユーザーはインタレース処理をしないビデオアダプタ 解像度を使用します。

ウイルス

システムに損害を与えるように設計された自己起動型プログラム。ウイルスプログラムは、ハードディスクドライブに格納されたファイルを破壊したり、システムやネットワークのメモリが一杯になるまで自己増殖したりすることが知られています。一般的に、ウイルスプログラムは「感染した」ディスクから自分自身をハードディスクドライブにコピーすることによって、数多くのシステムに感染していきます。ウイルスからシステムを保護するために、次のような対策を講じてください。

- 1 コンピュータのハードディスクドライブに対して定期的にウイルス検査ユーティリティを実行します。
- 1 ディスケット（市販の¥83¥5cソフトウェアも含まれます）を使用する前に、そのディスクに対して必ずウイルス検査ユーティリティを実行します。

ウェブサーバー

HTTP プロトコルを使って、ウェブページをウェブブラウザで表示可能にするアプリケーション。

オンラインアクセスサービス

インターネット、電子メール、掲示板、チャットルームおよびファイルライブラリなどへのアクセスを提供するサービス。

書き込み防止

読み取り専用ファイルは、書き込み防止されていると言われます。3.5 インチのディスクを書き込み防止するには、ディスクの書き込み防止タブをスライドさせて開くか、セットアップユーティリティで書き込み禁止機能を設定します。

拡張カード コネクタ

拡張カードを接続するための、システムのシステム基板またはライザボードのコネクタ。

拡張バス

システムには、ネットワークカードや内部モデムなど、周辺デバイスのコントローラと通信できる拡張バスが含まれています。

拡張メモリ

1 MB を超える RAM。拡張メモリを使用できるほとんどのソフトウェア（Windows オペレーティング システムなど）では、拡張メモリを XMM で制御する必要があります。

拡張メモリ（expanded memory）

1 MB以上のRAMにアクセスする技法。システムのEMSメモリを有効にするには、EMMを使用しなければなりません。拡張メモリを使用する（または必要とする）アプリケーション プログラムを実行している場合のみ、EMS メモリをサポートするようにシステムを設定する必要があります。

仮想メモリ

ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能な RAM を増加させる技法。たとえば、16 MB の RAM を装備したコンピュータのハードディスクドライブ上で 16 MB の仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32 MB の物理 RAM が存在する場合と同様の方法でシステムメモリが管理されます。

管理下システム

管理下システムは Server Administrator を使ってモニタされ管理されるシステムです。Server Administrator を実行中のシステムは、対応するウェブブラウザを使ってローカル、またはリモートから管理できます。リモート管理システム を参照してください。

機能

オブジェクトが実行できる動作、または管理オブジェクトで実行できる動作を示します。たとえば、カードがホットプラグ対応の場合、システム電源がオンの状態でカードを取り替えることができます。

キャッシュ

データのコピーまたはすぐにデータを取得するための手順を保管しておく記憶領域。たとえば、システムの BIOS は ROM コードを高速 RAM にキャッシュする場合があります。またはディスクキャッシュユーティリティで RAM を保存して、コンピュータのディスクドライブからアクセス頻度の高い情報をそこに保管することができます。プログラムがキャッシュにあるデータをディスクドライブに要求すると、ディスク キャッシュユーティリティはディスクドライブより速く RAM からデータを取得することができます。

グラフィックコプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

グラフィックモード

水平ピクセル x 垂直ピクセル y カラー z で定義されるビデオモード。

構文

コンピュータによって正しく認識されるように、コマンドや命令を入力する方法を指示する規則。変数の構文はそのデータタイプを示します。

コプロセッサ

コンピュータのプロセッサから特定の処理タスクを開放するチップ。たとえば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を行います。グラフィック コプロセッサはビデオ レンダリングを処理します。例えば、Intel® Pentium® マイクロプロセッサには、数値演算コプロセッサが組み込まれています。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリ間、マイクロプロセッサとディスクドライブやキーボードなど、周辺デバイス間のデータ転送を管理するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードドライブアクセスインジケータ、および電源インジケータなど、インジケータとコントロールを含むシステムの一部。

コンベンショナルメモリ

RAM の最初の 640 KB の部分。コンベンショナルメモリはすべてのコンピュータに存在します。MS-DOS® プログラムは、特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内でのみ実行されます。

サーバーモジュール

ローカルシステムとして機能するモジュラーシステム部品。システムとして機能するには、サーバーモジュールは、電源装置、ファン、システム管理モジュール、および最低 1 つのネットワークスイッチモジュールを含んだシャーシに挿入されます。電源装置、ファン、システム管理モジュール、およびネットワークスイッチモジュールは、シャーシにあるサーバーモジュールの共有リソースです。[モジュラーシステム](#)を参照してください。

サービスタグナンバー

弊社カスタマーサポートまたはテクニカル サポートにお問い合わせになる際に、コンピュータを識別するバーコードラベル。

しきい値

温度、電圧、電流およびファン速度などをモニタするセンサーを備えたシステム。センサーのしきい値は、センサーが通常、非重要、重要または危険状態で稼働しているかを決定する範囲（最小値と最大値）を指定します。Server Administrator 対応のしきい値は次のとおりです。

- 1 UpperThresholdFatal
- 1 UpperThresholdCritical
- 1 UpperThresholdNoncritical
- 1 Normal
- 1 LowerThresholdNoncritical
- 1 LowerThresholdCritical
- 1 LowerThresholdFatal

システムディスク

ブート用ディスク の同義語。

システムメモリ

RAM の同義語。

システム基板

コンピュータの主要な回路ボードであるシステム基板には、次に示すような、ほとんどの集積コンポーネントが搭載されています。

- 1 マイクロプロセッサ
- 1 RAM
- 1 標準的な周辺機器（キーボードなど）のコントローラ
- 1 さまざまな ROM チップ

システム基板は、マザーボード および論理ボード と呼ばれることもあります。

システム設定情報

コンピュータに対して、取り付けられているハードウェアの種類とコンピュータの動作環境の構成を指示するデータ。メモリ内に保存されます。

シャドウイング

通常、コンピュータのシステムとビデオの BIOS コードは、ROM チップに格納されます。シャドウイングとは、ブートルーチンの実行中に（640 KB 以降の）上位メモリ領域の高速 RAM チップに BIOS コードをコピーして性能を向上させる技法を指します。

ジャンパ

ジャンパは 2 本以上のピンがある、回路基板上の小さなブロックです。ピンにはワイヤを格納したプラスチック製のプラグが被せてあります。ワイヤはピンを接続し、回路を作成します。ジャンパはプリント回路基板の回路を変更する、簡単に両方向の方法を提供します。

周辺デバイス

プリンタ、ディスクドライブまたはキーボードなど、コンピュータに接続されている内部または外部デバイス。

上位メモリ領域

640KBから1 MBの間にある384KBのRAM。システムが Intel 386 以降のプロセッサを搭載している場合、メモリアネージャと呼ばれるユーティリティが上位メモリ領域に UMB を作成し、ここにデバイスドライバやメモリ常驻プログラムをロードできます。

状況

1 つ以上の条件を持つオブジェクトの状況を指します。たとえば、オブジェクトは「準備中」状況である場合があります。

シリアル ポート

一般的には、モデムをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。コンピュータのシリアルポートは、9 ピンのコネクタが使用されていることで識別できます。

スイッチ

コンポーネントのシステム基板のスイッチは、コンピュータシステムでのさまざまな回路機能を制御します。これらのスイッチは DIP スイッチ として知られています。通常、DIP スイッチは 2 つ以上のスイッチがパッケージ化されており、プラスチックのケースに入っています。システム基板には、スライド スイッチとロッカー スイッチの 2 個の DIP スイッチが使われています。スイッチの名前は、設定（オン/オフ）の変更方法に基づいています。

数値演算プロセッサ

コプロセッサを参照してください。

ステータス

オブジェクトの健康状態や機能状態を指します。たとえば、プローブが許容温度内の場合には、温度プローブは正常状態です。ユーザーが設定した制限温度をこえた値がプローブによって読み取られると、重要状態が報告されます。

設定

設定は、コンポーネントに特定の値が検出されたときにどうするかを決定する、管理可能オブジェクトヘルプの条件です。たとえばユーザーは、温度プローブの上限しきい値を摂氏 75 度に設定できます。プローブがその温度に達すると、ユーザーが介入できるように管理システムに警告が送られます。設定の中には、値に達するとシステムのシャットダウンやシステム損傷を防ぐその他の反応を引き起こすものがあります。

セットアップユーティリティ

コンピュータのハードウェアを構成し、パスワード保護機能や省電力設定などを設定することでコンピュータの動作をカスタマイズするための BIOS プログラム。セットアップユーティリティのオプションの中には、コンピュータをリポートしないと（自動的にリポートする場合もあります）ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

外付けキャッシュメモリ

RAM キャッシュで、SRAM チップを使用するもの。SRAM チップは DRAM チップの数倍の速さで動作するため、マイクロプロセッサは RAM より外付けキャッシュ メモリからの方がデータと手順を速く取得できます。

ターミネータ

一部のデバイス（SCSI ケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、過剰な電流の吸収や発散を行うための終端処理が必要です。このようなデバイスを連結する場合は、ジャンパまたはスイッチを変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更して、ターミネータを有効または無効にする必要があります。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムのアイドル時間。

ディスプレイアダプタ

ビデオアダプタを参照してください。

ディレクトリ

ディレクトリは、関連ファイルを階層的な「反転ツリー」構造でディスク上にまとめます。各ディスクには「ルート」ディレクトリがあります。たとえば、C:\> プロンプトは通常、ハードドライブ C のルートディレクトリにいることを示します。ルートディレクトリから分かれた追加ディレクトリをサブディレクトリと呼びます。サブディレクトリには、そこから分かれる追加のディレクトリを含めることができます。

テーブル

SNMP MIB では、テーブルは管理オブジェクトを構成する変数について説明した 2D の配列です。

テキストエディタ

ASCII 文字だけを含むテキストファイルを編集するためのアプリケーションプログラム。たとえば、Windows のメモ帳などはテキストエディタです。ワードプロセッサの中には、テキストファイルの読み取りと書き込みができるものもありますが、大部分のプログラムはバイナリ文字を含む固有のファイル形式を使用しています。

テキストモード

X 列 × Y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムまたは他のプログラムが、プリンタなどの周辺デバイスと正しく相互作用できるようにするプログラム。ネットワークドライバなどのデバイスドライバは、config.sys ファイル

(デバイス= ステートメント)またはメモリ常驻プログラム(通常は autoexec.bat ファイル)からロードする必要があります。ビデオドライバなどその他のドライバは、対象のプログラムを起動したときにロードする必要があります。

電源ユニット

壁コンセントからの AC 電流をコンピュータ回路が必要とする DC 電流に変換する電気システム。パーソナルコンピュータの電源装置は通常、いくつもの電圧を生成します。

電力装置

システムシャーシ内の電源装置。

ドライブタイプ番号

システムでは、複数の種類のハードドライブが認識されます。各システムにはドライブタイプ番号が割り当てられ、NVRAM に保存されます。システムのセットアップユーティリティで指定されたハードディスクドライブは、システムに取り付けられた実際のドライブと一致しなければなりません。セットアップ ユーティリティでは、NVRAM に保存されていないドライブタイプのテーブルに含まれていないドライブの物理パラメータ(論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号およびバックごとの論理セクタ)を指定できます。

内蔵されたハイパーバイザ

「内部 USB」を参照

内蔵の USB

内部 USB フラッシュドライブとデバイスは追加のストレージです。内部 USB は仮想化を強化します。

内蔵マイクロプロセッサキャッシュ

マイクロプロセッサに組み込まれた命令とデータのキャッシュ。Intel Pentium マイクロプロセッサには 16 KB の内部キャッシュがあり、8 KB の読み取り専用命令キャッシュと、8 KB の読み書きデータ キャッシュに設定されています。

名前

オブジェクトまたは変数の名前は、SNMP Management Information Base (MIB) ファイル、または CIM Management Object File (MOF) で識別されると同じ文字列です。

認証

Server Administrator Remote Access Controller には、ユーザーアクセスを認証する 方法として、

RAC 認証と、ローカルオペレーティングシステム認証の 2 つの方法があります。RAC 認証は常に有効になっています。システム管理者は、RAC へのアクセスを許可する、特定のユーザーアカウントおよびパスワードを設定することができます。

オペレーティングシステムでは、システム管理者は異なるレベルのユーザーおよびユーザーアカウントを定義する必要があります。ユーザーの各レベルには、それぞれの異なる特権があります。RAC におけるローカルオペレーティングシステム認証は、オペレーティングシステムのユーザーに 1 組の権限を定義し、RAC に別のユーザーとアカウントを設定することを希望しないシステム管理者が使用できるオプションです。RAC のローカルオペレーティングシステム認証を有効にすると、オペレーティングシステム上でシステム管理者権限を持つすべてのユーザーが RAC へログインできるようになります。

ノンインタレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

fdisk コマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードディスクドライブを分割できます。各パーティションには、複数の論理ドライブを設定することができます。ハードディスクドライブをパーティションに分割した場合は、format コマンドを使用して個々の論理ドライブをフォーマットする必要があります。

バス

バスはコンピュータのコンポーネント間の情報経路を形成します。たとえばコンピュータに装備されている拡張バスは、マイクロプロセッサが、コンピュータに接続されたさまざまな周辺機器用のコントロールと通信する経路を提供します。また、アドレスバスとデータバスは、マイクロプロセッサとRAMとの間の通信に使用されます。

パラメータ

プログラムに対して指定する値またはオプション。パラメータは、スイッチまたは引数 と呼ばれることもあります。

パラレル ポート

一般的には、パラレルプリンタをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。通常、コンピュータのパラレルポートは、25 穴コネクタで識別できます。

ヒートシンク

熱を発散させるための金属釘または金属リブが付いた金属板。ほとんどのマイクロプロセッサは、このヒートシンクを装備しています。

ビーブコード

システムのスピーカーから聞こえるビーブ音のパターンによる診断メッセージ。たとえば、1 回鳴った後にもう 1 回鳴ってから連続して 3 回鳴った場合、ビーブコードは 1-1-3 です。

ピクセル

ビデオ画面上の単一の点。画像は、ピクセルを縦横に配置することで作成されます。640 x 480 というビデオ解像度は、横方向に 640 個のピクセル、縦 方向に 480 個のピクセルが並んだ行列として表されます。

ビデオアダプタ

モニター（ディスプレイ）と連携してコンピュータのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタは、特定のモニターが提供する機能よりも多い機能または少ない機能をサポートします。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティング システムをさまざまなビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

弊社の一部のコンピュータでは、システム基板上にビデオアダプタが組み込まれています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

通常、ビデオアダプタには、システム基板上の RAM とは別個のメモリが割り当てられます。同時に表示できるカラーの数は、ビデオメモリの容量とアダプタのビデオドライバに応じて異なります。高速のグラフィック描画を実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオドライバ

特定の数のカラーを希望の解像度で、グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを表示するためのプログラム。ソフトウェアパッケージには、汎用ビデオドライバが含まれていることがあります。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、コンピュータの RAM とは別にメモリチップが内蔵されています。プログラムで同時に表示できるカラーの数はおもに、インストールされたビデオメモリの容量によって決まります（他の要因としては、ビデオドライバやモニターの機能があります）。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタでは複数のテキスト / グラフィック表示モードがサポートされます。文字ベースのソフトウェアは、「 x 列 y 行の文字」で定義されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「 x 個の横ピクセル y 個の縦ピクセル z 種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

ビデオ解像度

ビデオ解像度（800 x 600 など）は、「横方向のピクセル数 \times 縦方向のピクセル数」で表されます。特定の解像度でプログラムを表示するためには、適切なビデオドライバをインストールすること、およびモニターでその 解像度がサポートされることが必要です。

ファームウェア

読み取り専用メモリ（ROM）に書き込まれたソフトウェア（プログラムまたはデータ）。ファームウェアはデバイスの起動や操作を実行できます。各コントローラにはコントローラの機能提供に役立つファームウェアが含まれています。

ファイバチャネル

1 つの接続技術で高速 I/O およびネットワーク機能を実現したデータ転送インタフェース技術。ファイバ チャネル標準では、ファイバチャネルポイントツーポイント、ファイバチャネルファブリック（汎用スイッチトポロジ）、およびファイバチャネル調停ループ（FC_AL）などを含むいくつかのトポロジをサポートしています。

ブートルーチン

コンピュータを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードが行われます。オペレーティングシステムが正常に応答する場合は、<Ctrl><Alt>キーを押してコンピュータを再起動できます（ウォームブートともいいます）。オペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、コンピュータの電源を一度切ってから入れ直すことによって、コンピュータを再起動（コールドブート）しなければなりません。

ブート可能ディスク

ディスクからシステムを起動することができます。ブート可能ディスクを作成するには、ディスクドライブにディスクを入れて、コマンドラインプロンプトで `sys a:` と入力し、<Enter>を押します。ハードドライブから起動できない場合、このブート可能ディスクを使用します。

フォーマット

ファイルを保存するためにハードドライブまたはディスクを用意すること。無条件でフォーマットを行うと、ディスクに保存された全データが削除されます。

複合キー

複数のキーを同時に押すコマンド。たとえば、<Ctrl><Alt> キーを一緒に押すと、システムを再起動できます。

物理メモリアレイ

物理メモリアレイは、システムの全物理メモリ配列です。物理メモリアレイの変数には、最大サイズ、マザーボード上の合計メモリスロット数、および使用中の合計スロット数などがあります。

プラグアンドプレイ

ハードウェアデバイスをパーソナルコンピュータに追加しやすくするための業界標準仕様。プラグアンドプレイによって、自動インストールと設定、既存ハードウェアとの互換性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートが提供されます。

フラッシュ BIOS

ROM でなくフラッシュメモリに保存される BIOS。ROM BIOS が新しいチップと交換しなければならないのに対し、フラッシュ BIOS チップはアップデートすることができます。

フラッシュメモリ

コンピュータに取り付けたまま、ディスク内のユーティリティを使って再プログラミングできる EEPROM チップ。一般の EEPROM チップは、特別なプログラミング用の装置を使わなければ書き換えはできません。

プログラムディスクセット

オペレーティングシステムまたはアプリケーションプログラムを完全にインストールできるディスクのセット。プログラムを再設定するときには、通常、プログラムディスクセットが必要になります。

プロテクトモード

80286 以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16 MB (80286 プロセッサの場合) ~ 4 GB (Intel 386 以降のプロセッサの場合) のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ (ハードドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法)

Windows NT、OS/2®、UNIX@32ビットオペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。MS-DOS はプロテクトモードで実行できません。ただし、MS-DOS から起動できる一部のプログラム (Windows オペレーティングシステムなど) は、システムをプロテクトモードに移行することができます。

プロバイダ

プロバイダは管理オブジェクトと通信してさまざまなソースからデータとイベント通知にアクセスする CIM スキーマの拡張機能です。プロバイダはこの情報を CIM オブジェクトマネージャに転送して統合と解釈を行います。

変数

管理オブジェクトの一部。たとえば温度プローブには、機能、正常性または状態、および正しい温度プローブを見つけるのに役立つ特定の指標などの変数があります。

ボーレート

データ伝送速度の尺度。たとえば、モデムはシステムのCOM（シリアル）ポートを通して、数種類の特定のボーレートでデータを転送します。

ホストアダプタ

ホストアダプタによって、システムのバスと周辺機器用のコントローラ間の通信ができます。（ハードドライブコントローラサブシステムには内蔵ホストアダプタ回路が含まれています。）システムに SCSI 拡張バスを追加するには、適切なホストアダプタを取り付けるか接続する必要があります。

ホットプラグ

システムを使用中に、冗長部分を削除または置換できる機能。「ホット スペア」とも呼ばれます。

マイクロプロセッサ

コンピュータ内にある主要コンピュータチップで、演算および論理機能の解釈と実行を制御します。1 つのマイクロプロセッサに書き込まれたソフトウェアは、別のマイクロプロセッサで実行するためには改訂する必要があります。CPU はプロセッサの同義語です。

マップされた物理メモリアレイ

マップされた物理メモリアレイ（physical memory array mapped）は、物理メモリの分割方法を示します。

たとえば、あるマップ領域に 640 KB があり、別のマップ領域には 1 MB ~ 127 MB ある場合があります。

マルチスキャンモニター

いくつかのビデオ規格をサポートするモニター。マルチスキャンモニタは、各種のビデオアダプタからの信号周波数レンジに合わせて調整できます。

メモリ

システムには、複数のタイプのメモリ（RAM、ROM、およびビデオメモリなど）を搭載できます。通常、メモリという用語は RAM と同じ意味で使用されます。たとえば、「16 MB のメモリを搭載したコンピュータ」というような無修飾の文は、「16 MB の RAM を搭載したコンピュータ」を意味します。

メモリアドレス

コンピュータ RAM上の、通常16進数で表記される特定の場所。

メモリマネージャ

コンベンショナルメモリ以外のメモリ（EMS メモリや 拡張 メモリなど）の実装を管理するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

モジュラーシステム

複数のサーバーモジュールを含んだシステム。各サーバーモジュールはローカルシステムとして機能します。システムとして機能するには、サーバーモジュールは、電源装置、ファン、システム管理モジュール、および最低 1 つのネットワークスイッチモジュールを含んだシャーシに挿入されます。電源装置、ファン、システム管理モジュール、およびネットワークスイッチモジュールは、シャーシにあるサーバーモジュールの共有リソースです。 [サーバーモジュール](#)を参照してください。

モデム

電話線を通して、他のシステムとの通信を可 \times 94 \times 5clにするデバイス。

ユーティリティ

システム資源（メモリ、ディスクドライブ、プリンタなど）を管理するためのプログラム。

ユーティリティパーティション

ハードドライブ上のブート可能なパーティションで、ハードウェアとソフトウェアにユーティリティと診断を提供します。有効にすると、パーティションが起動して、パーティションのユーティリティに実行可能環境を提供します。

読み取り専用ファイル

編集や削除が禁止されているファイル。次のいずれかの条件が満たされる場合、ファイルは読み取り専用になります。

- 1 ファイルの読み取り専用属性が設定されている。
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク内、または書き込みが禁止されているドライブ内にファイルが存在する。
- 1 システム管理者がユーザーに読み取り権限だけを付与したネットワークディレクトリ内にファイルが存在する。

リアルモード

80286 以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086 マイクロプロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニター画面上のビデオ画像を、モニターが再描画する速度 画面の水平線が再充電される周期（単位は Hz）。モニターのリフレッシュレートは、垂直周波数とも呼ばれます。リフレッシュレートが高いほど、人間の目にはちらつきが感じられなくなります。このような高いリフレッシュレートはノンインタレースとも呼ばれます。

リモート管理システム

リモート管理システムは対応するウェブブラウザを使って、リモートから管理下システム上の Server Administrator ホームページにアクセスするシステムです。「管理下システム」を参照してください。

冷却ユニット

システムシャーシにあるファンまたはその他の冷却デバイス。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムでは、ビデオアダプタ回路など特定の周辺デバイスを、従来の拡張バスを使ったときより高速に実行されるように設計することができます。ローカルバスのデザインの中には、システムのマイクロプロセッサと同じ速度、同じ幅のデータバスで周辺機器を実行できるものがあります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Server Administrator のインストール

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [作業を開始する前に](#)
- [インストール要件](#)
- [インストール手順](#)

概要

Server Administrator は複数の方法でインストールできます。『Dell™ Systems Management Tools and Documentation DVD』には、Server Administrator およびその他のシステム管理ソフトウェアのコンポーネントをお使いのシステムにインストール、アップグレードし、アンインストールするためのセットアッププログラムが用意されています。『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』には、Management Station Software コンポーネントを管理ステーションにインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムが収録されています。さらにネットワークを介して Server Administrator を複数のシステムに無人インストールすることもできます。Dell OpenManage™ 製品はオペレーティングシステムにネイティブのプロセスを使用してインストールされるようになりました。設定ウィザードに従って Server Administrator セットアップします。詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

無人サイレントインストール

『Dell™ Systems Management Tools and Documentation DVD』を使用すると、対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator の無人インストールとアンインストールを実行できます。さらに、対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムでは、コマンドラインから Server Administrator をインストールまたはアンインストールすることもできます。

Server Administrator のアップグレード

Dell OpenManage ソフトウェアは、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』を使って、バージョン 4.3 以降からバージョン 5.5 にアップグレードできます。

Service Pack のアップグレードは Dell OpenManage 5.5 ではサポートされていません。

- **メモ:** Dell OpenManage のバージョン 4.3 より前のバージョンをお持ちの場合は、それをアンインストールしてから Dell OpenManage 5.5 をインストールしてください。詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

バージョン 4.3 以降から Dell OpenManage 5.5 にアップグレードするには、**setup.exe** を実行するか、次を入力します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi /qn  
(新規のインストールまたはメジャーアップグレードの場合。例えば Dell OpenManage のバージョン 4.3 からバージョン 5.5 へのアップグレード等。)
```

Dell OpenManage のバージョン 4.3 からバージョン 4.4 へのアップグレードなどマイナーなアップグレードについては、次を入力します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus /qn
```

MSI エンジンのアップグレード

Dell OpenManage ソフトウェアを使用して、インタラクティブなインストールを実行中に MSI エンジンをアップグレードすることが可能です。サイレントインストールでは、インストールスクリプトに適切なコマンドを追加しなければなりません。

MSI エンジンのアップグレード(必要に応じて)および Systems Management Software のインストール / アップグレードには展開スクリプトで次のコマンドを使用します。

- **メモ:** Dell OpenManage Systems Management および Management Station インストーラには MSI 3.1 以降が必要とされます。Windows Server® 2003(Service Pack なし)、Windows 2000 Server、または Windows XP オペレーティングシステム環境のシステムを使用している場合、MSI エンジンをアップデートしてください。Windows Server 2003 SP2 または Windows Server 2003 x64 オペレーティングシステム環境のシステムを使用している場合、MSI エンジンのアップデートは不要です。

```
:retry  
start /wait msiexec /i SysMgmt.msi /qn  
if %errorlevel% == 1613 (  
  REM UPGRADE THE WINDOWS INSTALLER ENGINE  
  start /wait WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe /quiet /norestart  
  goto retry  
)  
if %errorlevel% == 1638 (  
  REM THIS IS A MINOR UPGRADE  
  start /wait msiexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus /qn  
)
```

各対応オペレーティングシステムに Server Administrator をインストールする方法と、インストール、アップグレード、アンインストールの詳細手順については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

作業を開始する前に

- 1 Dell システムソフトウェアサポートマトリックスをお読みください。

- 1 「[設定と管理](#)」を読んで、該当する指示に従ってください。
- 1 インストール要件を読み、お使いのシステムが最小要件以上であることを確認します。
- 1 対応の各オペレーティングシステムで Server Administrator をインストール、アップグレード、アンインストールする詳しい手順については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティ ユーザーズガイド』をお読みください。
- 1 『Server Administrator 互換性ガイド』をお読みください。このマニュアルには、対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のさまざまなハードウェアプラットフォーム（またはシステム）に Server Administrator をインストールして操作する際に役立つ互換性情報が含まれています。
- 1 『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』に収録されている Dell OpenManage インストール readme ファイルをお読みください。このファイルには、新機能のほか既知の不具合に関する最新情報が含まれています。
- 1 『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』に収録されている Server Administrator readme ファイルをお読みください。このファイルには、ソフトウェア、ファームウェア、およびドライババージョンなどの最新情報と、既知の問題についての情報が記載されています。
- 1 ご使いのオペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。

インストール要件

以下の項では Server Administrator の一般要件について説明します。オペレーティングシステムに固有のインストール必要要件は、インストール手順の一部として記載されています。

対応オペレーティングシステム

各対応オペレーティングシステムでサポートされている Server Administrator サービスの最新の詳細リストについては、Server Administrator readme ファイルまたは『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』上の Dell Systems Software Support Matrix を参照してください。

対応ウェブブラウザ

各対応ウェブブラウザでサポートされている Server Administrator サービスの最新の詳細リストについては、Server Administrator readme ファイルまたは『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』に収録されている Dell Systems Software Support Matrix を参照してください。

システム要件

管理する各システムに Server Administrator をインストールする必要があります。その後、対応ウェブブラウザを使って、Server Administrator を実行している各システムをローカルまたはリモートに管理することができます。

『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』の必要条件チェッカー (setup.exe) がお使いのシステムを自動的に分析して、システム要件が満たされているかどうか判断します。詳細については、『[Windows の必要条件チェッカー](#)』を参照してください。

管理したシステム要件

- 1 「[対応オペレーティングシステム](#)」の 1 つ。
- 1 128 MB以上のRAMを搭載
- 1 最低 256 MB のハードドライブ空き容量
- 1 管理者権限
- 1 モニタシステム上に TCP/IP 接続とリモートシステム 管理を促進するためのリモートシステム
- 1 「[対応ウェブブラウザ](#)」の 1 つ。
- 1 [対応システム管理プロトコル標準](#) の 1 つ。
- 1 マウス、キーボードおよびモニター（システムをローカル管理するため）モニターには最低 800 x 600 の画面解像度が必要です。推奨画面解像度設定は 1024 x 768 です。
- 1 Server Administrator Remote Access Controller を使用するには、管理下システムに Dell Remote Access Controller (DRAC) をインストールする必要があります。ソフトウェアとハードウェアの完全なシステム要件については、該当する『Dell Remote Access Controller ユーザーガイド』の「[Remote Access Controller](#)」と「[その他の参考ドキュメント](#)」を参照してください。
 **メモ:** DRAC ソフトウェアは、管理下システムが DRAC のインストール要件をすべて満たしている場合、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』から管理下システムソフトウェアをインストールする際に、**標準セットアップ** と **カスタムセットアップ** のインストールオプションの一部としてインストールされます。ソフトウェアとハードウェアの完全なシステム要件については、該当する『Dell Remote Access Controller ユーザーガイド』の「[Remote Access Controller](#)」と「[その他の参考ドキュメント](#)」を参照してください。
- 1 Storage Management Service は、**標準セットアップ**を使用することによりデフォルトで対応の Windows オペレーティングシステムにインストールされます。
 **メモ:** Red Hat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Server システムでは、Storage Management Service は Red Hat Package Manager (RPM) または srvadmin-install.sh script-ユーザーが選択したオプションに基づいて適切な RPM をインストールするメニュー形式のスクリプトを使ってインストールできます。

リモート管理のシステム要件

- 1 Server Administrator ホームページからシステムをリモート管理する「[対応ウェブブラウザ](#)」の 1 つ。

- 1 管理下システム上に TCP/IP 接続とリモートシステム 管理を促進するためのリモートシステム。
- 1 800 x 600 の画面解像度 推奨画面解像度設定は 1024 x 768 です。

対応システム管理プロトコル標準

Server Administrator をインストールする前に、対応システム管理プロトコル標準が管理したシステムにインストールされている必要があります。対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、Server Administrator は Common Information Model/Windows Management Instrumentation (CIM/WMI) とシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) の 2 種類のシステム管理規格をサポートしています。対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは、Server Administrator により SNMP システム管理標準がサポートされています。

 **メモ:** 管理下システムに対応システム管理プロトコル標準をインストールする方法についての詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

表 4-1 は、各対応オペレーティングシステムで使用可能なシステム管理規格を示しています。

表 4-1 オペレーティングシステム別システム管理プロトコルの使用可能状況

オペレーティングシステム	SNMP	CIM/WMI
対応 Microsoft Windows オペレーティングシステム	オペレーティングシステムのインストールメディアから使用可	常にインストールされています。
対応 Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステム	オペレーティングシステム付属の SNMP パッケージをインストールする必要があります。	使用できません。
SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム	オペレーティングシステム付属の SNMP パッケージをインストールする必要があります。	使用できません。

Windows の必要条件チェッカー

setup.exe は『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』の Windows ディレクトリ内にある必要条件チェッカープログラムで、実際のインストールを実行しなくてもソフトウェアコンポーネントの必要条件を調べる機能を備えています。このプログラムはステータスウィンドウを表示して、特定のソフトウェアコンポーネントが動作するのに必要なシステムハードウェアに関する情報が提供されます。

必要条件の確認作業は、runprereqcheck.exe /s を使ってサイレントに実行できます。

インストール手順

各対応オペレーティングシステムに Server Administrator をインストールする方法と、インストール、アップグレード、アンインストールの詳しい手順については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

Citrix XenServer Dell Edition での Dell OpenManage の使用

Citrix® XenServer Dell Edition? には Dell OpenManage Server Administrator がプリインストールされているので、インストール手順は必要ありません。Citrix XenServer Dell Edition での Dell OpenMnage の使用の詳細については、<http://support.dell.com/support/edocs/software/Citrix/> にある『Citrix XenServer Dell Edition ソリューションガイド』を参照してください。

Citrix Application Server での Dell OpenManage の使用

Citrix Application Server での Dell OpenManage の使用の詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

Storage Management Service をインストールする前の注意事項

Storage Management には Server Administrator が内蔵されています。Dell OpenManage Storage Management は Array Manager の代用となるものです。

Storage Management Service 2.0 をインストールする場合、既存の Storage Management Service はアンインストールされます。

Storage Management Service インストール時の PERC コンソールと FAST との互換性問題

FAST または PERC コンソールをインストール済みのシステムに Storage Management をインストールする設定はサポートされていません。特に、FAST をインストール済みのシステムで Storage Management Service を使用すると、実行時に Storage Management Service または FAST 機能が無効になります。したがって、Storage Management Service をインストールするときは、その前に FAST および PERC コンソールをアンインストールすることをお勧めします。

Dell OpenManage Storage Management は、FAST および PERC コンソールが提供するすべてのストレージ管理機能を置き換えます。また、Storage Management Service には、FAST および PERC コンソールでは提供されていない機能もあります。

Storage Management Service インストール時の Linux ユーティリティとの互換性

Dell またはその他ベンダーが提供する RAID Storage Management ユーティリティを持つ Linux システムに Storage Management Service をインストールすることはお勧めできません。これらのユーティリティは、Storage Management Service のインストール前にアンインストールしておく必要があります。Storage Management Service は、これらのユーティリティが提供するストレージ管理機能を置き換えます。Dell またはその他ベンダーからは、以下のような Linux ユーティリティを提供しています。

- 1 LinFlash
- 1 DellMgr
- 1 DellMON
- 1 LINLib
- 1 MegaMgr
- 1 MegaMON

Linux の必要ドライバおよびファームウェアと Storage Management Service

Linux システムの場合、Storage Management のインストールでは、システム内のドライバやファームウェアが Storage Management のインストールと使用に必要なレベルかどうかを確認することができません。Linux にインストールすると、ドライバやファームウェアのバージョンが必要なレベルを満たさずかどうかに関わらず、インストールを完了できます。ただし、ドライバやファームウェアのバージョンが必要なレベルを満たしていないと、Storage Management が提供する機能の一部にアクセスできない場合があります。Storage Management Service の実行時は、バージョンの古いファームウェアが使用されていないかどうかアプリケーションログファイルで確認してください。対応コントローラのファームウェアとドライバのバージョンの全リストは、Storage Management の Readme(readme_sm.txt)に記載されています。

Filesystem Hierarchy Standard v2.3 のサポート

File Hierarchy System(FHS)は、Linux Standard Base のより広い定義のコンポーネントです。このリリースでは Server Administrator によりファイルの移動がサポートされています。

すべてのファイルの標準的なインストール場所: `/opt/dell/srvadmin`

影響を受ける対応ディレクトリは次の通りです。

- 1 共有可能(静的)ファイル: `/opt/dell/srvadmin`
- 1 ホスト依存のファイル(ユーザーによる変更可): `/etc/opt/dell/srvadmin` and `/etc/opt//srvadmin`
- 1 動的(ログ)ファイル: `/var/tmp/dell/srvadmin`, `/var/tmp//srvadmin` と `/var/log/dell/srvadmin` `/var/log//srvadmin`

詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Instrumentation Service(計装サービス):

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [システムの管理](#)
- [システム/サーバーモジュールツリーオブジェクトの管理](#)
- [Server Administrator ホームページシステムツリー オブジェクト](#)
- [プリファランス:ホームページ設定オプションの管理](#)

概要

Server Administrator Instrumentation Service(計装サービス)は、システムの正常性をモニタし、業界標準システム管理エージェントによって収集された故障と性能についての詳細情報への迅速なアクセスを提供します。報告機能と表示機能を使うと、システムを構成する各シャーシの全般的な正常性の状態を把握することができます。サブシステム レベルでは、電圧、温度、電流、ファン回転数/分、およびシステムの主要点におけるメモリ機能についての情報を表示できます。システムの各関連所有コスト(COO)のアカウント詳細は概要ビューで参照できます。BIOS、ファームウェア、オペレーティング システム、およびインストールされているすべての Systems Management Software のバージョン情報も簡単に取得できます。

さらに、システム管理者はInstrumentation Service(計装サービス)を使用して次の重要タスクを実行することができます。

- 1 特定の重要コンポーネントの最大値と最小値を指定します。この値はしきい値と呼ばれ、そのコンポーネントの危険イベント発生範囲を決定します(故障最大値と最小値は、システム メーカーによって指定されます)。
- 1 危険イベントまたは故障イベントが発生したときのシステムの応答方法を指定します。ユーザーは危険および故障イベントの通知を受けたときにシステムが取る対応を設定できます。また、24 時間監視を行っているユーザーは、イベント発生に対して何も処置を取らずに責任者の裁量に任せよう選択することができます。
- 1 システム名、システムのプライマリユーザー電話番号、減価償却方法、システムがリリースが所有かなど、システムにユーザー指定できる値をすべて作成します。

メモ: Microsoft® Windows Server® 2003 環境の管理下システムとネットワーク管理ステーションで SNMP バケットを受け入れるには、Simple Network Management Protocol(SNMP)サービスを設定する必要があります。詳細については、「[Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)」を参照してください。

システムの管理

Server Administrator ホームページには、デフォルトでシステムツリービューの **システム** オブジェクトが表示されます。**システム** オブジェクトのデフォルトでは、**プロパティ** タブの **正常性** コンポーネントが開かれます。

表 7-1 システムに Server Administrator がインストールされたときに GUI フィールド名と該当システムが一覧表示されます。

表 7-1 以下の GUI フィールド名に対するシステムの可用性

GUI フィールド名	該当システム
モジュラーエンクロージャ	モジュラーシステム
サーバーモジュール	モジュラーシステム
メインシステム	モジュラーシステム
システム	非モジュラーシステム
メインシステムシャーシ	非モジュラーシステム
BMC	Dell PowerEdge x8xx と x9xxシステム
iDRAC	Dell xx0x システム

図 7-1 サンプル Server Administrator ホームページ - 非モジュラーシステム



図 7-2 サンプル Server Administrator ホームページ - モジュラーシステム



- メモ:** Server Administrator ホームページの各ウィンドウでは、状況に応じたオンラインヘルプを使用できます。グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中のウィンドウについて詳しい情報が掲載されたヘルプウィンドウが開きます。オンラインヘルプは、Server Administrator サービスのさまざまな要素を実行するのに必要な特定の操作について説明するように設計されています。Server Administrator が検出するシステムのソフトウェアとハードウェアのグループとユーザー特権レベルに従って、表示可能なすべてのウィンドウにオンラインヘルプが用意されています。
- メモ:** 設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、アクションタブ、およびデータ領域機能を表示するには、管理者またはパワーユーザー権限が必要です。さらに、管理者権限でログインしたユーザーのみが、シャットダウン タブに含まれている **シャットダウン** 機能などの重要なシステム機能にアクセスできます。

プリファランス ホームページのデフォルトウィンドウは、**プリファランス** タブにある **アクセス設定** です。

プリファランス ホームページから、「ユーザー」と「パワーユーザー」の権限を持つユーザーへのアクセスを制限、SNMP パスワードを設定、ユーザーとDSM SA 接続サービスの設定ができます。

システム/サーバーモジュールツリーオブジェクトの管理

Server Administrator のシステム/サーバーモジュールツリーには、管理下システムとユーザーのアクセス権限で Server Administrator が検出するソフトウェアとハードウェアのグループに基づいて、表示可能なシステムオブジェクトがすべて表示されます。システムコンポーネントはコンポーネントの種類によって分類されています。メインオブジェクト-「[モジュラーエンクロージャ](#)」、「[システム / サーバーモジュール](#)」を展開すると、システムコンポーネントのメジャーカテゴリとして「[メインシステムシャーシ/メインシステム](#)」、「[ソフトウェア](#)」、「[ストレージ](#)」が表示されることがあります。

Storage Management Serviceがインストールされると、システムに実装されているコントローラやストレージに応じて、ストレージツリーのオブジェクトが展開され、以下のオブジェクトが表示されません。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 コントローラ | 1 ファン |
| 1 バッテリー | 1 電源装置 |
| 1 コネクタ | 1 温度 |
| 1 エンクロージャまたはバックプレーン | 1 仮想ディスク |
| 1 物理ディスク | 1 ファームウェア / ドライババージョン |
| 1 EMM | |

Server Administrator ホームページシステムツリー オブジェクト

- メモ:** 設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、アクションタブ、およびデータ領域機能を表示するには、管理者またはパワーユーザー権限が必要です。さらに、管理者権限でログインしたユーザーのみが、シャットダウン タブに含まれている **シャットダウン** 機能などの重要なシステム機能にアクセスできます。

モジュラーエンクロージャ

- メモ:** Server Administrator では、「モジュラーエンクロージャ」とはシステムツリーでは別々のサーバーモジュールとして表示される 1 つまたは複数のモジュラーシステムを含むシステムを指します。スタンドアロンのサーバーモジュールと同様、モジュラーエンクロージャにはシステムに不可欠のコンポーネントが含まれます。唯一の違いは、大きいエンクロージャ内に最低 2 つのサーバーモジュール用のスロットがあり、それぞれが完全なサーバーモジュールである点です。

モジュラーシステムのシャーシの情報と Chassis Management Controller (CMC) の情報を表示するには、**モジュラーエンクロージャ** オブジェクトをクリックします。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、以下のことができます。

- 監視下のモジュラーシステムのシャーシ情報を表示する。
- 監視下のモジュラーシステムの Chassis Management Controller (CMC) に関する詳細情報を表示する。

Chassis Management Controller にアクセスして使用する

Server Administrator から Chassis Management Controller の **ログイン** ウィンドウにリンクするには、**モジュラーエンクロージャ** オブジェクト、**CMC 情報** タブ、**CMC ウェブインタフェースの起動** の順にクリックします。CMC **ログイン** ウィンドウが表示されます。CMC に接続すると、モジュラーエンクロージャの監視と管理を行うことができます。

システム / サーバーモジュール

システム / サーバーモジュールオブジェクトには「[メインシステムシャーシ/メインシステム](#)」、「[ソフトウェア](#)」、「[ストレージ](#)」の 3 つの主要システムコンポーネントグループが含まれます。Server Administrator のホームページではデフォルトでシステムツリーのシステムオブジェクトが表示されます。ほとんどの管理機能は、**システム / サーバーモジュール** オブジェクトのアクションウィンドウから管理できます。システム / サーバーモジュールオブジェクトのアクションウィンドウには、**プロパティ**、**シャットダウン**、**ログ**、**警告管理**、**セッション管理**のタブがあります。

 **メモ:** Server Administrator バージョン 2.0 またはそれ以前のバージョンではアップデート機能がサポートされています。Dell™ サーバーアップデートユーティリティと Dell アップデートパッケージはデルサポートサイト support.dell.com からダウンロードできます。これらは Microsoft Windows®、Red Hat® Enterprise Linux®、および SUSE® Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでサポートされています。

 **メモ:** Dell サーバーアップデートユーティリティまたは Dell アップデートパッケージは、アップデートするシステムから始動する必要があります。

プロパティ

サブタブ: **正常性** | **概要** | **資産情報** | **自動回復**

プロパティタブでは、以下のことができます。

- 1 **メインシステムシャーシ / メインシステム** オブジェクトのハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントと**ストレージ** オブジェクトの現在の正常性警告状態を表示します。
- 1 監視されているシステムのすべてのコンポーネントの詳細な概要情報を表示します。
- 1 監視されているシステムの資産情報を表示および設定します。
- 1 監視中のシステムの自動システム回復(ウォッチドッグタイマー)処置の表示と設定を行います。

 **メモ:** BIOS でオペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーが有効になっているので自動システム回復オプションは使用できません。自動回復オプションを設定するには、オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーを無効にする必要があります。

 **メモ:** 応答していないシステムをウォッチドッグが識別している場合は、設定したタイムアウト時間(n 秒)に従って自動システム回復処置が実行されない可能性があります。処置の実行時間は $n-h+1 \sim n+1$ 秒で、 n は設定したタイムアウト時間、 h はハートビート間隔です。ハートビート間隔の値は $n \leq 30$ の場合は 7 秒、 $n > 30$ の場合は 15 秒です。

 **メモ:** システム DRAM Bank_1 で修復できないメモリエventsが発生した場合に、ウォッチドッグタイマー機能の動作を保証できません。修復できないメモリエventsがこの場所で発生すると、この領域の BIOS コードレジデントが破損する場合があります。ウォッチドッグ機能は BIOS への呼び出しを使ってシャットダウンまたは再起動の動作を実行するので、この機能は正常に作動しません。この問題が起こった場合は、手でシステムを再起動する必要があります。

シャットダウン

サブタブ: **リモートシャットダウン** | **サーマルシャットダウン** | **Web Server シャットダウン**

シャットダウンタブでは、以下のことができます。

- 1 オペレーティングシステムのシャットダウンとリモートシャットダウンのオプションを設定します。
- 1 温度センサーが警告またはエラー値を返したときにシステムをシャットダウンするサーマルシャットダウンの重大レベルを設定します。

 **メモ:** サーマルシャットダウンは、センサーによって報告された温度が温度しきり値を超えた場合にのみ発生します。サーマルシャットダウンは、センサーによって報告された温度が温度しきり値を超えない場合はサーマルシャットダウンは起こりません。

- 1 DSM SA 接続サービス(Web server)をシャットダウンします。

 **メモ:** DSM SA 接続サービスがシャットダウンしている場合でも、Server Administrator はコマンドラインインタフェース(CLI)を使って使用できます。CLI 機能では、DSM SA 接続サービスが実行されている必要はありません。

 **メモ:** DSM SA 接続サービスは、再起動後自動的に開始されるので、毎回システムを起動するたびに DSM SA 接続サービスをシャットダウンする必要があります。

ログ

サブタブ: **ハードウェア** | **警告** | **コマンド**

ログタブでは、以下のことができます。

- 1 システムのハードウェアコンポーネントに関連したすべてのイベント一覧の組み込みシステム管理(ESM)ログまたはシステムイベントログ(SEL)を表示できます。ログファイルの使用量が 80% に到達すると、ログ名の隣にある状態インジケータアイコンは、正常状態(✔)から非重要状態(⚠)に変わります。Dell™ PowerEdge™ x8xx および x9xx システムでは、ログファイルの容量が 100% に到達すると、ログ名の隣にある状態インジケータアイコンは、重要状態(✖)に変わります。

 **メモ:** 容量が 80% に達したら、ハードウェアログをクリアすることをお勧めします。ログの容量が 100% に達してしまうと、最新のイベントはログから破棄されます。

- 1 センサーやその他の監視されているパラメータの変更に対する応答として、Server Administrator Instrumentation Service が生成したすべてのイベント一覧の警告ログを表示します。

 **メモ:** 各警告イベント ID の説明、重大レベルおよび原因などの完全な説明は、『Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。

- 1 Server Administrator ホームページまたはコマンドラインインタフェースから実行した各コマンド一覧が入ったコマンドログを表示します。

 **メモ:** ログの表示、印刷、保存および電子メール送付手順の詳細については、『[Server Administrator ログ](#)』を参照してください。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | プラットフォームイベント | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、システムコンポーネントセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置を設定します。
- 1 現在のプラットフォームイベントフィルタ設定の表示と、システムコンポーネントセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行するプラットフォームイベントフィルタ処置を設定します。また、**送信先の設定** オプションを使用して、プラットフォームイベントの警告を送信する送信先を選択します。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、計装されたシステムコンポーネントの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

 **メモ:** すべての潜在的なシステムコンポーネントのセンサーに対する警告処置は、システム上になくても **警告処置** ウィンドウに一覧表示されます。システム上にないシステムコンポーネントセンサーに対して警告処置を設定しても、効果はありません。

セッション管理

サブタブ: セッション

セッション管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在 Server Administrator にログインしているユーザーのセッション情報を表示する。
- 1 ユーザーセッションを終了する。

 **メモ:** セッション管理ページの表示およびログインユーザーのセッション終了は、システム管理者の権限をもつユーザーのみ行うことができます。

メインシステムシャーシ/メインシステム

メインシステムシャーシ / メインシステム オブジェクトをクリックすると、システムの主要なハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントを管理できます。

使用可能なコンポーネントは以下のとおりです。

- [AC スイッチ](#)
- [ポート](#)
- [バッテリー](#)
- [電源モニタ](#)
- [BIOS](#)
- [電源ユニット](#)
- [ファン](#)
- [プロセッサ](#)
- [ファームウェア](#)
- [リモートアクセス](#)
- [ハードウェアパフォーマンス](#)
- [スロット](#)
- [インテリジェン](#)
- [温度](#)
- [メモリ](#)
- [電圧](#)
- [ネットワーク](#)

 **メモ:** AC スイッチ は限られたシステムでサポートされています。

 **メモ:** バッテリー は Dell PowerEdge x9xx と Dell xx0x システムでのみサポートされています。

 **メモ:** ハードウェアパフォーマンス は Dell xx0x システムでのみサポートされています。

 **メモ:** 電源 は Dell PowerEdge 1900 システムでは使用できません。

 **メモ:** 電源の監視 は限られた Dell xx0x システムでサポートされています。

システム / サーバーには、1 つのメインシステムシャーシが含まれることもあれば、複数のシャーシが含まれることもあります。メインシステムシャーシ / メインシステムには、システムに不可欠なコンポーネントが含まれています。**メインシステムシャーシ / メインシステム** オブジェクト処置ウィンドウには **プロパティ** タブがあります。

プロパティ

サブタブ: 正常性 | 情報 | システムコンポーネント(FRU) | フロントパネル

プロパティ タブでは、以下のことができます。

ハードウェアコンポーネントおよびセンサーの正常性および状態を表示します。リスト内の各コンポーネント名の隣に「[システム / サーバーモジュールコンポーネントステータスインジケータ](#)」アイコンが表示されます。緑のチェックマーク()は、コンポーネントが正常であることを示します。感嘆符が入った黄色の三角形()は、コンポーネントは危険(重要ではない)状態で、速やかな対応が必要であることを示します。赤い X マーク()は、コンポーネントが故障(重要)状態にあり、早急に対応が必要であることを示します。ブランクスペース()は、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。使用できるモニタコンポーネントには次のようなものがあります。

- [AC スイッチ](#)
- [ネットワーク](#)
- [バッテリー](#)
- [電源モニタ](#)

- [ファン](#)
- [電源ユニット](#)
- [ハードウェアログ](#)
- [プロセッサ](#)
- [インテリジェン](#)
- [温度](#)
- [メモリ](#)
- [電圧](#)

 **メモ:** AC スイッチ は限られたシステムでサポートされています。

 **メモ:** バッテリ は Dell PowerEdge x9xx と Dell xx0x システムでのみサポートされています。

 **メモ:** 電源 は Dell PowerEdge 1900 システムでは使用できません。

 **メモ:** 電源の監視 は限られた Dell xx0x システムでサポートされています。

- 1 メインシステムシャーシのアトリビュートについての情報を表示します。
- 1 システムにインストールされているフィールド交換可能ユニット(FRU)に関する詳細を(システムコンポーネント(FRU) サブタブの下 に)表示します。メモ:Piece Part Identifiers (PPID)をもつ FRU のみリストに表示されます。
- 1 電源ボタンおよびシステムに存在する場合は NMI(非マスク割り込み)ボタンと呼ばれる、管理下システムのフロントパネルボタンを有効または無効にします。

AC スイッチ

AC スイッチ オブジェクトをクリックすると、システムの AC フェールオーバースイッチの主要機能を表示できます。AC スイッチ オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に従って、**プロパティ**タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、AC スイッチの冗長性と AC 電源供給ラインについて情報を表示できます。

バッテリー

バッテリー オブジェクトをクリックすると、システムに取り付けられている**バッテリー**の情報を表示できます。システムの電源がオフのときも、バッテリーは時間および日付を維持します。バッテリーは、システムが効率的に再起動できるよう、システムの BIOS 設定を保存します。**バッテリー** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に従って、**プロパティ**タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムバッテリーについての現在の読み取り値および状態を表示できます。

警告管理

警告管理 タブでは、バッテリー警告または重要 / エラーイベントが発生した時に有効にする警告を設定できます。

BIOS

BIOS オブジェクトをクリックすると、システムの BIOS の主要機能を管理できます。システムの BIOS には、フラッシュメモリチップセットに保存されて、プロセッサと周辺機器(キーボードやビデオアダプタ)間の通信と、システムメッセージなどその他の機能を制御するプログラムが含まれています。**BIOS** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に従って、**プロパティ**タブと **設定** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは BIOS 情報を表示できます。

設定

サブタブ: BIOS

セットアップ タブでは各 BIOS セットアップオブジェクトの状態を設定できます。

 **メモ:** **セットアップ** タブで起動順序を **デバイスリスト** に設定すると、起動順序は ディスケット、IDE CD ドライブ、ハードドライブ、オプションの ROM(デバイスを使用できる場合)となります。

シリアルポート、ネットワークインターフェースコントローラカード、起動順序、ユーザーのアクセスが可能な USB ポート、CPU 仮想化テクノロジー、CPU ハイバースレディング、AC 電源回復モード、内蔵 SATA コントローラ、コンソールリダイレクト、コンソールリダイレクト Failsafe ボーレート等の多数の BIOS 設定機能の状態を変更できます。また、内蔵 USB デバイス、トラステッドプラットフォームモジュール (TPM)、光学式ドライブコントローラ、自動システムリカバリ (ASR) ウォッチドッグタイマー、組み込みハイパーバイザ、マザーボード上の追加の LAN ネットワークポートを設定することもできます。

特定のシステム構成ではその他の設定アイテムが表示される場合もありますが、BIOS 設定オプションによっては、Server Administrator ではアクセス不能な F2 BIOS 設定画面に表示されるものがあります。

 **注意:** Server Administrator 内の NIC 設定情報 BIOS 設定が内蔵型の NIC では不正確な場合があります。BIOS 設定画面で NIC を有効または無効にすると、予想外の結果が生じる可能性があります。内蔵型の NIC では実際の **システムセットアップ** 画面(システムの起動中に <F2> を押してアクセス)からすべての設定を実行することをお勧めします。

 **メモ:** システムの BIOS 設定タブは、システムでサポートされる BIOS 機能のみを表示します。

ファン

ファン オブジェクトをクリックしてシステムのファンを管理します。Server Administrator は rpm の測定によって各システムファンの状態を監視します。Server Administrator は rpm の測定によって各システムファンの状態を監視します。デバイスツリーから **ファン** を選択すると、Server Administrator ホームページの右側ペインのデータ領域に詳細が表示されます。**バッテリー** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に従って、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: ファンブロープ | ファンコントロール

プロパティ タブでは、以下のことができます。

- 1 システムのファンブロープの電流読み取り値を表示して、ファンブロープ警告しきい値の最大値と最小値を設定します。

 **メモ:** 一部のファンブロープフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM かによって異なります。一部のしきい値は BMC ベースのシステムでは編集できません。

- 1 ファンコントロールオプションを選択します。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMPトラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、ファンが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置を設定します。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、ファンの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされません。

ファームウェア

ファームウェア オブジェクトをクリックしてシステムファームウェアを管理します。ファームウェアは、ROM に書き込まれたプログラムまたはデータから構成されています。ファームウェアはデバイスの起動や操作を実行できます。各コントローラには、コントローラの機能提供を円滑にするファームウェアが入っています。**ファームウェア** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムのファームウェア情報を表示できます。

ハードウェアパフォーマンス

ハードウェアパフォーマンス オブジェクトをクリックすると、システムパフォーマンスの劣化の状態と原因を表示されます。**ハードウェアパフォーマンス** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

[表 7-2](#) には、ブロープの取り得る値と状態が表示されます。

表 7-2. ブロープの取り得る値と状態

状態値	原因値
低下	ユーザー設定
	不十分な電源容量
	原因不明
標準	該当せず

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブで、システムのパフォーマンス低下の詳細を表示できます。

イントルージョン

イントルージョン オブジェクトをクリックすると、システムのシャールイントルージョンの状態を管理できます。Server Administrator では、システムの重大コンポーネントへの不正アクセスを防ぐセキュリティ対策としてシャールイントルージョンの状態をモニタします。シャールイントルージョンは、誰かがシステムのシャールを開いているか、開いたことを示します。**イントルージョン** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: インタールージョン

プロパティ タブでシャードインタールージョンの状態を表示できます。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 現在の警告処置設定の表示と、インタールージョンセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、インタールージョンセンサーの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

メモリ

メモリ オブジェクトをクリックすると、システムのメモリデバイスを管理できます。Server Administrator では、モニタ中のシステムに存在する各メモリモジュールのメモリデバイス状態をモニタします。メモリデバイスの事前故障センサーは、ECC メモリ修正数のカウントによってメモリモジュールをモニタします。また、システムでサポートされていれば、メモリ冗長性情報もモニタします。メモリ オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: メモリ

プロパティ タブでは、メモリのアトリビュート、メモリデバイスの詳細、およびメモリデバイスの状態を表示できます。

-  **メモ:** スベアバンクメモリが有効になっているシステムが「冗長性喪失」状態に入った場合、どのメモリモジュールが原因が明らかでない場合があります。交換する DIMM を特定できない場合は、ESM システムログの 検出されたスベアメモリバンクに切り替え というエントリを参照し、エラーが発生したメモリモジュールを見つけてください。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 現在の警告処置設定の表示と、メモリモジュールが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、メモリモジュールのレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

ネットワーク

ネットワーク オブジェクトをクリックすると、システムの NIC を管理できます。Server Administrator は、システムに存在する各 NIC の状態をモニタして、リモート接続が続いていることを確認します。ネットワーク オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムにインストールされている NIC についての情報を表示できます。

ポート

ポート オブジェクトをクリックすると、システムの外部ポートを管理できます。Server Administrator は、システムに存在する各外部ポートの状態をモニタします。ポート オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムの内部および外部ポート情報を表示できます。

電源モニタ

電源監視 オブジェクトをクリックすると、システムの消費電力を管理できます。Server Administrator は消費電力とアンペアを監視し、電源の統計情報の詳細を追跡します。電源監視 オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 消費電力

プロパティ タブでは、以下のことができます。

- システムの消費電力属性についての情報の表示
- 現在の各要素の属性についての情報の表示

- 1 システムの消費電力についての統計情報の追跡とピーク消費電力の記録

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、システム電源が警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、システム電力の警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度 レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

電源ユニット

電源装置 オブジェクトをクリックすると、電源装置を管理できます。Server Administrator は、冗長性を含めた電源装置の状態をモニタして、システムに存在する各電源装置が正しく機能しているか確認します。**電源装置** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ**タブと**警告管理**タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 要素

プロパティ タブでは、以下のことができます。

- 1 電源装置の冗長性アトリビュートについての情報を表示します。
- 1 個別の電源装置要素の状態をチェックします。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、電源が警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置を設定します。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、電源装置の警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度 レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

プロセッサ

プロセッサ オブジェクトをクリックすると、システムのプロセッサを管理できます。プロセッサはシステム内にある主要計算チップで、演算関数と論理関数の解釈と実行を制御します。**プロセッサ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ**タブと**警告管理**タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムのプロセッサについての情報を表示して、詳細な機能およびキャッシュ情報にアクセスできます。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、プロセッサが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、プロセッサの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

リモートアクセス

リモートアクセス オブジェクトをクリックすることにより、ベースボード管理コントローラ(BMC)機能および統合 Dell リモートアクセスコントローラ(iDRAC)機能を管理できます。

BMC/iDRAC を選択することにより、BMC/iDRAC の一般情報などの BMC/iDRAC 機能を管理できます。また、ローカルエリアネットワーク(LAN)上の BMC/iDRAC 設定、BMC/iDRAC のシリアルポート、シリアルポートのターミナルモード設定、シリアルオーバー LAN 接続の BMC/iDRAC、BMC/iDRAC ユーザーなども管理できます。

 **メモ:** BMC は Dell PowerEdge x8xx と x9xx システムでサポートされており、iDRAC は Dell xx0x システムでのみサポートされています。

 **メモ:** Server Administrator 以外のアプリケーションを使用して Server Administrator を実行中に BMC/iDRAC を設定すると、Server Administrator によって表示される BMC/iDRAC 設定データが BMC/iDRAC と非同期になることがあります。Server Administrator の実行中は Server Administrator を使用して BMC/iDRAC を設定されることをお勧めします。

Server Administrator の実行中は Server Administrator を使用して BMC/iDRAC を設定されることをお勧めします。Server Administrator DRAC は、操作不能なシステムへのリモートアクセス、システムダウン発生時の警告通知、そしてシステムを再起動する能力を提供します。

リモートアクセス オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ**タブ、**設定**タブ、**ユーザー**タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、一般的な BMC/iDRAC または DRAC 情報を表示できます。**デフォルトにリセット** をクリックすると、すべてのアトリビュートがシステムのデフォルト値にリセットされます。

構成

サブタブ: LAN | シリアルポート | シリアルオーバー LAN

BMC/iDRAC を設定する場合、**設定** タブで、LAN 上の BMC/iDRAC、BMC/iDRAC のシリアルポート、およびシリアルオーバー LAN 接続の BMC/iDRAC を設定できます。

DRAC を設定する場合、**設定** タブで、次の設定を実行できます。

- 1 ネットワークのプロパティ設定
- 1 SNMP トラップの設定
- 1 デマンドダイヤルアウトエントリの設定
- 1 ダイヤルインユーザーの設定
- 1 リモート起動パラメータなどのリモートのプロパティの設定
- 1 モデムプロパティの設定

 **メモ:** NIC を有効にする、NIC の選択、および暗号化キー フィールドは、Dell PowerEdge x9xx システム上でのみ表示されます。

ユーザー

サブタブ: ユーザー

ユーザー タブで リモートアクセスユーザー設定を変更できます。Remote Access Controller ユーザーについての情報を追加、設定、表示できます。

 **メモ:** Dell PowerEdge x9xx システム上。

- 1 10 個のユーザー ID が表示されます。DRAC カードがインストールされている場合は、16 個のユーザー ID が表示されます。
- 1 シリアルオーバー LAN ベイロード列が表示されます。

スロット

スロット オブジェクトをクリックすると、拡張カードなど、プリント回路基板を使用するシステム基板のコネクタまたはソケットを管理できます。**スロット** オブジェクト処置ウィンドウには**プロパティ** タブがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、各スロットと取り付けられたアダプタについての情報を表示できます。

温度

温度 オブジェクトをクリックすると、システム温度を管理して、システムの内部コンポーネントへの熱損傷を防ぐことができます。Server Administrator は、システムのシャーシのさまざまな場所で温度をモニタして、シャーシ内部の温度が高くなりすぎないようにします。**温度** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** タブ、**警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 温度プローブ

プロパティ タブで、システムの温度プローブの現在の読み取りと状況を表示したり、温度プローブ警告しきい値の最大および最小値を設定することができます。

 **メモ:** 一部の温度プローブフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM かによって異なります。一部のしきい値は BMC ベースのシステムでは編集できません。プローブしきい値を割り当てるとき、入力した最小値または最大値が割り当て可能な値に自動的に四捨五入される場合があります。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、温度プローブが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置を設定します。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、温度プローブの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度 レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

 **メモ:** ユーザーは外部シャーシの最小温度プローブしきい値と最大温度プローブしきい値を整数でのみ設定できます。ユーザーが最小温度プローブしきい値または最大温度プローブしきい値を小数点が含まれる値に設定すると、小数点の前の整数だけがしきい値設定として保存されます。

電圧

電圧 オブジェクトをクリックすると、システムの電圧レベルを管理できます。Server Administrator は、監視されているシステム内のさまざまなシャーシの場所において、重要なコンポーネントの電圧

をモニタします。**電圧** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** タブおよび **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 電圧ブローブ

プロパティ タブで、システムの電圧ブローブの現在の読み取りと状況を表示したり、電圧ブローブ警告しきい値の最大および最小値を設定することができます。

 **メモ:** 一部の電圧ブローブフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM かによって異なります。一部のしきい値は BMC ベース のシステムでは編集できません。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | SNMP トラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、システム電圧センサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、電圧センサーのしきい値のレベルを設定します。選択した重大度 レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

ソフトウェア

ソフトウェア オブジェクトをクリックすると、オペレーティングシステムやシステム管理ソフトウェアなど、管理下システムの重要なソフトウェアコンポーネントの詳しいバージョン情報が表示できます。**ソフトウェア** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 概要

プロパティ タブでは、モニタシステムのオペレーティングシステムとシステム管理ソフトウェアの概要を表示できます。

オペレーティングシステム

オペレーティングシステム オブジェクトをクリックすると、オペレーティングシステムの基本情報を表示できます。**オペレーティングシステム** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、オペレーティングシステムの情報を表示できます。

ストレージ

Server Administrator は、Storage Management Service を提供します。

Storage Management Service はストレージデバイスの設定機能を提供します。ほとんどの場合、Storage Management Service は 標準セットアップを使用してインストールします。Storage Management は Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムで使用可能です。

Storage Management Service がインストールされている場合、**ストレージ** オブジェクトをクリックすると、接続している各種のアレイストレージデバイス、システムディスクなどの状態および設定が表示されます。

Storage Management Service の場合、**ストレージ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 正常性

プロパティ タブでは、アレイサブシステム、オペレーティングシステムディスクなど、接続しているストレージコンポーネントやセンサーの正常性や状態を表示できます。

Storage Management Service

Storage Management Service の場合は、**ストレージ** オブジェクトをクリックすると、システムに接続している対応コントローラの状態と設定を表示できます。コントローラオブジェクトが展開され、コントローラに接続しているストレージデバイスが表示されます。

ストレージ オブジェクトを展開すると、次のような下位レベルオブジェクトが表示されます。これはシステムに接続しているコントローラとストレージによって異なります。

- | | |
|---------------------|----------|
| 1 コントローラ | 1 EMM |
| 1 バッテリー | 1 ファン |
| 1 コネクタ | 1 電源装置 |
| 1 エンクロージャまたはバックプレーン | 1 仮想ディスク |

ストレージ オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 正常性

プロパティ タブの **正常性** ウィンドウでは、ストレージダッシュボード情報を表示できます。ストレージダッシュボードには、システムで使用可能なコントローラがすべて表示されます。使用可能なタスクドロップダウンメニューを使って、コントローラを設定できます。ストレージダッシュボードには、仮想ディスクの詳細とコントローラの正常性も表示されます。

 **メモ:** ストレージダッシュボードの 使用可能なタスク を使用するには、管理者権限でログインする必要があります。

サブタブ: 情報 / 設定

プロパティ タブの **情報 / 設定** ウィンドウでは、システムに接続しているコントローラの**プロパティ**を表示できます。グローバルタスクを実行して、すべてのコントローラに適用することもできます。

コントローラ

コントローラ オブジェクトをクリックすると、コントローラおよびコントローラに接続している各種コンポーネントに関する情報を表示できます。コントローラに接続しているコンポーネントには、バッテリー、仮想ディスクなどがあります。**コントローラ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に従って、**正常性** タブと **情報 / 設定** タブが表示されます。

正常性

正常性 タブには、コントローラに接続しているバッテリー、仮想ディスクなどのストレージコンポーネントに関する状態を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

情報 / 設定

情報 / 設定 タブでは、コントローラおよびコントローラに接続しているコンポーネントのプロパティ情報を表示できます。このタブでコントローラタスクを実行することもできます。

コネクタ

コネクタ オブジェクトをクリックすると、コネクタおよびコネクタに接続しているエンクロージャやバックプレーンに関する情報を表示できます。**コネクタ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**正常性** タブと **情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

正常性

正常性 タブでは、コネクタおよびコネクタに接続しているエンクロージャやバックプレーンに関する現在の状態を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、コネクタおよびコネクタに接続しているエンクロージャやバックプレーンに関するプロパティ情報を表示できます。このタブでコネクタのタスクを実行することもできます。

エンクロージャまたはバックプレーン

エンクロージャまたはバックプレーン オブジェクトをクリックすると、エンクロージャやバックプレーンに接続している物理ディスク、温度プローブなどのコンポーネントに関する情報を表示できます。**エンクロージャまたはバックプレーン** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**正常性** タブと **情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

正常性

正常性 タブでは、エンクロージャやバックプレーンに接続している物理ディスクなどのコンポーネントの現在の状態を表示できます。たとえば、エンクロージャのファン、電源装置、温度 プローブなどの状態がこのタブに表示されます。バックプレーンに接続している物理ディスクの状態 もここに示されます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、物理ディスク、温度プローブ、EMM(エンクロージャ管理モジュール)など、エンクロージャまたはバックプレーンに接続しているコンポーネントのプロパティ情報を表示できます。エンクロージャの場合、このタブでエンクロージャのタスクを実行することもできます。

物理ディスク

物理ディスク オブジェクトをクリックすると、エンクロージャまたはバックプレーンに接続している物理ディスクに関する情報を表示できます。**物理ディスク** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、エンクロージャまたはバックプレーンに接続している物理ディスクの現在状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、容量、使用済みおよび空きディスク容量などの情報が含まれます。このタブで物理ディスクのタスクを実行することもできます。

EMM

EMM オブジェクトをクリックすると、EMM(エンクロージャ管理モジュール)に関する情報を表示できます。EMM オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、EMM の現在の状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、パーツナンバー、ファームウェアバージョン、および SCSI 率などが含まれます。

ファン

ファン オブジェクトをクリックすると、エンクロージャファンに関する情報を表示できます。**ファン** オブジェクト 処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、ファンの現在状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、ファンの名前、状況、パーツナンバー、およびスピードなどが含まれます。

電源ユニット

電源装置 オブジェクトをクリックすると、エンクロージャ電源装置に関する情報を表示できます。**電源装置** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、エンクロージャ電源装置の現在状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、パーツナンバーなどが含まれます。

温度

温度 オブジェクトをクリックすると、エンクロージャ温度プローブに関する情報を表示できます。**温度** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、エンクロージャ電源装置の現在状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、読み取り値(現在の温度)などがあります。このタブには、温度プローブの **警告** および **エラー** しきい値 に設定される最小値と最大値も表示されます。

仮想ディスク

仮想ディスク オブジェクトをクリックすると、コントローラに設定された仮想ディスクに関する情報を表示できます。**仮想ディスク** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**情報 / 設定** タブが表示されることがあります。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、コントローラに設定された仮想ディスクのプロパティ情報を表示できます。プロパティ情報には、名前、状況、レイアウト(RAID レベル)などが含まれます。読み取り、書き込み、およびキャッシュポリシー、ストライプサイズも表示されます。このタブで物理ディスクのタスクを実行することもできます。

ファームウェア / ドライババージョン

ファームウェア / ドライババージョン オブジェクトをクリックすることにより、現在コントローラにインストールされているドライバおよびファームウェアのバージョン情報を表示することができます。ファームウェアおよびドライバのプロパティはコントローラのモデルにより異なります。

ファームウェアおよびドライバのプロパティには次のアイテムが含まれます。

- 1 ファームウェアバージョン
- 1 ファームウェアバージョンの最小要件
- 1 ドライババージョン
- 1 ドライババージョンの最小要件

ストレージコンポーネントの重大度

コンポーネントの状態は重大度によってレベル付けされます。重大度の各レベルに応じて対処法が変わります。たとえば、**警告** または **重要 / エラー** 状態の場合は、データ損失を回避するために即座に修正措置をとる必要があります。

コンポーネントが **警告** または **重要** 状態になる理由を示すイベントを探すには、警告ログの情報が役立ちます。トラブルシューティングの詳細については、「Storage Management オンライン ヘルプ」を参照してください。

 **メモ:** 表示される状態は、ブラウザがそのページを初めて表示したときの状態を反映しています。状態が変化していることが予想され、表示情報をアップデートする場合は、処置ウィンドウの右上隅にある **更新** ボタンをクリックしてください。ストレージ設定変更は、コントローラの **再スキャン** を実行したときにのみ検知可能な場合があるため、必要なコントローラの **情報 / 設定** タブをクリックしてから、**再スキャン** をクリックしてください。

表 7-3 は、さまざまな重大度レベルと、それに対応するコンポーネントの状態を示しています。

表 7-3 重大度レベルとコンポーネントの状態

重大度レベル	重大度レベルとコンポーネントの状態
	正常 / OK。コンポーネントは予想どおりに動作しています。
	非重要 / 警告 プロープまたはその他モニターデバイスが許容レベルを超えるコンポーネントの読み取り値を検知しました。コンポーネントがまだ機能していても、エラーが発生する可能性があります。または、コンポーネントが不安定な状態で機能している可能性があります。データ損失の可能性もあります。
	重要 / 障害 / エラー。コンポーネントでエラーが発生したか発生する恐れがあります。このコンポーネントは即座に処置を要し、交換が必要な場合もあります。データ損失が発生した可能性もあります。

ストレージイベント警告の設定

Server Administrator Instrumentation Service を使って、ストレージイベント警告処置パラメータなど、最も関連のあるストレージ 機能を設定できます。

1. システム オブジェクトをクリックします。
2. 警告管理 タブをクリックします。
3. 警告処置をクリックします。
4. ストレージイベントをクリックします。

ストレージイベント ウィンドウでは、特定のストレージイベントに対して個別の処置を取ることができます。

 **メモ:** ストレージイベント警告を設定するには、管理者権限でログインする必要があります。

次のストレージイベントを設定できます。

1 ストレージシステム 警告	1 仮想ディスク 警告
1 ストレージシステム 失敗	1 仮想ディスク 失敗
1 ストレージ コントローラ 警告	1 エンクロージャ 警告
1 ストレージ コントローラ 失敗	1 エンクロージャ 失敗
1 物理ディスク 警告	1 ストレージ コントローラ バッテリー 警告
1 物理ディスク 失敗	1 ストレージ コントローラ バッテリー 失敗

 **メモ:** ストレージコントローラバッテリー警告 と ストレージコントローラバッテリーエラー イベントはモジュラーシステムでは使用できません。

5. 選択した処置に対して警告を生成したいストレージイベントを選択します。
6. 変更の適用 をクリックします。
7. 警告処置ページに戻る をクリックして、警告処置情報 ウィンドウに戻ります。

プリファランス: ホームページ設定オプションの管理

プリファランスホームページの左ウィンドウ枠(システムツリーが Server Administrator ホームページで表示されている)には、システムツリーウィンドウの使用可能な設定オプションがすべて表示されます。表示されるオプションは、管理下システムにインストールされているシステム管理ソフトウェアによって異なります。

使用可能なプリファランスホームページオプションについては、表 7-4 を参照してください。

表 7-4 プリファランスホームページ設定オプション

	*****	一般設定
	*****	Server Administrator

一般設定

一般設定 オブジェクトをクリックすると、選択した Server Administrator 機能のユーザーとDSM SA 接続サービス(Web Server)の環境を設定できます。**一般設定** オブジェクトウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**ユーザー** タブと **Web Server** タブが表示されることがあります。

ユーザー

サブタブ: プロパティ

ユーザー タブでは、ホームページの外観や **電子メール** ボタン用のデフォルト電子メールアドレスなどのユーザー設定を設定できます。

Web Server

サブタブ: プロパティ | X.509 証明書

Web Server プでは以下のことができます。

- 1 DSM SA 接続サービスプリファランスの設定。サーバー設定の指定方法については、「[Dell Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定](#)」を参照してください。
- 1 新しい X.509 証明書を作成したり、既存の X.509 証明書を再利用したり、認証機関(CA)からルート認証や認証チェーンをインポートして X.509 証明書を管理します。証明書管理の詳細については、「[X.509 証明書管理](#)」を参照してください。

Server Administrator

Server Administrator オブジェクトをクリックすると、ユーザー権限とパワーユーザー権限のあるユーザーのアクセスを有効または無効にして、SNMP ルートパスワードを設定できます。**Server Administrator** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限によっては、**プリファランス** タブが表示されることがあります。

プリファランス

サブタブ: アクセス設定 | SNMP 設定

プリファランス タブでは、以下のことができます。

- 1 ユーザー権限またはパワーユーザー権限を持つユーザーのアクセスを有効または無効にします。
- 1 SNMP ルートパスワードを設定します。

 **メモ:** デフォルト SNMP ユーザーは root、デフォルトパスワードは calvin です。

- 1 SNMP Set 操作を設定します。

 **メモ:** SNMP Set 操作を設定した後で変更を有効にするには、サービスを再起動する必要があります。対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、Windows SNMP サービスを再起動する必要があります。対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、`srvadmin-services.sh restart` コマンドを実行して Server Administrator サービスを再起動する必要があります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

はじめに

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [組み込み機能](#)
- [その他の参考ドキュメント](#)
- [テクニカルサポートの利用法](#)

概要

Server Administrator には、統合されたブラウザベースのグラフィカルユーザーインターフェイス(GUI)、および OS を通じて使用するコマンドラインインターフェイス(CLI)の 2 つの形式で、包括的な 1 対 1 のシステム管理ソリューションが備わっています。Server Administrator は、システム管理者がネットワーク上のシステムをローカルおよびリモートで管理できるように設計されています。Server Administrator は包括的な 1 対 1 のシステム管理を提供することにより、システム管理者がネットワーク全体の管理に集中できるようにします。

 **メモ:** Server Administrator を使用するには、システムはスタンドアロン、別のシャーシ内に NAS ユニットの備えたサーバー、1 つのシャーシ内に 1 つまたは複数のサーバーモジュールを組み込んだモジュラーシステムのいずれでもかまいません。

Server Administrator は次の情報を提供します。

- 1 正常に動作しているシステムと問題があるシステム
- 1 リモート回復操作が必要なシステム

 **メモ:** リモート回復するには、Dell™ Remote Access Controller カードが実装されていなければなりません。

組み込み機能

Server Administrator は、統合管理サービスの総合セットを利用した使い易いローカルおよびリモートシステムの管理制御を提供します。Server Administrator のみを管理下システムにインストールするだけで、Server Administrator ホームページからローカルおよびリモートにアクセスできます。リモートで監視しているシステムには、ダイヤルイン、LAN、またはワイヤレス接続を使ってアクセスできます。Server Administrator では、ロールベースアクセス制御(RBAC)、認証、および業界標準セキュアソケットレイヤ(SSL) 暗号化を使って管理接続のセキュリティを確保します。

インストール

Server Administrator は複数の方法でインストールできます。『Dell® Systems Management Tools and Documentation DVD』には、Server Administrator および他のシステム管理ソフトウェアのコンポーネントをお使いのシステムにインストール、アップグレードし、アンインストールするためのセットアッププログラムが用意されています。この DVD には、管理ステーションに管理ステーションソフトウェアコンポーネントをインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムも収録されています。また、ネットワークを介して Server Administrator を複数のシステムに無人インストールすることもできます。

 **メモ:** モジュラーシステムがある場合、シャーシでインストールされている各サーバーモジュールに Server Administrator をインストールする必要があります。

 **メモ:** Server Administrator の無人 インストール / アンインストールの詳細については、『Dell OpenManage™ インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

個々のシステムコンポーネントをアップデートするには、コンポーネント専用の Dell アップデートパッケージを使用してください。『Dell Server Update DVD』を使用すると、完全なバージョンレポートを表示して、システム全体をアップデートすることができます。Server Update Utility は、アップデートを見つけてサーバーに適用する DVD-ROM ベースのアプリケーションです。このユーティリティは support.dell.com からダウンロードできます。

『Server Update Utility ユーザーズガイド』では、Dell サーバーをアップデートしたり、リポジトリに登録されているサーバーに適用可能なアップデートを表示できるサーバーアップデートユーティリティ(SUU)の入手方法と使用方法に関する情報を参照してください。

Server Administrator ホームページ

Server Administrator ホームページは、管理下システムから、または LAN、ダイヤルアップサービス、またはワイヤレスネットワークを使用したりリモートホストから、セットアップと使用が簡単なウェブブラウザベースのシステム管理タスクを提供します。Dell Systems Management Server Administrator 接続サービス(DSM SA 接続サービス)が管理下システムにインストールおよび設定されている場合は、サポートされているウェブブラウザおよび接続機能をもつすべてのシステムからリモート管理機能を実行することができます。さらに Server Administrator ホームページは、包括的なオンラインコンテキストヘルプを提供します。

Instrumentation Service(計装サービス) :

Instrumentation Service は、業界標準システム管理エージェントによって収集された故障と性能についての詳細情報への迅速なアクセスを提供して、シャットダウン、起動、およびセキュリティなどモニタシステムのリモート管理を実現します。

リモートアクセスコントローラ

 **メモ:** Remote Access Controller はモジュラーシステムでは使用できません。モジュラーシステムの Dell Embedded Remote Access/Modular Chassis Controller(ERA/MC) に直接接続する必要があります。詳細については、『Dell Embedded Remote Access/MC ユーザーズガイド』を参照してください。

Remote Access Controller は、Dell Remote Access Controller (DRAC) ソリューションを搭載したシステムに完全なリモートシステム管理ソリューションを提供します。Remote Access Controller は、動作不能のシステムへのリモートアクセスを提供するため、迅速なシステム起動と実行を実現できます。Remote Access Controller は、システムがダウンしたときに警告を通知し、システムをリモートで再起動できるようにします。さらに、Remote Access Controller はシステムクラッシュの原因をログに記録し、一番最後のクラッシュ画面を保存します。

ストレージ管理サービス

Storage Management Service は、統合グラフィカル表示でストレージ管理情報を提供します。

Server Administrator の Storage Management Service:

- 1 モニタされるシステムに接続しているローカルおよびリモートのストレージのステータスを表示できます。
- 1 SCSI、SATA、ATA、および SAS をサポートしています。ファイバチャネルはサポートしていません。
- 1 対応するすべての RAID および RAID 以外のコントローラとエンクロージャについて、コントローラ BIOS ユーティリティを使用せず、単一のグラフィカルインタフェースまたはコマンドラインインタフェースから、コントローラおよびエンクロージャ機能を実行できます。
- 1 データ冗長性の設定、ホットスワップ割り当て、または障害発生ドライブの再構成によってデータを保護します。
- 1 ストレージ設定機能を提供します。

対応 Microsoft® Windows® オペレーティングシステムでは、標準セットアップを使用して Storage Management をインストールします。

対応の Red Hat® Enterprise Linux® および SUSE® Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを実行するシステムでは、Package Manager (RPM) を介してインストールするか、あるいは選択したオプションに基づき適切な RPM をインストールするメニュー誘導型スクリプトの `svadmin-install.sh` を使用することができます。

Storage Management Service の詳細については、「Storage Management Service オンラインヘルプ」および『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。オンラインヘルプの起動方法については、「[オンラインヘルプの表示](#)」を参照してください。



注意: 現在、Dell OpenManage Array Manager はサポートされていません。Array Manager をインストールした状態でシステム (Dell OpenManage バージョン 4.3 以降をインストール済み) をアップグレードすると、アップグレード進行中に Array Manager が削除されます。代わりに Storage Management を使用できます。



メモ: Storage Management のインストールを行うことにより、システム上の Array Manager Managed System (サーバーソフトウェア) およびコンソール (クライアントソフトウェア) の古いインストールが置換されます。万が一 Array Manager コンソールがシステムにインストールされている場合、Storage Management のインストールにより Array Manager コンソールが交換されることはありません。



メモ: Dell OpenManage Array Manager コンソール (Management Station 用) は、(Array Manager コンソールインストール済み) の古い Dell OpenManage Management Station Software が検知される場合のみ、Windows において使用可能です。これはアップグレード用のみ使用可能です。

ログ

Server Administrator には、システム、モニタハードウェアイベントおよびシステム警告などに発行されたコマンドのログが表示されます。ログはホームページで表示したり、レポートとして印刷または保存したり、指定のサービス担当者に電子メールで送信できます。

その他の参考ドキュメント

このユーザーズガイドのほか、以下のガイドを『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』または Dell サポートサイト support.dell.com からご利用いただけます。

- 1 『Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』には、各種の Dell システム、これらのシステムでサポートされているオペレーティングシステム、これらのシステムにインストールできる Dell OpenManage コンポーネントについての情報が記載されています。
- 1 『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』では、インストール方法に関する包括的な情報と、サポートしている各オペレーティングシステム別に Server Administrator のインストール、アップグレード、およびアンインストールの詳しい手順を説明しています。
- 1 『Dell OpenManage ソフトウェアクイックインストールガイド』では、管理ステーション (コンソール) および管理下システムにインストールできるアプリケーションの概要と、対応オペレーティングシステムを実行しているコンソールおよび Managed System アプリケーションのインストール手順について説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator 互換性ガイド』では、Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux Enterprise Server などの対応オペレーティングシステムを実行している各種ハードウェアプラットフォーム (またはシステム) での Server Administrator のインストールと運用に関する互換性情報を提供しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator SNMP リファレンスガイド』は、管理ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 管理情報ベース (MIB) について文書化したものです。SNMP MIB はシステム管理エージェントの機能を行うよう標準 MIB を拡張する変数を定義します。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator CIM リファレンスガイド』は、標準管理オブジェクト形式 (MOF) ファイルの拡張機能である Common Information Model (CIM) プロバイダについて文書化したものです。CIM プロバイダの MOF のマニュアルでは、管理オブジェクトのサポートされているクラスについて説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator メッセージリファレンスガイド』は、Server Administrator ホームページの警告ログまたはオペレーティングシステムのイベントビューアに表示されるメッセージ一覧を掲載しています。このガイドは Server Administrator が発行する各警告メッセージのテキスト、重大度、および原因について説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』は、システムの状態の表示、ログへのアクセス、レポートの作成、コンポーネントの各種パラメータの設定、重要なしきい値の設定などを CLI コマンドを使って実行する方法のほか、Server Administrator のコマンドラインインタフェースについても詳しく説明しています。
- 1 iDRAC の設定と使用の詳細については、『Dell Integrated Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。
- 1 CNC のインストール、設定、使用の詳細については、『Dell Chassis Management Controller ユーザーズガイド』を参照してください。
- 1 『Dell Online Diagnostics ユーザーズガイド』では、システムでのオンライン診断のインストールおよび使用に関する情報を完全に網羅しています。
- 1 『Dell OpenManage ベースボード管理コントローラユーティリティユーザーズガイド』は Server Administrator を使ったシステムの BMC 設定および管理についての追加情報を提供します。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』は、システムに接続しているローカルおよびリモートのストレージを設定、管理するための包括的なリファレンスガイドです。
- 1 『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』では、DRAC III、DRAC III/XT および ERA/O コントローラのインストールと設定方法、ERA コントローラの設定方法、および RAC を使用した作動不能のシステムへのアクセス方法に関する情報を完全に網羅しています。

- 1 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、racadm コマンドラインユーティリティの使い方についての情報を提供します。
- 1 『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』では、DRAC 4 コントローラのインストールと設定方法、および DRAC 4 を使用した作動不能システムへのアクセス方法に関する情報を完全に網羅しています。
- 1 『Dell Remote Access Controller 5 ユーザーズガイド』では、DRAC 5 コントローラのインストールと設定方法、および DRAC 5 を使用した作動不能システムへのアクセス方法に関する情報を完全に網羅しています。
- 1 『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』では、モジュール式システムとその共有リソースをネットワークを介してリモートから管理、モニタするための ERA/MC の設定と使用法を説明しています。
- 1 『Dell OpenManage リモートインストールユーザーズガイド』では、イメージベースのテクノロジーを活用し、ネットワークを介した無人の同時配備と設定のソリューションに関する情報を提供しています。
- 1 『Dell アップデートパッケージユーザーズガイド』では、システムアップデートの対策として、Dell アップデートパッケージの入手方法と使用法に関する情報を掲載しています。
- 1 『Dell OpenManage サーバーアップデートユーティリティユーザーズガイド』では、Dell システムをアップデートしたり、リポジットに登録されているシステムに適用可能なアップデートを表示できるサーバーアップデートユーティリティ(SUU)の入手方法と使用法に関する情報を掲載しています。

『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』には、Server Administrator の readme ファイルとその他のアプリケーションが収録されています。

テクニカルサポートの利用法

このガイドに記載された手順がよくわからない場合や、お使いの製品が予想通りに実行されない場合は、ヘルプツールを使用してください。ヘルプツールの詳細については、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』の「困ったときは」を参照してください。

さらに、Dell エンタープライズのトレーニングと検定もご利用いただけます。詳細については、www.dell.com/training を参照してください。このサービスが提供されていない地域もあります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Server Administrator ログ

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [組み込み機能](#)
- [Server Administrator ログ](#)

概要

Server Administrator を使用すると、ハードウェア、警告、およびコマンドなどのログを表示して管理できます。すべてのユーザーが Server Administrator ホームページまたはコマンドラインインタフェースからログにアクセスして、レポートを印刷できます。ログをクリアするには管理者権限でログインし、ログを指定のサービス連絡先に電子メールで送信するには管理者権限かパワーユーザー特権でログインする必要があります。

コマンドラインからのログの表示およびレポートの作成についての情報は、『Dell® OpenManage® Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。

Server Administrator ログを表示する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについての詳細を表示できます。Server Administrator ログヘルプは、ユーザー特権レベルと、Server Administrator が Managed System 上に検出する特定のハードウェアおよびソフトウェア群に応じてアクセスできるすべてのウィンドウでご利用いただけます。

組み込み機能

列見出しをクリックすると、列ごとに並べ替えられるか、列の並べ替えの方向が変わります。さらに、各ログ ウィンドウには、システム管理とサポートに使用できるいくつかのタスクボタンがあります。

ログウィンドウタスクボタン

- 1 ログのコピーをデフォルトのプリンタに印刷するには、**印刷** をクリックします。
- 1 (各データフィールドをカスタマイズ可能な区切り文字で区切った値を持つ) ログデータが含まれたテキストファイルを指定の場所に保存するには、**エクスポート** をクリックします。
- 1 ログのコンテンツを添付を含む電子メールメッセージを作成するには、**電子メール** をクリックします。
- 1 ログからすべてのイベントを消去するには、**ログのクリア** をクリックします。
- 1 ログのコンテンツを .zip ファイルに保存するには、**名前を付けて保存** をクリックします。
- 1 アクションウィンドウデータ領域にログのコンテンツを再度ロードするには、**更新** をクリックします。

タスクボタンの使用方法についての詳細は、「[タスクボタン](#)」を参照してください。

Server Administrator ログ

Server Administrator では次のログを提供しています。

- 1 [ハードウェアログ](#)
- 1 [警告ログ](#)
- 1 [コマンドログ](#)

ハードウェアログ

ハードウェアコンポーネントに問題があると考えられる場合、ハードウェアログを使用します。Dell PowerEdge? x8xx および x9xx システムでは、ログファイルの容量が 100% に達するとハードウェアログ状態インジケータが故障 (❌) に変わります。システムによって、Embedded System Management (ESM) ログと System Event Log (SEL) の 2 種類の異なるハードウェアログがあります。ESM ログと SEL はそれぞれ、システム管理ソフトウェアにハードウェア 状態 メッセージを送ることができる一組の組み込み命令です。ログに一覧表示された各コンポーネントには、名前前の横にステータス インジケータアイコンがあります。緑のチェック マーク (✅) は、コンポーネントが正常であることを示します。感嘆符が入った黄色の三角形 (⚠️) は、コンポーネントは危険 (重要ではない) 状態で、速やかな対応が必要なことを示します。赤い X マーク (❌) は、コンポーネントが故障 (重要) 状態にあり、早急に対応が必要なことを示します。ブランクスペース () は、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。

ハードウェアログにアクセスするには、**システム** をクリックし、**ログ** タブをクリックしてから、**ハードウェア** をクリックします。

ESM および SEL ログ には次のような情報が含まれます。

- 1 イベントの重大度
- 1 イベントがキャプチャされた日時
- 1 イベントの説明

ハードウェアログの維持

ログファイルの容量が 80% に到達すると、Server Administrator ホームページにあるログ名の隣にある状態インジケータアイコンは、正常状態 (✅) から非重要状態 (⚠️) に変わります。容量

が 80 % に達したら、ハードウェアログを必ずクリアしてください。ログの容量が 100 % に達してしまうと、最新のイベントはログから破棄されます。

警告ログ

 **メモ:** 警告ログで無効な XML データ(たとえば選択されたデータ用に生成された XML データの形式が正しくない場合)が表示された場合、**ログのクリア** をクリックするとログ情報が再度表示されます。

警告ログを使用すると、さまざまなシステムイベントをモニタできます。Server Administrator では、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じてイベントが生成されます。警告ログに記録される各状態変更イベントは、特定のイベントソースカテゴリのイベント ID と呼ばれる固有の ID と、そのイベントについて説明したイベントメッセージから構成されています。イベント ID とメッセージは、個々のイベントの重大度と原因を説明し、イベントの場所やモニタコンポーネントの以前の状態などの関連情報を提供します。

警告ログにアクセスするには、**システム** をクリックし、**ログ タブ** をクリックしてから、**警告** をクリックします。

警告ログには次のような情報が含まれます。

- 1 イベントの重大度
- 1 イベント ID
- 1 イベントがキャプチャされた日時
- 1 イベントのカテゴリ
- 1 イベントの説明

 **メモ:** ログ履歴は、今後のトラブルシューティングや診断目的で必要になることがあります。したがって、ログファイルを保存することをお勧めします。

警告メッセージの詳細については、『Server Administrator Messages リファレンスガイド』を参照してください。

コマンドログ

 **メモ:** コマンドログで無効な XML データ(たとえば選択されたデータ用に生成された XML データの形式が正しくない場合)が表示された場合、**ログのクリア** をクリックするとログ情報が再度表示されます。

Server Administrator ユーザーが発行したすべてのコマンドをモニタするには、コマンドログを使用します。コマンドログは、ログイン、ログアウト、システム管理ソフトウェアの初期化、システム管理ソフトウェアが開始したシャットダウンなどを追跡し、最後にログがクリアされた日時を記録します。コマンドログファイルのサイズは、必要に応じて指定できます。

コマンドログにアクセスするには、**システム** をクリックし、**ログ タブ** をクリックしてから、**コマンド** をクリックします。

コマンドログには次のような情報が含まれます。

- 1 コマンドが起動された日時
- 1 Server Administrator ホームページまたは CLI に現在ログインしているユーザー
- 1 コマンドと関連値の説明

 **メモ:** ログ履歴は、今後のトラブルシューティングや診断目的で必要になることがあります。したがって、ログファイルを保存することをお勧めします。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ベースボード管理コントローラ / Integrated Dell Remote Access Controller の操作

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [基本の BMC 情報の表示](#)
- [BMC/iDRAC ユーザーの設定](#)
- [BMC プラットフォームのイベントフィルター警告の設定](#)
- [シリアルオーバー LAN 接続を使用した BMC/iDRAC の設定](#)
- [シリアルポート接続を使用した BMC の設定](#)
- [BMC/iDRAC に LAN 接続を使用させる設定](#)
- [Dell Remote Access Controller へのアクセスと使用](#)

 **メモ:** ベースボード管理コントローラ(BMC)は Dell™ PowerEdge™ x8xx および x9xx システムでサポートされ、Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) は xx0x システムでのみサポートされています。

概要

Dell システムベースボード管理コントローラ(BMC)/Integrated Dell Remote Access Controller(iDRAC)は、システムボード上のさまざまなセンサーと通信して重要なイベントをモニタし、一定のパラメータがプリセットしきい値を超えたときに警告とログイベントを送信します。BMC/iDRAC は、業界標準の Intelligent Platform Management Interface(IPMI)仕様をサポートし、システムをリモートで設定、監視および復旧することができます。

[表 8-1](#) システムに Server Administrator がインストールされたときに GUI フィールド名と該当システムが一覧表示されます。

表 8-1 以下の GUI フィールド名に対するシステムの可用性

GUI フィールド名	該当システム
モジュラーエンクロージャ	モジュラーシステム
サーバーモジュール	モジュラーシステム
メインシステム	モジュラーシステム
システム	非モジュラーシステム
メインシステムシャーシ	非モジュラーシステム
BMC	Dell PowerEdge x8xx と x9xxシステム
iDRAC	Dell xx0x システム

Server Administrator では、イベントログ、電源制御、センサー状況情報へのリモートの帯域内アクセスが可能で、BMC/iDRAC を設定する機能も提供します。BMC/iDRAC は、**メインシステムシャーシ / メインシステムグループ**のサブコンポーネントである **リモートアクセス** オブジェクトをクリックして、Server Administrator グラフィカルユーザーインターフェースから管理できます。次の BMC 関連タスクを実行できます。

- 1 基本の BMC/iDRAC 情報の表示
- 1 BMC/iDRAC ユーザーの設定
- 1 BMC/iDRAC プラットフォームのイベントフィルター警告の設定
- 1 シリアルオーバー LAN 接続での BMC/iDRAC の設定
- 1 シリアルポート接続での BMC の設定
- 1 仮想 LAN 接続での BMC の設定

ただし、Dell PowerEdge x8xx および x9xx システムでは、BMC と RAC がリモートアクセスという 1 つのオブジェクトに結合されています(**モジュラーエンクロージャ**→ **システム** / **サーバーモジュール**→ **メインシステムシャーシ** / **メインシステム**→ **リモートアクセス**)。システムでリモートアクセス機能を提供しているハードウェアに基づいて、BMC または RAC の情報を表示できます。Dell xx0x システムでは、論理エンティティは RAC だけで、iDRAC とは結合できません。

BMC/iDRAC と DRAC のレポートおよび設定は、リモートアクセスの `omconfig chassis remoteaccess` CLI コマンドを使って管理することもできます。

さらに Server Administrator Instrumentation Service を使用して、プラットフォームのイベントフィルター(PEF)パラメータと警告の宛先を管理できます。

 **メモ:** BMC データは、Dell PowerEdge x8xx および x9xx システムのみで表示できます。その他のシステムでは BMC のインストールとアンインストールのみ実行できます。Dell PowerEdge x6xx および x7xx システム上で BMC または ESM を使って使用できるセンサーデータは限定されます。

BMC についての詳細は、『Dell OpenManage™ ベースボード管理コントローラユーザーティティユーザーズガイド』を参照してください。

基本の BMC 情報の表示

BMC に関する基本的な情報を表示したり、BMC 設定をデフォルト 値にリセットすることもできます。

 **メモ:** BMC 設定をリセットするには、「システム管理者」特権でログインする必要があります。

1. **モジュラーエンクロージャ**→ **システム / サーバーモジュール**→ **メインシステムシャーシ / メインシステム**→ **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。

リモートアクセス ページには、システムの BMC に関する次の基本情報が表示されます。

1	BMC 名/iDRAC 名	1	SOL 有効
1	IPMI バージョン	1	IP アドレスソース
1	システム GUID	1	IP アドレス
1	アクティブ可能なセッション数	1	IP サブネット
1	現在アクティブなセッション数	1	IP ゲートウェイ
1	IPMI オーバー LAN を有効にする	1	MAC Address

BMC/iDRAC ユーザーの設定

BMC/iDRAC ユーザーは **リモートアクセス** ページを使って設定できます。このページは次のパスを参照してアクセスできます。

1. **モジュラーエンクロージャ**→ **システム / サーバーモジュール**→ **メインシステムシャーシ / メインシステム**→ **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。

2. **ユーザー** タブをクリックします。

リモートアクセスユーザー ウィンドウには、BMC/iDRAC ユーザーとして設定できるユーザーについての情報が表示されます。

3. **ユーザー ID** をクリックすると、新規または既存の BMC/iDRAC ユーザーを設定できます。

リモートアクセスユーザー設定 ウィンドウでは、特定の BMC/iDRAC ユーザーを設定できます。

4. 次の一般情報を指定します。

- 1 **ユーザーを有効にする** を選択すると、ユーザーが有効になります。
- 1 **ユーザー名** フィールドにユーザーの名前を入力します。
- 1 **パスワードの変更** チェックボックスを選択します。
- 1 **新しいパスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。
- 1 **パスワードの確認** フィールドに新しいパスワードを再入力します。

5. 次のユーザー特権を指定します。

- 1 **最大 LAN ユーザー特権レベル制限** を選択します。
- 1 **許可する最大シリアルポートユーザー特権** を選択します。
- 1 Dell PowerEdge x9xx システムでは、**シリアルオーバー LAN を有効にする** を選択してシリアルオーバー LAN を有効化します。

6. **変更の適用** をクリックして変更を保存します。

7. **リモートアクセスユーザーウィンドウに戻る** をクリックすると、**リモートアクセスユーザー** ウィンドウに戻ります。

 **メモ:** RAC がインストールされている場合、6 つの追加ユーザーエントリが設定可能です。これによりユーザー合計数は 16 になります。BMC/iDRAC および RAC ユーザーに対しても同じユーザー名およびパスワードの規定が適用されます。DRAC 5 がインストールされると、すべての 16 ユーザーエントリは RAC に割り当てられます。

BMC プラットフォームのイベントフィルター警告の設定

Server Administrator Instrumentation Service を使用して、プラットフォームのイベントフィルタ(PEF)パラメータや警告の宛先など最も適切な BMC 機能を設定できます。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。

2. **警告管理** タブをクリックします。

3. **プラットフォームイベント** をクリックします。

プラットフォームイベント ウィンドウでは、特定のプラットフォームイベントに個別の処置をとることができます。シャットダウン処置を行うイベントを選択して、選択し処置の警告を生成することができます。また、選択した IP アドレスの宛先に警告を送信することもできます。

 **メモ:** BMC プラットフォームのイベントフィルタ警告を設定するには、「システム管理者」特権でログインする必要があります。

次のプラットフォームイベントを設定できます。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 ファンブロープエラー | 1 プロセッサがありません |
| 1 電圧ブロープエラー | 1 プロセッサ警告 |
| 1 離散的電圧ブロープエラー | 1 プロセッサエラー |
| 1 温度ブロープ警告 | 1 PS/VRM/DcToDc 警告 |
| 1 温度ブロープエラー | 1 PS/VRM/DcToDc エラー |
| 1 シャーシインテリジェクションが検出されました | 1 ハードウェアログエラー |
| 1 冗長性低下 | 1 自動システム回復 |
| 1 冗長性喪失 | 1 バッテリブロープ警告 |
| 1 システム電源ブロープ警告 | 1 バッテリブロープエラー |
| 1 システム電源ブロープエラー | 1 電源装置がありません |

 **メモ:** プラットフォームのイベントフィルター警告を有効にする 設定では、プラットフォームのイベントフィルター警告の生成を有効または無効にできます。個々のプラットフォームイベント警告設定とは関係なく設定できます。

 **メモ:** システム電源ブロープ警告 と システム電源ブロープエラー は、PMBus サポートのない Dell システムではサポートされていませんが、OMSA を使用して設定できます。

 **メモ:** Dell PowerEdge 1900 システムでは、PS/VRM/D2D 警告、PS/VRM/D2D エラー、および 電源装置がありません のプラットフォームイベントフィルターは、Sever Administrator で設定することができますが、実際に使用することはできません。

4. シャットダウン処置を実行するか選択した処置の警告を生成するプラットフォームイベントを選択し、**プラットフォームイベントの設定** をクリックします。

プラットフォームイベントの設定 ウィンドウでは、システムがプラットフォームイベントに反応してシャットダウンした場合の処置を指定できます。

5. 次の処置の 1 つを選択します。

- 1 **なし**
オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュした場合に、何もしません。
- 1 **システムを再起動する**
オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
- 1 **システムの電源を入れ直す**
システムの電源を切り、一時停止後に電源を入れてシステムを再起動します。パワーサイクルは、ハードドライブなどのシステムコンポーネントを再初期化したいときなどに便利です。
- 1 **システムの電源を切る**
システムの電源をオフにします。
- 1 **電力低減**
システムのパフォーマンスを低下させます。

なしまたは電力低減以外のプラットフォームイベントシャットダウン処置を選択した場合には、指定したイベントが発生するとシステムが強制的にシャットダウンします。このシャットダウンはファームウェアによって実行され、オペレーティングシステムおよび実行中のアプリケーションをシャットダウンせずに行われます。

6. 送信する警告の **警告の生成** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** 警告を生成するには、**警告の生成** と **プラットフォームイベント警告を有効にする** 設定の両方を選択する必要があります。

7. **変更の適用** をクリックします。

8. **プラットフォームイベントページに戻る** をクリックすると、**プラットフォームのイベントフィルター** ウィンドウに戻ります。

プラットフォームイベント警告送信先の設定

プラットフォームのイベントフィルター ウィンドウでは、プラットフォームイベントの警告を送信する宛先を選択することもできます。表示されている宛先の数によっては、各宛先アドレスの IP アドレスを個別に設定することもできます。設定した各宛先 IP アドレスにプラットフォームイベント警告が送信されます。

1. **プラットフォームのイベントフィルター** ウィンドウで、**宛先の設定** をクリックします。

宛先の設定 ウィンドウに宛先の数が表示されます。

2. 設定する宛先の番号をクリックします。

 **メモ:** 特定のシステムで設定できる宛先の数はシステムによって異なります。

3. **送信先を有効にする** チェックボックスを選択します。
4. **宛先番号** をクリックして、その宛先の個々の IP アドレスを入力します。この IP アドレスは、プラットフォームイベント警告が送信される IP アドレスです。
5. **コミュニティ文字列** フィールドに、管理ステーションと管理下システムの間で送信されるメッセージの認証にシステムパスワードとして使う値を入力します。コミュニティ文字列(別名コミュニティ名)が管理ステーションと管理下システム間の各バケットに送信されます。
6. **変更の適用** をクリックします。
7. **プラットフォームイベントページに戻る** をクリックすると、**プラットフォームのイベントフィルタ** ウィンドウに戻ります。

シリアルオーバー LAN 接続を使用した BMC/iDRAC の設定

シリアルオーバー LAN(SOL) 接続を介して通信用に BMC/iDRAC を設定できます。

1. **モジュラーエンクロージャ**→ **システム / サーバモジュール**→ **メインシステムシャーシ / メインシステム**→ **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **シリアルオーバー LAN** をクリックします。
シリアルオーバー LAN 設定 ウィンドウが表示されます。
4. 次の詳細を設定します。
 - 1 シリアルオーバー LAN を有効にする
 - 1 ボーレート
 - 1 必要とされる最小特権
5. **変更の適用** をクリックします。
6. **詳細設定** をクリックすると、BMC をさらに細かく設定できます。
7. **シリアルオーバー LAN 詳細設定** ウィンドウ では、次の情報の設定が可能です。
 - 1 文字累積間隔
 - 1 文字送信しきい値
8. **変更の適用** をクリックします。
9. **シリアルオーバー LAN 設定に戻る** をクリックすると、**シリアルオーバー LAN 設定** ウィンドウに戻ります。

シリアルポート接続を使用した BMC の設定

シリアルポート接続を介して通信用に BMC を設定できます。

1. **システム**→ **メインシステムシャーシ**→ **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **シリアルポート** をクリックします。
シリアルポート設定 ウィンドウが表示されます。
4. 次の詳細を設定します。
 - 1 接続モード設定
 - 1 ボーレート
 - 1 フロー制御
 - 1 チャンネル権限レベルの制限
5. **変更の適用** をクリックします。
6. **ターミナルモード設定** をクリックします。
ターミナルモード設定 ウィンドウでは、シリアルポートのターミナルモード設定を指定できます。

ターミナルモードは、Intelligent Platform Interface Management (IPMI) のメッセージをシリアルポートから ASCII 文字で出力するために使用します。ターミナルモードは限定数のテキストコマンドにも対応して、テキストベースのレガシー環境をサポートしています。この環境は、単純なターミナルやターミナルエミュレータを使用できるように設計されています。

7. 既存のターミナルとの互換性を強化するには、次のカスタマイズを指定します。
 - 1 ライン編集
 - 1 削除制御
 - 1 エコー制御
 - 1 ハンドシェイク制御
 - 1 新しいラインシーケンス
 - 1 新しいラインシーケンスの入力
8. **変更の適用** をクリックします。
9. **シリアルポート設定ウィンドウに戻る** をクリックすると、**シリアルポート設定** ウィンドウに戻ります。

BMC/iDRAC に LAN 接続を使用させる設定

 **メモ:** LAN 設定 フィールドは、インバンドユーザーに 無効 と設定されていれば、読み取り専用として表示されます。

シリアルポート接続を介して通信用に BMC/iDRAC を設定できます。

1. **モジュラーエンクロージャ** → **システム / サーバーモジュール** → **メインシステムシャーシ / メインシステム** → **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **LAN** をクリックします。

LAN 設定 ウィンドウが表示されます。

 **メモ:** マザーボード上の LAN がネットワークアダプタのアドインカードとチーム構成されている場合、BMC/iDRAC 管理トラフィックは正しく機能しません。

4. 次の NIC 設定詳細を設定します。
 - 1 NIC を有効にする(このオプションは DRAC がインストールされている Dell PowerEdge x9xx システムで使用可能です。NIC のチーム構成にこのオプションを選択します。Dell PowerEdge x9xx システムでは、追加冗長性用に NIC をチーム構成できます。)
 - 1 NIC の選択

 **メモ:** NIC を有効にすると NIC の選択 は、iDRAC がインストールされているシステムでは設定できません。

- | | |
|------------------------|--|
| 1 MAC アドレス | 1 サブネットマスク |
| 1 IPMI オーバー LAN を有効にする | 1 ゲートウェイアドレス |
| 1 IP アドレスソース | 1 チャンネル権限レベルの制限 |
| 1 IP アドレス | 1 暗号化キー(このオプションは Dell PowerEdge x9xx システムで使用可能です。) |

5. 次の VLAN 設定詳細を設定します。

 **メモ:** VLAN 設定は iDRAC のシステムには該当しません。

- 1 VLAN ID を有効にする
- 1 VLAN ID
- 1 優先順位

- 1 **変更の適用** をクリックします。

Dell Remote Access Controller へのアクセスと使用

Server Administrator ホームページから Remote Access Controller iDRAC **ログイン** ウィンドウにリンクするには、**メインシステムシャーシ / メインシステム** オブジェクトをクリックしてから **Remote Access Controller** オブジェクトをクリックし、**リモート接続** タブをクリックして、**iDRAC ウェブインタフェースの起動** をクリックします。iDRAC **ログイン** ウィンドウが表示されます。

iDRAC に接続したら、システムやセッション情報へのアクセス、iDRAC 設定の管理、管理下システムでのリモートアクセス機能の実行など、システムの監視と管理を開始できます。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Remote Access Controller

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ハードウェアの必要条件](#)
- [ソフトウェアの必要条件](#)
- [DRAC ユーザーの追加と設定](#)
- [既存の DRAC ユーザーの設定](#)
- [DRAC ネットワークプロパティの設定](#)
- [DRAC 警告プロパティの設定](#)
- [DRAC III ダイアルイン \(PPP\) ユーザーとモデム の設定](#)
- [DRAC リモート機能プロパティの設定](#)
- [DRAC セキュリティの設定](#)
- [Dell Remote Access Controller へのアクセスと 使用 使用](#)

概要

Server Administrator Remote Access Controller は、Dell™ Remote Access Card (DRAC) III、DRAC III/XT、Embedded Remote Access (ERA) コントローラ、または ERA オプション (ERA/O) カードを搭載した SNMP および CIM 装備のシステムに完全リモートシステム管理ソリューションを提供します。これらのハードウェアとソフトウェアをまとめて Dell Remote Access Controller (DRAC) と呼んでいます。また、DRAC 4 および DRAC 5 により、Dell OpenManage® Server Administrator から基本的な管理タスクの実行が可能です。インストールされている DRAC カードによって、Server Administrator グラフィカルユーザーインターフェースから DRAC 4 または DRAC 5 へ接続できます。

DRAC 4 および DRAC 5 はシステム管理ハードウェアとソフトウェアのソリューションで、リモート管理、システムクラッシュの回復、Dell PowerEdge® システムの電源制御などの機能を提供します。

システムのベースボード管理コントローラ (BMC) / Integrated Dell Remote Access Card (iDRAC) との通信によって、電圧、温度、およびファン速度に関連した警告やエラーを電子メールアラートとして送信されるように DRAC 4 および DRAC 5 を設定できます。DRAC 4 および DRAC 5 は、システムクラッシュの原因の診断を助けるために、イベントデータのログと最近のクラッシュ画面 (Microsoft® Windows® オペレーティングシステムを実行するシステムのみで利用可) を記録します。

 **メモ:** BMC は Dell PowerEdge™ x8xx と x9xx システムでサポートされており、iDRAC は Dell xx0x システムでのみサポートされています。

 **メモ:** LAN 設定 フィールドは、インバンドユーザーに 無効 と設定されている場合は、読み取り専用として表示されます。

DRAC 4 ハードウェアはシステムカード (DRAC 4/I) またはショート PCI カード (DRAC 4/P) を使用します。どちらを使用するかはシステムによって異なります。DRAC 4/I と DRAC 4/P はハードウェアの違いを除いては同一です。

DRAC 5 ハードウェアは、内蔵のシステムカードです。

DRAC 4 および DRAC 5 は、それぞれ独自のマイクロプロセッサとメモリを搭載し、インストールされているシステムによって作動します。DRAC 4 および DRAC 5 は、システムにプレインストールされている場合と、キットとして別途提供される場合があります。

 **メモ:** この項に記載される情報は以前の DRAC 生成に関する内容です。DRAC 4 の使用方法については『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』を、DRAC 5 の使用方法については『Dell Remote Access Controller 5 ユーザーズガイド』を参照してください。

Remote Access Controller は、動作不能のシステムへのリモートアクセスを提供するため、迅速なシステム起動と実行を実現できます。Remote Access Controller は、システムがダウンしたときに警告を通知し、システムをリモートで再起動できるようにします。さらに、Remote Access Controller はシステムクラッシュの原因をログに記録し、最近のクラッシュ 画面を保存します。

Remote Access Controller へは Server Administrator ホームページからログインできるほか、対応ブラウザを使ってコントローラの IP アドレスに直接アクセスすることもできます。

コマンドラインから Remote Access Service を実行する 方法については、『Dell OpenManage Server Administrator コマンドラインインターフェースユーザーズガイド』と『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』を参照してください。

Remote Access Controller を使用する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについて詳しい説明が表示されます。Remote Access Controller のヘルプは、ユーザーの特権レベルと、Server Administrator が管理下システムで検出する特定のハードウェアとソフトウェアのグループに基づいて、アクセス可能なすべてのウィンドウで使用できます。

 **注意:** DRAC 5 カードがファームウェアのアップデートをリセット中または実行中の場合、リモートまたはローカルで Server Administrator を使ってカードのクエリまたは設定を行わないでください。リセット中、DRAC 5 カードは少しの間オフラインになります。リセット中 DRAC 5 カードにアクセスするとグラフィカルユーザーインターフェースまたはコマンドラインインターフェース (CLI) に表示されるデータに不具合が生じることがあります。

 **メモ:** Remote Access Controller はモジュラーシステムでは使用できません。モジュラーシステム上の DRAC に直接接続します。詳細については、『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** DRAC III、DRAC III/XT、ERA、または ERA/O コントローラのインストールと設定方法、および DRAC を使用した動作不能なシステムへのリモートアクセス方法についての完全情報は、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』を参照してください。ネットワークを介してリモートからモジュラーシステムとその共有リソースの管理しモニタするための ERA/MC コントローラの設定と使い方についての完全情報は、『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

[表 6-1](#) システムに Server Administrator がインストールされたときに GUI フィールド名と該当システムが一覧表示されます。

表 6-1 以下の GUI フィールド名に対するシステムの可用性

GUI フィールド名	該当システム
モジュラーエンクロージャ	モジュラーシステム
サーバーモジュール	モジュラーシステム
メインシステム	モジュラーシステム
システム	非モジュラーシステム
メインシステムシャーシ	非モジュラーシステム
BMC	Dell PowerEdge x8xx と x9xxシステム
iDRAC	Dell xx0x システム

ハードウェアの必要条件

Remote Access Controller を使用するには、管理下システムに DRAC がインストールされている必要があります。

DRAC の特定のハードウェア要件については、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』に収録されている Remote Access Controller 用 Readme ファイルと、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』または『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』のリストを参照してください。

 **メモ:** DRAC ソフトウェアは、管理下システムが DRAC のインストール要件をすべて満たしている場合に、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』から管理下システムソフトウェアをインストールするときに **標準セットアップ** と **カスタムセットアップ** のインストールオプションの一部としてインストールされます。ソフトウェアとハードウェアの要件については、該当する DRAC マニュアルを参照してください。

ソフトウェアの必要条件

管理下システムに DRAC ソフトウェアがインストールされている必要があります。ソフトウェアとハードウェア完全要件については、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』または『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** DRAC ソフトウェアは、管理下システムが DRAC のインストール要件をすべて満たしている場合に、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』から管理下システムソフトウェアをインストールするときに **標準セットアップ** と **カスタムセットアップ** のインストールオプションの一部としてインストールされます。ソフトウェアとハードウェアの要件については、該当する DRAC マニュアルを参照してください。

DRAC ユーザーの追加と設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

DRAC では最大 16 人までのユーザー情報を保存できます。Remote Access Controller は、ユーザーに、リモート接続確立前にユーザー名とパスワードを求めることによって、セキュリティを提供します。Remote Access Controller では、システム クラッシュ、電源喪失、または定義されたその他のイベント発生をユーザーに通知するページング サービスも提供できます。ページングサービスは DRAC III カードでのみ使用できます。

 **メモ:** 一部の設定機能は、DRAC III、DRAC III/XT、ERA および ERA/O を持つシステムでのみ使用できますが、DRAC 4 または DRAC 5 を持つシステムでは使用できません。DRAC 4 または DRAC 5 を設定する場合は、RAC プロパティ ウィンドウから **リモート接続インタフェースの起動** を、iDRAC には **RAC プロパティ ウィンドウの iDRAC インタフェースの起動** オプションを使用します。DRAC 4 の使用方法については『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』を、DRAC 5 の使用方法については『Dell Remote Access Controller 5 ユーザーズガイド』を参照してください。

DRAC ユーザーを作成するには、次の手順を実行します。

1. **モジュラーエンクロージャ** → **システム / サーバーモジュール** → **メインシステムシャーシ / メインシステム** → **リモートアクセス** をクリックして、**ユーザー** タブをクリックします。

リモートアクセスユーザー ウィンドウが表示されます。

2. **追加** をクリックします。

リモートアクセスユーザーの追加 ウィンドウが表示されます。

3. **ユーザー名** フィールドにユーザー名を入力します。

4. **新しいパスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。

5. **パスワードの確認** フィールドに新しいパスワードを再入力します。

6. 数値ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。

- a. **数値ページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
- b. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させる数値メッセージを **数値メッセージ** フィールドに入力します。

7. 電子メールページングを設定します。

- a. **電子メールページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**電子メールアドレス** フィールドに電子メールアドレスを入力します。
- b. 特定の イベントを受け取ったときに DRAC に送信させる数値メッセージを **メッセージ** フィールドに入力します。

8. 英数字ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。

- a. **英数字ページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
- b. ページャーのサービスプロバイダで使用される英数字プロトコルを、7E0 または 8N1 から選択します。
- c. ページャーのポーレート を 300 または 1200 から選択します。
- d. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させるメッセージを **カスタムメッセージ** フィールドに入力します。
- e. **ページャー ID** フィールドにページャーの PIN を入力してから、必要に応じて **ページャーパスワード** フィールドにページャーのパスワードを入力します。
- f. ウィンドウ下部の **変更の適用** をクリックします。

9. **重大度設定** で、トラップと、DRAC からトラップがページングアクションをトリガする重大度を指定します。

トラップを使用すると、システムの ESM ハードウェアからの警告条件やオペレーティングシステムのクラッシュや電源の故障などのその他の条件に応答するように DRAC を設定できます。

チェックボックスの最初(左端)の列は、**情報** の重大度レベル、2 番目の列は **警告** の重大度レベル、および 3 番目の列は **危険** の重大度レベルに対応しています。最後の 7 つのイベントは **情報** の重大度レベルだけを報告できます。

10. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして、警告、ページング、およびユーザー設定を Server Administrator データリポジトリに保管します。

ユーザー タブに戻ります。作成および設定したユーザーが **ユーザー名** リストに表示されます。

既存の DRAC ユーザーの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

既存の DRAC ユーザーを設定するには、次の手順を実行します。

1. **モジュラーエンクロージャー** → **システム / サーバモジュール** → **メインシステムシャーシ / メインシステム** → **リモートアクセス** をクリックして、**ユーザー** タブをクリックします。

リモートアクセスユーザー ウィンドウが表示されます。

2. 設定するユーザーのユーザー名をクリックします。

3. パスワードの変更：

- a. **パスワードの変更** チェックボックスを選択して、**パスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。
- b. **パスワードの確認** フィールドに新しいパスワードを再入力します。

4. 数値ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。

- a. **数値ページングを有効にする** チェックボックスを選択して、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
- b. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させる数値メッセージを **数値メッセージ** フィールドに入力します。

5. 電子メールページングを設定します。

- a. **電子メールページングを有効にする** チェックボックスを選択して、**電子メールアドレス** フィールドに電子メールアドレスを入力します。
- b. 特定の イベントを受け取ったときに DRAC に送信させる数値メッセージを **メッセージ** フィールドに入力します。

6. 英数字ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。

- a. **英数字ページングを有効にする** チェックボックスを選択して、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
- b. ページャーのサービスプロバイダで使用する英数字プロトコルを、7EO または 8N1 から選択します。
- c. ページャーのポーレートを 300 または 1200 から選択します。
- d. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させるメッセージを **カスタムメッセージ** フィールドに入力します。
- e. **ページャー ID** フィールドにページャーの PIN を入力してから、必要に応じて **ページャーパスワード** フィールドにページャーのパスワードを入力します。
- f. ウィンドウ下部の **変更の適用** をクリックします。

7. **重大度設定** で、トラップと、DRAC からトラップがページングアクションをトリガする重大度を指定します。

トラップを使用すると、システムの ESM ハードウェアからの警告条件やオペレーティングシステムのクラッシュや電源の故障などのその他の条件に応答するように DRAC を設定できます。

チェックボックスの最初(左端)の列は、**情報** の重大度レベル、2 番目の列は **警告** の重大度レベル、および 3 番目の列は **危険** の重大度レベルに対応しています。最後の 7 つのイベントは **情報** の重大度レベルだけを報告できます。

8. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして、警告、ページング、およびユーザー設定を Server Administrator データリポジトリに保管します。

ユーザー タブに戻ります。

DRAC ネットワークプロパティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

DRACI には統合 10BASE-T/100BASE-T Ethernet NIC があり、TCP/IP をサポートしています。NIC には、192.168.20.1 のデフォルト アドレスと 192.168.20.1 のデフォルト ゲートウェイがあります。

 **メモ:** DRAC が同一ネットワーク上の別の NIC と同じ IP アドレスに設定されていると、IP アドレスの競合が発生します。DRAC は、IP アドレスが DRAC で変更されるまで、ネットワークコマンドへの応答を中止します。DRAC は、その他の NIC の IP アドレスを変更して IP アドレスの競合が解決されても、リセットする必要があります。

 **メモ:** DRAC の IP アドレスを変更すると、DRAC がリセットされます。SNMP が DRAC が初期化される前に DRAC をポーリングすると、初期化されるまで正しい温度が伝送されないため、温度警告がログ記録されます。

DRAC のネットワークプロパティを設定するには、次の手順を実行します。

1. **モジュラーエンクロージャ → システム / サーバモジュール → メインシステムシャーシ / メインシステム → リモートアクセス** をクリックして、**ユーザー** タブをクリックします。
LAN 設定 ウィンドウが表示されます。
2. **NIC を有効にする** チェックボックスを選択します(このオプションはデフォルト)。
3. DHCP システムで NIC 情報を割り当てるには、**DHCP を使用する(NIC IP アドレス用)** チェックボックスを選択します。NIC 情報を割り当てない場合、このチェックボックスを選択解除して DRAC の NIC 情報を **静的 IP アドレス**、**静的サブネットマスク**、**静的ゲートウェイアドレス** の各フィールドに入力します。
4. **ダイヤルインネットワーキングを有効にします**(DRAC III ユーザーのみ)。
 - a. **ダイヤルイン を有効にする** チェックボックスを選択します(このオプションはデフォルト)。
 - b. DHCPシステムでダイヤルイン 情報を割り当てるには、**DHCP の使用(ダイヤルイン IP アドレス用)** チェックボックスを選択します。割り当てない場合、このチェックボックスを選択解除して、**ベース IP アドレス** フィールドに DRAC III モデムのベース IP アドレスを入力します。
 - c. **ダイヤルイン接続に必要なダイヤルイン認証** 設定を指定します。
 - **任意** - 接続で任意の種類の変換を使用できます(暗号化なしも含む)。
 - **暗号化** - 接続で何らかの変換を使用するように要求します。
 - **CHAP** - 接続で CHAP を使用するように要求します。
5. SMTP サーバーのアドレス制御を有効にするには、**SMTP を有効にする** チェックボックスをクリックして、**SMTP(電子メール アドレス)** フィールドに SMTP サーバーアドレスを入力します。
6. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC 警告プロパティの設定

システムの ESM からの警告条件や、オペレーティングシステムのクラッシュや電源の故障などのその他の条件に応答するように DRAC を設定できます。

DRAC には次の種類の警告処置があります。

1. 英数字ページング(DRAC III のみ)(このタイプの警告処置の設定方法については、「[DRAC ユーザーの追加と設定](#)」を参照してください。)
1. 数値ページング(DRAC III のみ)(このタイプの警告処置の設定方法については、「[DRAC ユーザーの追加と設定](#)」を参照してください。)
1. 電子メール(このタイプの警告処置の設定方法については、「[DRAC ユーザーの追加と設定](#)」を参照してください。)
1. SNMPトラップ(このタイプの警告 処置の設定方法については、後続の項を参照してください。)

SNMP 警告プロパティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

Remote Access Controller の警告プロパティを設定するには、次の手順を実行します。

1. **モジュラーエンクロージャ → システム / サーバモジュール → メインシステムシャーシ / メインシステム → リモートアクセス** をクリックして、**設定** タブをクリックします。
2. **SNMP** をクリックします。
3. **追加** または **送信先 IP アドレス** をクリックして、既存の SNMP 警告プロパティを編集します。
4. まだ、選択していない場合は、**SNMPトラップ を有効にする** チェックボックスを選択します。
5. 保存先の管理ステーションが所属する SNMP コミュニティ名を **コミュニティ** フィールドに入力します。
6. イベント発生時に DRAC が SNMP トラップを送信する Management Station の送信先 IP アドレスを **IP アドレス** フィールドに入力します。
7. **重大度設定** のチェックボックスを使用して、イベントが DRAC から警告処置をトリガするイベントと重大度レベルを指定します。

チェックボックスの最初(左端)の列は、**情報** の重大度レベル、2 番目の列は **警告** の重大度レベル、および 3 番目の列は **危険** の重大度レベルに対応しています。最後の 7 つのイベントは **情報** の重大度レベルだけを報告できます。
8. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC III ダイヤルイン (PPP) ユーザーとモデムの設定

ダイヤルイン PPP ユーザーとモデム機能は、現在 DRAC III でのみ使用できます。

DRAC III ダイアルイン(PPP)ユーザーの追加と設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

この項では、ダイヤルイン(PPP)ユーザーの追加と設定方法について説明します。ダイヤルインユーザーが認証されたら、ユーザーは Remote Access Controller のログイン画面で DRAC ユーザー認証を入力して DRAC III にアクセスする必要があります。

 **メモ:** Server Administrator 管理下システム PPP クライアントは 192.168.234.235 ネットワークを使用して、インストールされている DRAC III と対話します。このネットワーク IP アドレスが別のシステムまたはアプリケーションですでに使用されている可能性があります。このような状況が発生すると、PPP 接続に失敗します。このアドレスがすでに使用されている場合は、管理下システム PPP クライアントの IP アドレスを別の数字に変更する必要があります。管理下システム PPP サーバー IP アドレスを別のネットワークに設定して競合を避けるには、racadm ユーティリティを使用する必要があります。racadm ユーティリティの使い方の詳細については、『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』を参照してください。

ダイヤルインユーザーを追加および設定するには、次の手順を実行します。

1. **モジュラーエンクロージャ** → **システム / サーバーモジュール** → **メインシステムシャーシ / メインシステム** → **リモートアクセス** をクリックして、**設定** タブをクリックします。

2. **ダイヤルインユーザー** をクリックします。

3. **追加** をクリックします。

4. **ユーザー名** フィールドにユーザー名を入力します。

5. **新しいパスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。

6. **コールバック番号** フィールドにコールバック番号を入力します。

この番号は、**コールバックタイプ** が **プリセット** に設定されている場合、Remote Access Controller がダイヤルする番号になります。

7. **コールバックタイプ** ドロップダウンメニューから設定を選択します。

- 1 **なし** - ダイヤルすると、Remote Access Controller は接続を切断してコールバックしません。接続はアクティブなままです。
- 1 **プリセット** - ダイヤルすると、Remote Access Controller は接続を解除して **コールバック番号** フィールドで指定された番号をダイヤルします。この設定はコールバック番号コントロールをアクティブにします。
- 1 **ユーザー指定** - ダイヤルすると、Remote Access Controller がコールバック番号を尋ねます。その後、接続を解除して、ユーザーが指定した番号にダイヤルします。

8. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC III デマンドダイヤルアウトエントリの追加と設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

ダイヤルイン PPP の設定を **プリセット** にして DRAC III を呼び出す場合、デマンドダイヤルアウトエントリによって Remote Access Controller は切断され、プリセット番号で管理ステーションを呼び戻します。コールバック時は、DRAC ユーザー認証を使用して Remote Access Service にアクセスする必要があります。

 **メモ:** DRAC Managed System Software は PPP 接続を使って、インストールされている DRAC III と対話します。この PPP 接続の IP アドレスは 192.168.234.235 です。このネットワーク IP アドレスが別のシステムまたはアプリケーションですでに使用されている可能性があります。このような状況が発生すると、PPP 接続に失敗します。このアドレスがすでに使用されている場合は、管理下システム PPP クライアントの IP アドレスを別の数字に変更する必要があります。管理下システム PPP サーバー IP アドレスを別のネットワークに設定して競合を避けるには、racadm ユーティリティを使用する必要があります。racadm ユーティリティの使い方の詳細については、『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』を参照してください。

デマンドダイヤルアウトエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. **システム** → **メインシステムシャーシ** → **リモートアクセス** をクリックして **設定** タブをクリックします。

2. **デマンドダイヤルアウト** を選択します。

3. **追加** をクリックします。

4. このユーザーがダイヤルしたときに、Remote Access Controller がコールバックする管理ステーションの IP アドレスを入力します。

5. システムのモデムで使用する電話番号を、**電話番号** フィールドに入力します。

6. デマンドダイヤルアウトユーザーの**ユーザー名**を **ユーザー名** フィールドに入力します。

7. デマンドダイヤルアウトユーザーの**パスワード**を **パスワード** フィールドに入力します。

8. **認証** ドロップダウンメニューから設定を選択します。
 - 1 **任意** - 接続で任意の種類の変換を使用できます(変換なしも含む)。
 - 1 **変換** - 接続で何らかの変換を使用するように要求します。
 - 1 **CHAP** - 接続で CHAP を使用するように要求します。
9. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC III モデム設定の設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

DRAC III にはオプションの PCMCIA モデムが同梱されており、使用前にモデムを設定する必要があります。

DRAC III モデムを設定するには、次の手順を実行します。

1. **システム**→ **メインシステムシャーシ**→ **リモートアクセス** をクリックして **設定** タブをクリックします。
2. **モデム** をクリックします。
3. **ダイヤルモード** で、**パルス** または **トーン** を選択します。
4. **国番号** ドロップダウンメニューから、DRAC III がある国を選択します。
5. **初期化文字列** で、テキストフィールドに DRAC III モデムに必要な初期化文字列を入力します。
6. ドロップダウン メニューから **ボーレート** 設定を選択します(デフォルトは **38400**)
7. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC リモート機能プロパティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

管理下システムのローカル起動イメージが破損している場合、DRAC はTFTP(Trivial File Transfer Protocol)サーバーからダウンロードしたディスク起動イメージを使って起動することができます。この機能はリモートフロッピー起動と呼ばれます。DRAC は、TFTP サーバにあるファームウェアイメージを使用して、ファームウェアをアップデートすることもできます。この機能はリモートファームウェアアップデートと呼ばれ、このプロセスはシステム BIOS のフラッシュに似ています。

DRAC のリモートフロッピー起動機能とリモートファームウェアアップデート機能を設定するには、次の手順を実行します。

1. **モジュラーエンクロージャ**→ **システム / サーバモジュール**→ **メインシステムシャーシ / メインシステム**→ **リモートアクセス** をクリックして、**設定** タブをクリックします。
ネットワークプロパティの設定 ウィンドウが表示されます。
2. **リモート機能** をクリックします。
リモートプロパティ ウィンドウが表示されます。
3. **リモートフロッピー起動を有効にする** チェックボックスを選択して、リモート起動 パラメータを設定します。
4. DRAC のリモート起動パラメータを設定します。
 - a. **リモートフロッピー起動を有効にする** チェックボックスを選択します。
 - b. TFTP サーバーの IP アドレスを **リモートフロッピー TFTP アドレス** フィールドに入力します。
 - c. 起動イメージのファイル名を **リモートフロッピー TFTP パス** フィールドに入力します。これは TFTP サーバーのルートディレクトリの相対パスでなければなりません。
5. DRAC のファームウェアアップデートパラメータを設定します。
 - a. **リモートファームウェア起動を有効にする** チェックボックスを選択します。
 - b. TFTP サーバーの IP アドレスを **リモートファームウェア TFTP アドレス** フィールドに入力します。
 - c. ファームウェアイメージのファイル名を **リモートファームウェアアップデートパス** フィールドに入力します。これは TFTP サーバーのルートディレクトリの相対パスでなければなりません。
6. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC セキュリティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Controller を使用するには、管理者権限が必要です。

 **メモ:** DRAC セキュリティ機能の詳細については、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』を参照してください。

Server Administrator ホームページから DRAC セキュリティを設定するには、**モジュラーエンクロージャシステム / サーバーモジュール→メインシステムシャーシ / メインシステム→リモートアクセス** をクリックしてから、**セキュリティ** タブをクリックします。**セキュリティ** タブでは、CSR 証明書管理を実行し、RAC ユーザーログイン認証オプションを設定できます。

 **メモ:** 一部の DRAC 証明書管理操作では、FTP プロトコルを使用して DRAC ファームウェアと通信します。ファイアウォールソフトウェアがシステムにインストールされている場合は、これらの操作に失敗することがあります。

証明書管理

証明書管理 ウィンドウを使用すると、証明書署名要求 (CSR) の生成、サーバー証明書または認証局 (CA) 証明書の DRAC ファームウェアへのアップロード、既存のサーバー証明書または CA 証明書の表示などができます。**証明書管理** ウィンドウには、次のオプションがあります。

- 1 [CSR の生成](#)
- 1 [証明書のアップロード](#)
- 1 [証明書の表示](#)

CSR は、セキュアサーバー証明書の CA へのデジタル要求です。セキュアサーバー証明書は、リモートシステムの身元を確認して、リモートシステムとやり取りする情報を他の人が閲覧または変更できないようにします。DRAC のセキュリティを確保するため、CSR を生成して CSR を CA に提出し、CA から返された証明書をアップロードすることをお勧めします。

認証局 (CA) は、IT 業界で認知されたビジネス組織で、高水準で信頼できる審査、身元確認、その他の重要なセキュリティ要件を提供しています。CA の例には Thwate や VeriSign があります。CSR を受け取ると、CA は CSR に含まれる情報を調べて 検証します。申込者が CA のセキュリティ規格を満たしている場合、CA はネットワークと インターネットのトランザクションで申込者の身分を固有に識別する証明書を発行します。

CA が CSR を承認して証明書を送信したら、証明書を DRAC ファームウェアにアップロードする必要があります。DRAC ファームウェアに保存されている CSR 情報が、証明書に含まれている情報と一致する必要があります。

CSR の生成

 **注意:** 新しい CSR は、ファームウェアにある古い CSR を上書きします。ファームウェアの CSR が CA から返された証明書と一致する必要があります。

1. **証明書管理** ウィンドウで **新しい CSR の生成** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。

証明書署名要求 (CSR) の生成 ウィンドウが表示されます。

2. リストされている各アトリビュートの値を入力するかドロップダウンメニューから選択して、**生成** をクリックします。

CSR が正常に生成されたことを知らせるメッセージが表示され、保存先のパスが表示されます。

3. これで CSR を CA に送信する準備ができました。

証明書のアップロード

サーバー証明書または CA 証明書を DRAC ファームウェアにアップロードするには、証明書が DRAC のホストサーバーに存在する必要があります。CSR の種類、正確なファイル名、サーバー上の証明書の絶対ファイルパスを指定します。次に、**アップロード** をクリックします。

 **メモ:** ホストサーバーの証明書の場所へのパスを誤って入力しても、警告メッセージは表示されません。

1. **証明書管理** ウィンドウで **証明書のアップロード** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。

証明書のアップロード ウィンドウが表示されます。

2. 証明書の種類をドロップダウンメニューから選択します。

サーバー証明書 と **CA 証明書** があります。

3. アップロードする証明書の正確なパスとファイル名を入力します。

 **メモ:** 完全修飾パスまたはファイル名にスペースが含まれる場合は、その文字列を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、ファイルが c:\security files\certificates\sslcert.cert にあれば、「security」と「files」の間にスペースがあるため、完全修飾パス名とファイル名を二重引用符で囲む必要があります。例：
c:\security files\certificates\sslcert.cert

4. **アップロード** をクリックします。

証明書が正常に DRAC ファームウェアにアップロードされたことを伝えるメッセージが表示されます。

5. DRAC を再起動して新しい証明書を有効にします。

 **メモ:** 証明書をアップロードした後、新しい証明書を使用するには DRAC をリセットする必要があります。

証明書の表示

サーバー証明書の表示 と CA 証明書の表示 の両ウィンドウには、次の情報が含まれています。表 6-2 を参照してください。

表 6-2 証明書情報

属性	値
Type	証明書の種類。サーバー証明書か CA 証明書。
シリアル	証明書のシリアル番号
キーサイズ	暗号化キーサイズ
有効期間の開始	証明書の発行日
有効期間の終了	証明書の失効日
タイトル	タイトルによって入力された証明書のアトリビュート
発行者	発行者によって返された証明書のアトリビュート

リモート接続認証オプションの設定

リモート接続認証オプション ウィンドウを使用して、DRAC ユーザーログイン認証オプションを設定します。DRAC を設定し、Remote Access Controller (RAC ユーザー) から作成されたユーザーによるログインだけを許可するか、または Remote Access Controller とローカルオペレーティングシステムから作成されたユーザーにログインを許可するか設定します。

1. **モジュラーエンクロージャ** → **システム / サーバモジュール** → **メインシステムシャーシ / メインシステム** → **リモートアクセス** をクリックして、**セキュリティ** タブをクリックします。

証明書管理 ウィンドウが表示されます。

2. **認証オプション** をクリックします。

リモート接続認証オプション ウィンドウが表示されます。設定オプションは 2 つあり、前にチェックボックスが付いています。

RAC 認証 チェックボックスはデフォルトで選択されており、選択解除できません。この設定を使って、DRAC (DRAC ユーザー) で作成されたユーザーは DRAC にログインできます。

ローカルオペレーティングシステム認証 チェックボックスをオンにすると、ローカルオペレーティングシステムで作成されたユーザーも DRAC にログインできます。

 **メモ:** **ローカルオペレーティングシステムの認証** チェックボックスはデフォルトではグレー表示になっており、DRAC ファームウェアバージョン RAC firmware version 3.20 以降をオン / オフにできません。DRAC ファームウェアバージョン 3.20 以降については Active Directory の認証 を使用してください。Microsoft Active Directory を Dell Remote Access Controller (DRAC III、DRAC III/XT、ERA、ERA/O) と併用する方法については、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』を参照してください。

3. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

Dell Remote Access Controller へのアクセスと使用

Server Administrator ホームページから Remote Access Controller DRAC **ログイン** ウィンドウにリンクするには、**メインシステムシャーシ / メインシステム オブジェクト** をクリックしてから **Remote Access Controller オブジェクト** をクリックし、**リモート接続** タブをクリックして、**リモート接続インタフェースの起動** をクリックします。DRAC **ログイン** ウィンドウが表示されます。

DRAC に接続したら、システムやセッション情報へのアクセス、DRAC 設定の管理、管理下システムでのリモートアクセス機能の実行など、システムのモニタと管理を行うことができます。DRAC セキュリティ機能の詳細については、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

設定と管理

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

- [セキュリティ管理](#)
- [ユーザー特権の割り当て](#)
- [対応するWindows オペレーティングシステムでゲストアカウントと匿名アカウントを無効にする](#)
- [SNMP Agent の設定](#)
- [Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムのファイアウォールの設定](#)

セキュリティ管理

Server Administrator は、ウェブベースのインタフェースとコマンドラインインタフェースの両方に対し、ロールベースのアクセス制御 (RBAC)、認証、および暗号化を使ってセキュリティを提供します。

役割ベースのアクセスコントロール役割

RBAC は特定の役割内のユーザーが実行できる操作を特定して、セキュリティを管理します。各ユーザーには 1 つ、または複数の役割が割り当てられており、各役割にはその役割内のユーザーが使用できるユーザー特権が 1 つまたは複数割り当てられています。RBAC によってセキュリティ管理は組織の構造に密接に関連しています。

ユーザー特権

Server Administrator は割り当てられたユーザーのグループ特権に応じて、異なるアクセス権を与えます。ユーザーには、ユーザー、パワーユーザー、システム管理者の 3 レベルがあります。

- 1 ユーザー はほとんどの情報を表示できます。
- 1 パワーユーザー は警告しきい値の設定、警告またはエラーイベントが発生したときの警告処置を設定できます。
- 1 システム管理者 はシャットダウン処理の設定と実行、システムでオペレーティングシステムが無応答の場合の自動回復処理の設定、ハードウェア、イベント、およびコマンドログのクリアなどを実行できます。システム管理者はまた、電子メールを送信するシステムも設定可能です。

Server Administrator は、ユーザー特権でログインしたユーザーには読み取り専用のアクセス権、パワーユーザー特権でログインしたユーザーには読み取りと書き込みのアクセス権、システム管理者特権でログインしたユーザーには読み取り、書き込み、管理のアクセス権を与えます。表 3-1 を参照してください。

表 3-1 ユーザー特権

ユーザー特権	アクセスタイプ		
	システム管理者	書き込み	読み取り
ユーザー			X
パワーユーザー		X	X
システム管理者	X	X	X

読み取りアクセスを使用すると、Server Administrator によって報告されたデータを参照できます。読み取りアクセスでは管理下システムの値を変更したり設定することはできません。

書き込みアクセスでは、管理下システムの値を変更または設定できます。

システム管理者によるアクセスでは管理下システムもシャットダウンできます。

Server Administrator サービスにアクセスするための特権レベル

表 3-2 は、Server Administrator サービスにアクセスして管理できるユーザーレベルをまとめたものです。

表 3-2 Server Administrator ユーザー特権レベル

サービス	必要なユーザー特権レベル	
	ビュー	管理
計装	U、P、A	P、A
リモートアクセス	U、P、A	A
ストレージ管理	U、P、A	A

表 3-3 は、表 3-2 で使用した特権レベルの略語の意味を説明しています。

表 3-3 Server Administrator ユーザー特権レベルの凡例

U	ユーザー
P	パワーユーザー
A	システム管理者

認証

Server Administrator 認証スキームは、正しいアクセスタイプが正しいユーザー特権に割り当てられていることを確認します。さらに、コマンドラインインタフェース (CLI) を起動したとき、現在のプロセスが実行しているコンテキストを Server Administrator 認証スキームが検証します。この認証スキームは、アクセス元が Server Administrator ホームページか CLI かを問わず、すべての Server Administrator 機能が正しく認証されていることを確認します。

Microsoft Windows 認証

対応する Microsoft® Windows® オペレーティングシステムでは、Server Administrator 認証に Integrated Windows Authentication (旧名称: NTLM) が使われます。この認証システムによって、Server Administrator のセキュリティを ネットワークの全体的なセキュリティスキームに組み込むことができます。

Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server 認証

対応の Red Hat® Enterprise Linux® および SUSE® Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは、Server Administrator 認証は PAM (Pluggable Authentication Modules) ライブラリに基づいた様々な認証方法を用いています。ユーザーは、LDAP、NIS、Kerberos、Winbind などの異なるアカウント管理プロトコルを使用して、ローカルまたはリモートで Server Administrator にログインすることができます。

 **メモ:** Winbind の 32 ビット互換ライブラリが、オペレーティングシステムに存在しないため、SUSE Linux Enterprise Server (バージョン 9 Service Pack 3) 上での Winbind および Kerberos を使用した Server Administrator 認証はサポートされません。

暗号化

管理下システムの身元を確認して保護するため、Server Administrator には SSL (Secure Socket Layer) 技術を使用したセキュア HTTPS 接続を使ってアクセスします。対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは、ユーザーが Server Administrator ホームページにアクセスしたときにソケット接続を介して転送されるユーザー資格情報やその他の機密データを JSSE (Java Secure Socket Extension) を使用して保護します。

ユーザー特権の割り当て

重要なシステムコンポーネントのセキュリティを確保するには、Dell OpenManage ソフトウェアをインストールする前にすべての Dell™ OpenManage™ に正しくユーザー特権を割り当てる必要があります。新しいユーザーは、オペレーティングシステムのユーザー特権で Dell OpenManage ソフトウェアにログインできます。

 **注意:** 重要なシステムコンポーネントへのアクセスを保護するには、Dell OpenManage ソフトウェアにアクセスできるユーザーアカウントのすべてにパスワードを割り当てる必要があります。パスワードを割り当てられていないユーザーは、オペレーティングシステムの制約を受けるため、Windows Server 2003 を実行しているシステムでは Dell OpenManage ソフトウェアにログインできません。

 **注意:** 重要なシステムコンポーネントへのアクセスを保護するには、対応 Windows オペレーティングシステムのゲストアカウントを無効にします。リモートスクリプトがその名前を使ってアカウントを有効にすることを防ぐために、アカウントの名前を変更することをお勧めします。

 **メモ:** 各対応オペレーティングシステムで、ユーザーの作成とユーザー特権の割り当てる手順は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

 **メモ:** OpenManage ソフトウェアにユーザーを追加したいときは、まず新規ユーザーをオペレーティングシステムに追加します。OpenManage ソフトウェア内で新規ユーザーを作成する必要はありません。

Windows オペレーティングシステムのドメインへのユーザーの追加

 **メモ:** 以下の手順を実行するには、Microsoft Active Directory® がシステムにインストールされている必要があります。Active Directory の使用方法に関する詳細は、「Microsoft Active Directory」を参照してください。

1. **コントロールパネル** → **管理ツール** → **Active Directory ユーザーとコンピュータ** へ移動します。
2. コンソールツリーで **ユーザー** を右クリックするか、新しいユーザーを追加するコンテナを右クリックし、**新規** → **ユーザー** の順に選択します。
3. ダイアログボックスに適切なユーザー名情報を入力し、**次へ** をクリックします。
4. **次へ** をクリックしたら、**終了** をクリックします。
5. 作成したユーザーを表すアイコンをダブルクリックします。
6. **所属するグループ** タブをクリックします。

7. **追加** をクリックします。
8. 該当するグループを選択し、**追加** をクリックします。
9. **OK** をクリックしてから、**OK** を再度クリックします。

新しいユーザーは、割り当てられたグループとドメインのユーザー特権で Dell OpenManage ソフトウェアにログインできます。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでの Server Administrator ユーザーの作成

管理者権限が、root でログインしているユーザーに割り当てられます。ユーザー特権とパワーユーザー特権を持つユーザーを作成するには、以下の手順に従います。

 **メモ:** これらの手順を実行するには、root でログインする必要があります。

 **メモ:** これらの手順を実行するには、システムに useradd ユーティリティがインストールされている必要があります。

ユーザーの作成

 **メモ:** ユーザーとユーザーグループの作成の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

ユーザー特権を持つユーザーの作成

1. コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
useradd -d <ホームディレクトリ> -g <グループ> <ユーザー名>
```

<グループ>は root 以外のものとします。

 **メモ:** <グループ> が存在しない場合は、groupadd コマンドを使ってグループを作成してください。

2. passwd<ユーザー名>を入力し、<Enter> を押します。
3. 指示した場合、新しいユーザーのパスワードを入力します。

重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。

新しいユーザーはユーザーというグループ権限を使って Server Administrator にログインできます。

パワーユーザー特権を持つユーザーの作成

1. コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
useradd -d <ホームディレクトリ> -g root <ユーザー名>
```

 **メモ:** ルートをプライマリグループとして設定する必要があります。

2. passwd<ユーザー名>を入力し、<Enter> を押します。
3. 指示した場合、新しいユーザーのパスワードを入力します。

重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。

新しいユーザーはユーザーというグループ権限を使って Server Administrator にログインできます。

Linux オペレーティングシステムで Server Administrator ユーザー権限を編集する

 **メモ:** これらの手順を実行するには、root でログインする必要があります。

1. /etc にある omarolemap ファイルを開きます。
2. 以下をこのファイルに追加します。

<ユーザー名>[Tab]<ホスト名>[Tab]<権限>

表 3-4 に、ロールの定義を `omarolemap` に追加する凡例を示します。

表 3-4 Legends for adding the role definition in OpenManage Server Administrator にロールの定義を追加する凡例

<ユーザー名>	<ホスト名>	<権限>
ユーザー名	ホスト名	システム管理者
(+)グループ名	ドメイン	ユーザー
ワイルドカード (*)	ワイルドカード (*)	ユーザー
[Tab] = \t (tab 文字)		

表 3-5 に、ロールの定義を `omarolemap` に追加する凡例を示します。

表 3-5 Legends for adding the role definition in OpenManage Server Administrator にロールの定義を追加する例

<ユーザー名>	<ホスト名>	<権限>
Bob	Ahost	パワーユーザー
+ルート	Bhost	システム管理者
+ルート	Chost	システム管理者
Bob	*.aus.amer.com	パワーユーザー
Mike	192.168.2.3	パワーユーザー

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンドラインから次のコマンドを実行して、接続サービスを再起動します。

```
service dsm_om_connsvc restart
```

 **メモ:** 変更を反映するには、接続サービスを再起動する必要があります。

omarolemap ファイル使用のベストプラクティス

omarolemap ファイルの使用時に考慮すべきベストプラクティスを以下に示します。

1. **omarolemap** ファイルの以下のデフォルトエントリは削除しないでください。

1	root	*	システム管理者
1	+ルート	*	パワーユーザー
1	*	*	ユーザー

1. **omarolemap** ファイルの許可とファイル形式は変更しないでください。
1. **omarolemap** ファイルでユーザーの権限が低下した場合、Server Administrator はデフォルトのオペレーティングシステムでのデフォルトユーザー権限を使用します。
1. localhost や 127.0.0.1 といった、<Host_Name>、のループバックアドレスは使用しないでください。
1. 接続サービスを再起動したときに /etc/omarolemap ファイルの変更が有効にならない場合は、コマンドログでエラーを調べてください。
1. **omarolemap** ファイルを別のコンピュータに移動したとき、ファイル許可とファイルのエントリを再確認する必要があります。
1. グループ名に + を前付けします。
1. 同じ <Host_Name> に重複したユーザー名またはユーザーグループのエントリがあると、Server Administrator はオペレーティングシステムのデフォルトユーザー権限を使用します。
1. [Tab] の代わりに空白文字を列の区切り文字として使うこともできます。

対応するWindows オペレーティングシステムでゲストアカウントと匿名アカウントを無効にする

 **メモ:** この手順を実行するには、システム管理者でログインしている必要があります。

1. **コンピュータの管理** ウィンドウを閉じます。
2. コンソールツリーで、**ローカルユーザーとグループ**を展開し、**ユーザー**をクリックします。

3. **ゲスト**または **IUSR_システム名** ユーザーアカウントをクリックします。
4. **処置** をクリックし、**プロパティ** を選択します。
5. **アカウントを無効にする** を選択し、**OK** をクリックします。

X の付いた赤い丸がユーザー名の上に表示されます。アカウントは無効になります。

SNMP Agent の設定

Server Administrator は、対応するすべてのオペレーティングシステムで管理ネットワーク管理プロトコル (SNMP) システム管理規格をサポートしています。SNMP サポートは、オペレーティングシステム、またオペレーティングシステムのインストール方法によってインストールされている場合とされていない場合があります。ほとんどの場合、SNMP はオペレーティングシステムのインストールの過程でインストールされています。Server Administrator をインストールする前に、SNMP などの対応システム管理プロトコル規格がインストールされていることが必要です。詳細については、「[インストール要件](#)」を参照してください。

SNMP エージェントを設定すると、コミュニティ名を変更したり、Set 操作を有効にしたり、管理ステーションにトラップを送ることができます。Dell OpenManage™ IT Assistant や Array Manager などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

-  **メモ:** デフォルトの SNMP エージェント設定には、通常、**public** のような SNMP コミュニティ名が含まれています。セキュリティを強化するため、この SNMP コミュニティ名は、デフォルト値でないものに変更します。SNMP コミュニティ名の変更に関しては、該当する下記の項を参照してください。ガイドラインの詳細については、『Dell Power Solutions (デルパワーソリューション)』マガジンの 2003 年 5 月号にある **Securing an SNMP Environment (SNMP 環境でのセキュリティ)** の記事を参照してください。このマガジンは www.dell.com/powersolutions から入手できます。
-  **メモ:** SNMP Set 操作は、Server Administrator バージョン 5.2 以降ではデフォルトで無効になっています。Server Administrator は SNMP Set 操作を有効または無効にする機能をサポートしています。**プリファランス** 下の **Server Administrator SNMP 設定** ページを使うか、Server Administrator コマンドラインインタフェース (CLI) を使って、Server Administrator での SNMP Set 操作を有効または無効にできます。Server Administrator CLI の詳細については、『Dell OpenManage Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。
-  **メモ:** IT Assistant で Server Administrator を実行中のシステムから管理情報を取得するには、IT Assistant で使用するコミュニティ名が Server Administrator を実行中のシステムのコミュニティ名と一致する必要があります。IT Assistant で Server Administrator を実行しているシステムの情報を変更したり処置を実行するには、IT Assistant で使用するコミュニティ名が Server Administrator を実行中のシステムで Set 操作を許可するコミュニティ名と一致する必要があります。IT Assistant で Server Administrator を実行中のシステムからトラップ (非同期イベント通知) を受け取るには、Server Administrator を実行中のシステムが IT Assistant を実行中のシステムにトラップを送信できるように設定する必要があります。

以下の手順は、対応している各オペレーティングシステムで SNMP エージェントを設定する方法を説明しています。

1. 「[Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)」
1. 「[対応 Red Hat Linux オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)」
1. 「[対応 SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでの SNMP エージェントの設定](#)」

Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、Windows SNMP エージェントによって提供される SNMP サービスを使用します。SNMP エージェントを設定すると、コミュニティ名を変更したり、Set 操作を有効にしたり、管理ステーションにトラップを送ることができます。IT Assistant などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

-  **メモ:** SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

リモートホストによる SNMP アクセスを有効にする

Windows Server 2003 はデフォルトではリモートホストからの SNMP パケットを受け入れません。Windows Server 2003 を実行しているシステムでリモートホストから SNMP 管理アプリケーションを使ってシステムを管理したい場合は、リモートホストから SNMP パケットを受け入れるように SNMP サービスを設定する必要があります。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているシステムでリモートホストから SNMP パケットを受け取れるようにするには、次の手順を実行してください。

1. **コンピュータの管理** ウィンドウを開きます。
2. 必要に応じて、ウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。
3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. リストを下にスクロールして SNMP サービスを見つけ、SNMP サービスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。

SNMP サービスプロパティウィンドウが表示されます。

5. **セキュリティ** タブをクリックします。
6. **任意のホストから SNMP パケットを受け入れる** を選択するか、**リモートホストをこれらのホストの SNMP パケットを受け入れる** リストに追加します。

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP コミュニティ名を設定すると、どのシステムが SNMP を使用してシステムを管理できるかが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator システムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

1. **コンピュータの管理** ウィンドウを閉じます。
2. 必要に応じて、ウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。
3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. サービスのリストを下にスクロールして **SNMP サービス** を見つけ、**SNMP サービス** を右クリックしてから、**プロパティ** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
5. **セキュリティ** タブをクリックして、コミュニティ名を追加または編集します。
 - a. コミュニティ名を追加するには、**受け付けるコミュニティ名** リストから **追加** をクリックします。
SNMP サービス設定 ウィンドウが表示されます。
 - b. システムを管理できるコミュニティ名 (デフォルトは public) を **コミュニティ名** テキストボックスに入力して、**追加** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
 - c. コミュニティ名を変更するには、**受け付けるコミュニティ名** リストでコミュニティ名を選択して、**編集** をクリックします。
SNMP サービス設定 ウィンドウが表示されます。
 - d. **コミュニティ名** テキストボックスで、システムを管理できるシステムのコミュニティ名を変更し、**OK** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
6. **OK** をクリックして、変更を保存します。

SNMP Set 操作を有効にする

IT Assistant を使って Server Administrator アトリビュートを変更するには、Server Administrator で SNMP Set 操作が有効になっている必要があります。

1. **コンピュータの管理** ウィンドウを閉じます。
2. 必要に応じて、ウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。
3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. リストを下にスクロールして **SNMP サービス** を見つけ、**SNMP サービス** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
5. **セキュリティ** タブをクリックして、コミュニティのアクセス権限を変更します。
6. **受け付けるコミュニティ名** リストでコミュニティ名を選択して、**編集** をクリックします。
SNMP サービス設定 ウィンドウが表示されます。
7. **コミュニティ権限** を **読み取り書き込み** または **読み取り作成** に設定して、**OK** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
8. **OK** をクリックして、変更を保存します。

SNMP トラップを管理ステーションに送信するシステム設定

Server Administrator は、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じて SNMP トラップを生成します。SNMP トラップが Management Station に送信されるためには、Server Administrator のトラップ送信先を 1 つまたは複数設定する必要があります。

1. **コンピュータの管理** ウィンドウを閉じます。
2. 必要に応じて、ウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。

3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. リストを下にスクロールして **SNMP サービス** を見つけ、**SNMP サービス** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。

SNMP サービスプロパティウィンドウが表示されます。

5. **トラップ** タブをクリックしてトラップのコミュニティを追加するか、トラップコミュニティのトラップ送信先を追加します。
 - a. トラップのコミュニティを追加するには、**コミュニティ名** ボックスにコミュニティ名を入力し、**コミュニティ名** ボックスの横にある **リストに追加** をクリックします。
 - b. トラップコミュニティのトラップ送信先を追加するには、**コミュニティ名** ドロップダウンボックスからコミュニティ名を選択して、**トラップ送信先** ボックスの下の **追加** をクリックします。
 - c. **SNMP サービス設定** ウィンドウが表示されます。

トラップ送信先を入力して、**追加** をクリックします。

SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
6. **OK** をクリックして、変更を保存します。

対応 Red Hat Linux オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は ucd-snmp または net-snmp SNMP エージェントによって提供された SNMP サービスを使用します。SNMP エージェントを設定すると、コミュニティ名を変更したり、Set 操作を有効にしたり、管理ステーションにトラップを送ることができます。IT Assistant などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

 **メモ:** SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

SNMP エージェントのアクセス制御の設定

Server Administrator によって実装されている管理情報ベース(MIB)ブランチは、1.3.6.1.4.1.674 の OID で識別されます。Server Administrator を実行しているシステムを管理するには、管理アプリケーションがこの MIB ツリーのブランチへのアクセス権を確保する必要があります。

Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの場合、デフォルトの SNMP エージェント設定では、MIB ツリーの MIB-II「システム」ブランチ(1.3.6.1.2.1.1 の OID で識別)にのみ「パブリック」コミュニティへの読み取り専用アクセスが与えられます。この設定では、管理アプリケーションを使用して、Server Administrator や MIB-II 「システム」ブランチ外の他の Systems Management 情報を取得したり変更することはできません。

Server Administrator SNMP エージェントのインストール処置

Server Administrator はインストール中にデフォルト SNMP 設定を検出すると、SNMP エージェント設定を変更して、パブリックコミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセスを与えます。Server Administrator は、`/etc/snmp/snmpd.conf` SNMP エージェント設定ファイルを 2 つの方法で変更します。

まず、次の行がない場合は、それを追加して MIB ツリー全体の表示を作成します。

```
view all included .1
```

次に、デフォルトの「アクセス」行を変更して、「パブリック」コミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセス権を与えます。Server Administrator は次の行を探します。

```
access notConfigGroup "" any noauth exact systemview none none
```

Server Administrator で上の行が見つかったら、次のように変更されます。

```
access notConfigGroup "" any noauth exact all none none
```

デフォルト SNMP エージェント設定をこのように変更すると、パブリックコミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセスが与えられます。

 **メモ:** Server Administrator が確実に SNMP エージェント設定を変更し、System Management データに正しくアクセスできるようにするには、Server Administrator のインストール後にその他の SNMP エージェント設定を変更することをお勧めします。

Server Administrator SNMP は、SNMP Multiplexing(SMUX)プロトコルを使った SNMP エージェントと通信を行います。Server Administrator SNMP は SNMP エージェントに接続するとき、SNMP エージェントを SMUX ピアとして識別するオブジェクト識別子を SNMP エージェントに送信します。オブジェクト識別子は SNMP エージェントとともに設定される必要があるため、Server Administrator はインストール中、SNMP エージェント設定ファイルに `/etc/snmp/snmpd.conf` が存在しない場合、これを追加します。

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.674.10892.1
```

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP コミュニティ名を設定すると、どのシステムが SNMP を使用してシステムを管理できるかが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator システムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行中のシステムから管理情報を取得するのに使う SNMP コミュニティ名を変更し、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集するには、次の手順を実行します。

1. 次の行を見つけます。

```
com2sec publicsec default public
```

または

```
com2sec notConfigUser default public
```

2. `public` の部分を SNMP コミュニティに置き換えてこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
com2sec publicsec default community_name
```

または

```
com2sec notConfigUser default community_name
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
service snmpd restart
```

SNMP Set 操作を有効にする

IT Assistant を使って Server Administrator アトリビュートを変更するには、Server Administrator を実行しているシステムで SNMP Set 操作が有効になっている必要があります。

Server Administrator を実行中のシステムで SNMP Set 操作を有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して、次の手順を実行します。

1. 次の行を見つけます。

```
access publicgroup "" any noauth exact all none none
```

または

```
access notConfigGroup "" any noauth exact all none none
```

2. 最初の `none` を `all` に置き換えて行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
access publicgroup "" any noauth exact all all none
```

または

```
access notConfigGroup "" any noauth exact all all none
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
service snmpd restart
```

SNMP トラップを管理ステーションに送信するシステム設定

Server Administrator は、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じて SNMP トラップを生成します。SNMP トラップが管理ステーションに送信されるためには、Server Administrator のトラップ送信先を 1 つまたは複数設定する必要があります。

Server Administrator を実行しているシステムで管理ステーションにトラップを送信するように設定するには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して次の手順を実行します。

1. ファイルに次の行を追加します。

```
trapsink IP_address community_name
```

「IP アドレス」は 管理ステーションの IP アドレスを表し、「コミュニティ名」は、SNMP コミュニティ名を表します。

2. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
service snmpd restart
```

対応SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は `ucd-snmp` または `net-snmp` エージェントによって提供された SNMP サービスを使用します。リモートホストから SNMP アクセスを有効にするための SNMP エージェントの設定、コミュニティ名の変更、セット操作の有効化、および管理ステーションへのトラップの送信が可能です。IT Assistant などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

 **メモ:** SUSE Linux Enterprise Server (バージョン 9) では、SNMP エージェントの設定ファイルは `/etc/snmpd.conf` に配置されています。SUSE Linux Enterprise Server (バージョン 10) では、SNMP エージェントの設定ファイルは `/etc/snmpd.conf` に配置されています。

 **メモ:** SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Server Administrator SNMP インストール処置

Server Administrator SNMP は、SNMP Multiplexing (SMUX) プロトコルを使った SNMP エージェントと通信を行います。Server Administrator SNMP は SNMP エージェントに接続するとき、SNMP エージェントを SMUX ピアとして識別するオブジェクト識別子を SNMP エージェントに送信します。このオブジェクト識別子は SNMP エージェントとともに設定される必要があるため、Server Administrator はインストール中、SNMP エージェント設定ファイル (`/etc/snmpd.conf` または `/etc/snmp/snmpd.conf`) が存在しない場合、これを追加します。

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.674.10892.1
```

リモートホストからの SNMP アクセスを有効にする

SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムのデフォルトの SNMP エージェント設定は、「パブリック」コミュニティに対してローカルホストからのみによる MIB ツリー全体へ読み取り専用のアクセスを与えます。Server Administrator システムを正しく検知し、管理するために、この設定では他のホストで実行される IT Assistant などの SNMP 管理アプリケーションが許可されていません。インストール中、Server Administrator がこの設定を検知すると、メッセージをオペレーティングシステムのログファイル `/var/log/messages` にログし、ローカルホストへの SNMP アクセスの制約を指示します。リモートホストから SNMP 管理アプリケーションを使ってシステムを管理する場合は、リモートホストからの SNMP アクセスを有効にするために、SNMP エージェントを設定する必要があります。

 **メモ:** セキュリティ上の理由から、SNMP のアクセスを可能な限り特定のリモートホストに制限することをお勧めします。

特定のリモートホストから Server Administrator を実行しているシステムへの SNMP アクセスを有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmpd.conf` または `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集し、次の手順を実行します。

1. 次の行を見つけます。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. 127.0.0.1 をリモートホストの IP アドレスに書き換えてこの行を編集またはコピーします。編集後の行は次のようになります。

```
rocommunity public IP_address
```

 **メモ:** 各リモートホストに対し `rocommunity` 指令を追加することにより複数の特定リモートホストからの SNMP アクセスを有効にできます。

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

特定のリモートホストから Server Administrator を実行しているシステムへの SNMP アクセスを有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmpd.conf` または `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集し、次の手順を実行します。

1. 次の行を見つけます。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. 127.0.0.1 を削除してこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
rocommunity public
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP コミュニティ名の設定によって、SNMP を使ってシステムを管理できる管理ステーションが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator システムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行中のシステムから管理情報の取得に使うデフォルトの SNMP コミュニティ名を変更するには、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmpd.conf` または `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集し、次の手順を実行してください。

1. 次の行を見つけます。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. `public` を新しい SNMP コミュニティ名に置き換えて、この行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
rocommunity community_name 127.0.0.1
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

SNMP Set 操作を有効にする

IT Assistant を使って Server Administrator の属性を変更するには、SNMP Set 操作を Server Administrator を実行中のシステムで有効にする必要があります。IT Assistant からシステムのリモートシャットダウンを有効にするには、SNMP Set 操作が有効化されている必要があります。

 **メモ:** 管理機能を変更するためにシステムを再起動する場合、SNMP Set 操作は不要です。

Server Administrator を実行中のシステムにおいて SNMP Set 操作を有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmpd.conf` または `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集し、次の手順を実行してください。

1. 次の行を見つけます。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. `rocommunity` を `rwcommunity` に置き換えてこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
rwcommunity public 127.0.0.1
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

SNMP トラップを管理ステーションに送信するシステム設定

Server Administrator は、センサーやその他のモニターパラメータの状態変化に応じて SNMP トラップを生成します。SNMP トラップが管理ステーションに送信されるためには、Server Administrator のトラップ送信先を 1 つまたは複数設定する必要があります。

管理ステーションへトラップを送信するように Server Administrator を実行しているシステムを設定するには、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmpd.conf` または `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集し、次の手順を実行してください。

1. ファイルに次の行を追加します。

```
trapsink <IP アドレス> <コミュニティ名>
```

「IP アドレス」は管理ステーションの IP アドレスを表し、「コミュニティ名」は、SNMP コミュニティ名を表します。

2. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムのファイアウォールの設定

Red Hat Enterprise Linux をインストールしているときにファイアウォールセキュリティを有効にすると、デフォルトではすべての外部ネットワークインタフェースが閉じます。IT Assistant などの SNMP 管理アプリケーションを有効にして Server Administrator からの情報を検出して取得するには、少なくとも 1 つの外部ネットワークインタフェースの SNMP ポートが開いている必要があります。Server Administrator によって外部ネットワークインタフェースの SNMP ポートがファイアウォールで開かれていないことが検出されたら、Server Administrator は警告メッセージを表示してメッセージをシステムログに記録します。

SNMP ポートを開くには、ファイアウォールを無効にし、ファイアウォールの外部ネットワークインタフェース全体を開くか、ファイアウォールで少なくとも 1 つの外部ネットワークインタフェースの SNMP ポートを開きます。この処理は、Server Administrator が起動する前か後で行うことができます。

前に説明した方法のいずれかを使用して SNMP ポートを開くには、次の手順を実行します。

1. Red Hat Enterprise Linux コマンドプロンプトで、`setup` と入力して `<Enter>` を押し、テキスト モードセットアップユーティリティを起動します。

 **メモ:** このコマンドは、オペレーティングシステムでデフォルトのインストールを実行した場合にのみ使用できます。

Choose a Tool(ツールの選択)メニューが表示されます。

2. 下矢印を使用して Firewall Configuration(ファイアウォール設定)を選択し、`<Enter>` を押します。

Firewall Configuration(ファイアウォール選択)画面が表示されます。

3. `<Tab>` を押してセキュリティレベルを選択してからスペースバーを押して希望のセキュリティレベルを選択します。選択したセキュリティレベル にアスタリスクが付きます。

 **メモ:** firewall security の詳細については、<F1> を押してください。デフォルトの SNMPポート番号は 161 です。X Window System グラフィカルユーザーインターフェースを使用している場合は、新しいバージョンの Red Hat Enterprise Linux では <F1> を押してもファイアウォールのセキュリティレベルに関する情報が表示されないことがあります。

- a. ファイアウォールを無効にするには、No firewall(ファイアウォールなし)か Disabled(無効)を選択して[手順 7](#)に進みます。
 - b. ネットワークインタフェース全体または SNMP ポートを開くには、高、中 または 有効 を選択して[手順 4](#)に進みます。
- d. <Tab> を押して **カスタマイズ** へ移動し、<Enter>を押します。

Firewall Configuration - Customize(ファイアウォールの設定-カスタマイズ)画面が表示されます。

5. ネットワークインタフェース全体を開くか、すべてのネットワーク インタフェースの SNMP ポートだけを開くかを選択します。
 - a. ネットワークインタフェース全体を開くには、<Tab>を押して信頼できるデバイスの 1 つに進んでスペースバーを押します。デバイス名の左側のボックスにアスタリスクが付いたら、インタフェース全体が開くことを示します。
 - b. すべてのネットワークインタフェースの SNMP ポートを開くには、<Tab> を押して **他のポート**に進んで snmp:udp と入力します。
6. <Tab> を押して **OK** を選択し、<Enter> を押します。

Firewall Configuration(ファイアウォール**選択**)画面が表示されます。

7. <Tab> を押して **OK** を選択し、<Enter> を押します。

Choose a Tool(ツールの**選択**)メニューが表示されます。

8. <Tab> を押して **終了** を選択し、<Enter> を押します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Storage Management Service

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズ ガイド

- [概要](#)
- [ソフトウェアの必要条件](#)
- [ハードウェアの必要条件](#)
- [Storage Management Service](#)
- [Array Manager から Storage Management への移行](#)
- [Storage Management コマンドラインインタフェース](#)
- [オンラインヘルプの表示](#)

概要

Storage Management Service は Server Administrator と統合された RAID および非 RAID Storage Management を提供します。Microsoft® Windows®, Red Hat® Enterprise Linux®, および SUSE® Linux Enterprise Server では、標準セットアップまたはカスタムセットアップを使って Storage Management Service をインストールします。Storage Management Service は統合グラフィカル表示でストレージ管理情報を提供します。

Storage Management Service:

- 1 対応するすべての RAID および RAID 以外の コントローラとエンクロージャについて、コントローラ BIOS ユーティリティを使用せず、単一のグラフィカルインタフェースまたはコマンドラインインタフェースから、コントローラおよびエンクロージャ機能を実行できます。
- 1 モニタされるシステムに接続しているローカルおよびリモートのストレージのステータスを表示できます。
- 1 SCSI、SATA、ATA、および SAS をサポートしますが、ファイバチャネルはサポートされていません。
- 1 データ冗長性の設定、ホットスベア割り当て、または障害発生ドライブの再構成を行うことでデータを保護します。
- 1 初心者と上級ユーザー向けのウィザードを使用したグラフィカルインタフェースと、詳しいオンラインヘルプを提供します。
- 1 完全機能を備えたスクリプト可能なコマンドラインインタフェースを提供します。
- 1 詳しいオンラインヘルプを提供します。

コマンドラインからの Storage Management の実行方法については、『Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。

- **注意:** Storage Management Service では、データ破壊的なストレージタスクの実行も可能です。Storage Management は、ストレージ環境を熟知した経験のあるストレージ管理者が使用すべきです。
- **メモ:** Storage Management についての詳細は、「Storage Management オンラインヘルプ」および『Dell™ OpenManage™ Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。
- **メモ:** Storage Management は Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise オペレーティングシステムを実行しているシステムで使用可能です。

Storage Management を使用する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについての詳細が表示されます。ヘルプは、ユーザーの特権レベルと、Server Administrator が管理下システム上に検出するハードウェアとソフトウェアのグループに応じて、アクセス可能なすべてのウィンドウで利用できます。

ソフトウェアの必要条件

ソフトウェアおよびハードウェア要件全容については、Storage Management の `readme(readme_sm.txt)` および Server Administrator の `readme(readme_sa.txt)` を参照してください。これらのファイルは『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』に収録されています。

ハードウェアの必要条件

Storage Management は、対応コントローラがないシステムまたはストレージに取り付けられたコントローラがないシステムにインストールできません。対応コントローラのリスト、Storage Management Service のハードウェア要件に関する詳細は、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』にある、Server Administrator の `readme` ファイル (`readme_sa.txt`)、および Storage Management の `readme` ファイル (`readme_sm.txt`) を参照してください。

Storage Management Service

Storage Management のインストールを行うことにより、システム上の Array Manager Managed System (サーバーソフトウェア) およびコンソール (クライアントソフトウェア) の古いインストールが置換されます。万一 Array Manager コンソールがシステムにインストールされている場合、Storage Management のインストールにより Array Manager コンソールが交換されることはありません。

Storage Management Service は、システムにローカル接続している RAID および非 RAID のディスクストレージを設定するための高度な機能を提供しています。Storage Management を使用すると、コントローラ BIOS ユーティリティなしに Server Administrator グラフィカルインタフェースを介して、サポートしている RAID および非 RAID の全コントローラと PowerVault? 2xxS および PowerVault MD1000 エンクロージャのコントローラとエンクロージャの機能を実行できます。

Storage Management Service を使用すると、データの冗長性設定、ホットスベアの割り当て、障害発生ドライブの再構成によってデータを保護できます。仮想ディスクの削除やコントローラ設定構成のリセットなど、データ破壊的なタスクも実行できます。Storage Management Service のユーザーは自分のストレージ環境とストレージ管理について十分に理解している必要があります。

Server Administrator のインタフェース機能に加え、Storage Management Service では初心者も上級ユーザーも使えるウィザード機能と詳しいオンラインヘルプも提供しています。

Storage Management コマンドラインインタフェース (CLI) は、Server Administrator の `omreport` および `omconfig` コマンドに拡張オプションを提供しています。これらのオプションによって、完全機能を備えたスクリプト可能なコマンドラインインタフェースが提供されます。

Storage Management Service は SCSI、SATA、ATA、および SAS をサポートしていますが、ファイバチャネルはサポートされていません。

Storage Management Service と Array Manager

Dell OpenManage Storage Management は Array Manager の代用となるものです。Storage Management Service は Array Manager に類似するストレージ管理と設定機能を提供しています。ただし、サポートしているオペレーティングシステムやその他の機能に違いがあります。詳細については、「[Array Manager から Storage Management への移行](#)」と『Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。

Storage Management ツリーオブジェクト

Storage Management Service は、インストールすると、Server Administrator グラフィカルユーザーインターフェースの **ストレージ** ツリーオブジェクトを選択してアクセスできます。**ストレージ** オブジェクトを展開すると、システムに接続している対応コントローラのツリーオブジェクトが表示されます。コントローラオブジェクトが展開され、コントローラに接続しているストレージが表示されます。

展開された **ストレージ** オブジェクトには次のような下位レベルのオブジェクトが表示されます。これはシステムに接続しているコントローラとストレージによって異なります。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 コントローラ | 1 ファン |
| 1 バッテリー | 1 電源装置 |
| 1 コネクタ | 1 温度 |
| 1 エンクロージャまたはバックプレーン | 1 ファームウェア / ドライババージョン |
| 1 物理ディスク | 1 仮想ディスク |
| 1 EMM(エンクロージャ管理モジュール) | |

正常性タブ

各ツリーオブジェクトの **正常性** タブには、ストレージダッシュボード情報が表示されます。ストレージダッシュボードには、システムで使用可能なコントローラがすべて表示されます。[使用可能なタスク] ドロップダウンメニューを使って、コントローラを設定できます。ストレージダッシュボードには、仮想ディスクの詳細とコントローラの正常性も表示されます。

 **メモ:** ストレージダッシュボードの [使用可能なタスク] を使用するには、管理者権限でログインする必要があります。

情報 / 設定タブ

情報 / 設定 タブには、選択したツリーオブジェクトのプロパティ情報が表示されます。Storage Management Service を使用すると、**情報 / 設定** タブにはストレージタスクの実行とウィザードの起動に使用するドロップダウンメニューとボタンも表示されます。

Storage Management タスク

Storage Management Service では、ストレージ管理と設定タスクを実行するためのドロップダウンメニューとウィザードが表示されます。この項では、Storage Management Service が提供する共通ストレージタスクとウィザードについて説明します。

 **メモ:** Storage Management のストレージタスクなど、機能の全容については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

仮想ディスクの作成ウィザード

Storage Management Service では、仮想ディスクを作成する際に簡易設定ウィザードと詳細設定ウィザードを提供しています。簡易設定ウィザードは、空き容量とコントローラを考慮して、仮想ディスクの適切な構成内容を算出します。簡易設定ウィザードを使用するときは、仮想ディスクの RAID レベルとサイズを選択します。簡易設定ウィザードは、その RAID レベルとサイズの選択に適合する推奨ディスク構成を選択します。簡易設定ウィザードではユーザーの入力が最小限に抑えられているため、初心者ユーザーに推奨されます。

仮想ディスク作成の詳細設定ウィザードでは、仮想ディスクの読み取り、書き込み、およびキャッシュポリシーを指定できます。また、使用する物理ディスクおよびコントローラコネクタを選択することもできます。詳細設定ウィザードを使用するには、RAID レベルとハードウェアについてよく理解を得ておく必要があります。このウィザードの使用はアドバンスドユーザーに推奨されます。

仮想ディスクの作成の簡易設定および詳細設定ウィザードの起動方法

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **仮想ディスクウィザードの作成に進む** をクリックします。
5. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

仮想ディスク再構成ウィザード

仮想ディスク再構成ウィザードを利用すると、仮想ディスクの構成を変更できます。このタスクを使用して、物理ディスクの数を増やすことで RAID レベルを変えるか、または仮想ディスク容量を増やすことができます。

仮想ディスク再構成ウィザードの起動方法:

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **使用できるタスク** ドロップダウンメニューから **再構成** を選択します。
5. **実行** をクリックします。
6. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

冗長仮想ディスクの整合性の維持

冗長仮想ディスクが作成されている場合は、整合性確認 タスクによって、冗長 (パリティ) 情報の精度が検証されます。このタスクは冗長仮想ディスクにのみ適用されます。整合性確認 タスクは、必要に応じて冗長データを再構成します。

整合性確認タスクの起動方法

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **使用できるタスク** ドロップダウンメニューから **整合性チェック** を選択します。
5. **実行** をクリックします。
6. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除

グローバルホットスベアは、アレイグループの一部である使用されていないバックアップディスクです。ホットスベアはスタンバイモードに保たれます。仮想ディスクで使用される物理ディスクに障害が発生した場合は、システムの割り込みやユーザーの介入なしに、故障した物理ディスクの代わりに割り当て済みのホットスベアが作動し始めます。ホットスベアは、アクティブになると障害が発生した物理ディスクを使用していたすべての冗長仮想ディスクに対しデータを再構成します。

ディスクを割り当て解除し、必要に応じて別のディスクを選ぶことにより、ホットスベアの割り当てを変更することができます。また、グローバルホットスベアとして 1 つ以上の物理ディスクを割り当てることが可能です。

グローバルホットスベアは手動で割り当ておよび割り当て解除する必要があります。これらは特定の仮想ディスクに対して割り当てられるわけではありません。(仮想ディスクで故障した物理ディスクを交換する)ホットスベアを仮想ディスクに割り当てると、専用ホットスベアの割り当てと割り当て解除の手順に従います。

専用ホットスベアの割り当て方法

1. 専用ホットスベアとして使用するディスクを **コネクタ** (チャネルまたはポート) 表で選択します。コントローラによっては、1 つ以上のディスクを選択できます。専用ホットスベアとして選択したディスクが **現在専用ホットスベアとして設定されているディスク** 表に表示されます。
2. 準備が完了したら、**変更の適用** をクリックします。

専用ホットスベアの割り当て解除方法

1. **現在専用ホットスベアとして設定されているディスク** 表のディスクをクリックして割り当て解除します。ディスクをクリックすることにより **現在専用ホットスベアとして設定されているディスク** 表からディスクが削除され、コネクタ (チャネルまたはポート) 表に戻ります。
2. 準備が完了したら、**変更の適用** をクリックします。

Storage Management でこのタスクを位置付ける

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **使用できるタスク** ドロップダウンメニューから **専用ホットスベアの割り当て / 割り当て解除** を選択します。
5. **実行** をクリックします。
6. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

障害が発生した物理ディスクの再構成

障害の発生した物理ディスクが冗長仮想ディスクの一部でも、即座に交換すれば、その物理ディスクのエラーによってデータが損失することはありません。再構成タスクは、**物理ディスク** オブジェクトが選択されているときに使用できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

グローバルタスク

ストレージオブジェクトを選択すると、次のようなグローバルタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

1. **グローバル再スキャン**: グローバル再スキャンによって、すべてのコントローラとそれらに接続しているコンポーネントの設定変更(新規作成または削除されたデバイスなど)が更新されます。
1. **スマートサーマルシャットダウンを有効 / 無効にする**: デフォルトでは、PV220S および PV221S エンクロージャが 0 度または 50 度の臨界温度に達すると、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンします。ただし、Smart サーマルシャットダウンを有効にするを設定しておく、エンクロージャが臨界温度に達したときに、エンクロージャのみをシャットダウンして、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンしないように指定することもできます。システムをデフォルト設定に戻すときは、スマートサーマルシャットダウンを無効にするタスクを使用します。

コントローラタスク

コントローラ オブジェクトを選択すると、次のようなコントローラタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

1. **コントローラの再スキャン**: によって、コントローラに接続しているすべてのコンポーネントの設定変更(新規作成または削除されたデバイスなど)が更新されます。
1. **仮想ディスクの作成**: 「[仮想ディスクの作成ウィザード](#)」を参照してください。
1. **有効、無効、終了、テスト警告**: これらのタスクを使って、コントローラ警告を管理できます。たとえば、デバイス障害の発生時にアラーム音を鳴らすように設定したり、アラームが鳴り出したときに静止したりできます。
1. **再構成率の設定**: 再構成率は、障害が発生した物理ディスクを再構成するために、システムリソースをどの程度専有するかを示します。このタスクを使用すると、この設定を調整できます。
1. **構成のリセット**: このタスクは、コントローラの情報をすべて消去して、新しい設定を可能にします。この操作を行うと、コントローラ上の仮想ディスクはすべてクリアされます。
1. **ログファイルのエクスポート**: このタスクは、コントローラログをテキストファイルにエクスポートします。
1. **外部設定のインポート**: このタスクは、別のコントローラから付け替えられた物理ディスクに存在する仮想ディスクをインポートします。
1. **外部設定のクリア**: 新しく接続された物理 ディスクから仮想ディスクの情報をクリア(消去)します。
1. **バックグラウンド初期化レートの設定**: このタスクは、バックグラウンド初期化タスク専用システムリソース量を変更します。
1. **整合性チェックレートの設定**: このタスクは、整合性チェックタスク専用システムリソース量を変更します。
1. **再構成レートの設定**: このタスクは、再構成 タスク専用システムリソース量を変更します。
1. **パトロール読み取りモードの設定**: この機能は、ディスク障害およびデータロスまたは 破損を防ぐためにディスクエラーを識別します。
1. **パトロール読み取りの開始と停止**: これらのタスクは、パトロール読み取りモードが手動に設定されたときにパトロール読み取りタスクを開始または停止できるようにします。
1. **ピンキャッシュの管理**: ライトバックポリシーでは、データは物理ディスクに書き込まれる前にキャッシュに書き込まれます。何らかの理由で仮想ディスクがオフラインになると削除されると、キャッシュ内のデータは失われます。キャッシュ内のデータはまた、意図しないケーブルまたは電源障害によっても失われます。ストレージコントローラはこのような障害に備えて、仮想ディスクに回復するかキャッシュをクリアするまでピンまたはダーティキャッシュに書き込まれたデータを保持します。
1. **外部設定のインポート / 回復**: このタスクは、別のコントローラから付け替えられた物理ディスクに存在する仮想ディスクのインポートおよび回復を行います。
1. **外部設定操作**: このタスクはインポートできる外部設定のプレビューを表示します。これは、ファームウェアバージョン 6.1 以降を搭載した PERC 6 コントローラ上で使用できます。
1. **外部設定のクリア**: このタスクは仮想ディスク情報を新しく接続した物理ディスクからクリアまたは消去するために使用します。
1. **コントローラプロパティの変更**: このタスクは複数のコントローラプロパティを同時に変更できるようにします。これは、ファームウェアバージョン 6.1 以降を搭載した PERC 6 コントローラ上で使用できます。
1. **負荷分散**: このタスクは I/O 要求をルートを同一エンクロージャに接続されているコントローラポートまたはコネクタを両方自動的に使用できるようにします。これは、ファームウェアバージョン 6.1 以降を搭載した PERC 6 コントローラ上でのみ使用できます。
1. **復帰可能なホットスベア**: このタスクは予想可能な障害が発生した場合にデータを自動的に物理ディスクからホットスベアにコピーしたり、劣化したディスクを交換するためにホットスベアから物理ディスクにコピーできるようにします。これは、**ファームウェアバージョン 6.1 以降を搭載した PERC 6 コントローラ**上で使用できます。
1. 予想可能な障害時の自動交換: 予想可能な障害時に、このタスクは自動的にデータを物理ディスクからホットスベアにコピーできるようにします。このプロパティは「復帰可能なホットスベア」プロ

パティと併用してください。これは、**ファームウェアバージョン 6.1 以降を搭載した PERC 6 コントローラ**上で使用できます。

バッテリータスク

バッテリー オブジェクトを選択すると、次のようなバッテリータスクを実行できます。このタスクはバッテリーの修整が必要なコントローラでのみ使用可能です。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **バッテリーの修整**: このタスクはコントローラのバッテリーを完全に放電させてから再充電します。
- 1 **学習サイクルの開始**: このタスクを使って、バッテリー学習サイクルを開始します。
- 1 **バッテリー学習サイクルの遅延**: このタスクを使うと、バッテリー学習サイクルの開始時間を 7 日間まで遅延できます。

コネクタのタスク

コネクタ オブジェクトを選択すると、次のようなコネクタタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **コネクタの再スキャン**: このタスクは、現在接続しているデバイスを確認したり、コネクタに追加された新規デバイスを認識するために、コントローラコネクタを再スキャンします。コネクタの再スキャンは、コントローラの再スキャンと同様に行います。

エンクロージャタスク

エンクロージャ オブジェクトを選択すると、次のようなエンクロージャタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **警告を有効 / 無効にする**: このタスクを使って、エンクロージャ警告を管理します。有効にすると、エンクロージャがエラー状態になったときにアラーム音が鳴ります。
- 1 **資産データの設定**: このタスクは、エンクロージャの資産タグと資産名を変更するときに使用します。
- 1 **温度プローブ値の設定**: 温度プローブでエンクロージャの温度を監視します。各温度プローブには警告とエラーのしきい値があります。警告しきい値は、エンクロージャが高温 / 低温の限度に近いしていることを示します。警告しきい値を変更するときは、このタスクを使用します。
- 1 **点滅**: このタスクは、エンクロージャの発行ダイオード(LED)を点滅させるときに使用します。エンクロージャを位置付けるのに有効です。エンクロージャの LED は、異なる色や点滅パターンを表示することがあります。

温度タスク

温度 オブジェクトを選択すると、次の温度プローブタスクを使用できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **温度プローブの設定**: 温度プローブでエンクロージャの温度を監視します。各温度プローブには警告とエラーのしきい値があります。警告しきい値は、エンクロージャが高温 / 低温の限度に近いしていることを示します。警告しきい値を変更するときは、このタスクを使用します。

物理ディスクのタスク

物理ディスク オブジェクトを選択すると、次のような物理ディスクタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **点滅と点滅解除**: 点滅タスクを使用すると、LED(Light Emitting Diodes)の 1 つを点滅させることで、エンクロージャ内のディスクを検索できます。点滅解除タスクは、この点滅タスクをキャンセルします。
- 1 **無効セグメントの削除**: 特定の状況において本タスクを用いると、現在使用不可のディスクスペースを回復することができます。
- 1 **グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除**: [「グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除」](#)を参照してください。
- 1 **削除の準備**: ディスクをエンクロージャから取り外すとき、その前にこのタスクを使用します。

 **注意**: データロス防止のため、必ずこのタスクの実行してください。

- 1 **オンラインとオフライン**: ディスクを取り外すときは、その前にオフラインタスクで無効にしておきます。オフラインディスクを有効にするときは、オンラインタスクを使用します。
- 1 **初期化**: コントローラによって、仮想ディスクに属するものとして使用するアレイドディスクの準備を初期化タスクで行う場合があります。
- 1 **再構成**: [「障害が発生した物理ディスクの再構成」](#)を参照してください。
- 1 **再構成のキャンセル**: このタスクを使って、進行中の再構成をキャンセルできます。
- 1 **物理ディスクのクリアとクリアのキャンセル**: 物理ディスクタスクのクリアタスクを使って、物理ディスクにあるデータを消去できます。

仮想ディスクタスク

仮想ディスク オブジェクトを選択すると、次のような仮想ディスクタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **再設定**: [「仮想ディスク再構成ウィザード」](#)を参照してください。
- 1 **再構成のキャンセル**: このタスクを使って、進行中の再構成をキャンセルできます。

- 1 **再設定のキャンセル:** このタスクを使って、進行中の仮想ディスクの再設定をキャンセルできます。
- 1 **フォーマットまたは初期化、低速 / 高速初期化:** このタスクは、ファイルを消去し、仮想ディスクからファイルシステムを削除するときに使用します。
- 1 **バックグラウンドの初期化キャンセル:** コントローラによっては、仮想ディスクの作成後に、冗長仮想ディスクのバックグラウンドの初期化が自動的に開始されます。このタスクは、バックグラウンドの初期化をキャンセルするときに使用します。
- 1 **無効セグメントの復元:** このタスクは、破壊された RAID-5 仮想ディスクのデータを回復するときに使用します。
- 1 **削除:** このタスクは、仮想ディスクの全データを破壊するときに使用します。
- 1 **専用ホットスベアの割り当てと割り当て解除:** [「グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除」](#)を参照してください。
- 1 **整合性チェック、整合性チェックのキャンセル、整合性チェックの一時停止、および整合性チェックの再開:** [「冗長仮想ディスクの整合性の維持」](#)を参照してください。
- 1 **点滅と点滅解除:** このタスクは、仮想ディスクの中にある物理ディスクのランプを点滅または点滅解除します。
- 1 **名前の変更:** このタスクは、仮想ディスクの名前を変更するときに使用します。
- 1 **ポリシーの変更:** このタスクは、仮想ディスクの読み取り、書き込み、またはキャッシュポリシーを変更するときに使用します。
- 1 **ミラー分割:** このタスクは、ミラーデータを元の設定のように RAID 1、RAID 1-連結、または RAID 10 仮想ディスクとして分割するときに使用します。
- 1 **ミラー解除:** このタスクは、ミラーデータを分離し、ミラーの一方の半分を空きスペースとして復元するときに使用します。
- 1 **メンバーディスクの交換:** このタスクは、メンバー設定オプションにより仮想ディスクのメンバーである物理ディスクから他の物理ディスクにデータをコピーできるようにします。複数の異なるアレイグループからデータの複数コピーを開始できます。

その他の Storage Management 機能とマニュアル

Storage Management の詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」および「Dell™ OpenManage™ Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド」を参照してください。オンラインヘルプの起動方法については、「[オンラインヘルプの表示](#)」を参照してください。

Array Manager から Storage Management への移行

既存の Array Manager インストールを Storage Management と交換する場合、次の移行配慮が適用されます。

- 1 **仮想ディスクの保持:** Array Manager から Storage Management へ移行する場合、仮想ディスク名を保持することができます。ただし、保存する場合は、Storage Management をインストールする前に Array Manager をアンインストールしてはいけません。Storage Management をインストールする前に Array Manager をアンインストールすると、Storage Management は Array Manager で作成された仮想ディスクの名前を変更します。Array Manager がアンインストールされているか否かに関わらず、Storage Management は Array Manager で作成された仮想ディスクを識別および管理できます。
- 1 **SNMP トラップ:** SNMP トラップを処理するアーキテクチャおよび管理情報ベース (MIB) は、Array Manager と Storage Manager では異なります。Array Manager から SNMP トラップを受信するようカスタマイズされたアプリケーションは、修正を行う必要がある場合があります。
- 1 **イベントの採番:** Storage Management の警告またはイベントの採番体系は、対応する Array Manager イベントに使用される番号とは異なります。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

Storage Management コマンドラインインタフェース

コマンドラインからの Storage Management の実行方法については、『Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。Storage Management をインストール済みの場合、拡張 `omreport` および `omconfig` コマンドラインオプションに関する情報もオンラインヘルプから参照できます。

オンラインヘルプの表示

Server Administrator はコンテキストに対応したオンラインヘルプを提供します。オンラインヘルプにアクセスするには、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックします。ナビゲーションは、ユーザーの特権レベルと、Server Administrator が管理下システムで検出するハードウェアとソフトウェアのグループに応じて、アクセス可能なすべてのウィンドウで利用できます。

Storage Management は追加オンラインヘルプを提供します。このヘルプは、**ストレージ** または下位レベルのツリーオブジェクトを選択すると、利用できます。

Storage Management Service のオンラインヘルプ

- 1 仮想ディスク、RAID など、ストレージの概念を形成する情報の提供
- 1 アプリケーションの各ウィンドウにあるグラフィカルユーザーインターフェイス コンポーネントの説明
- 1 グラフィカルユーザーインターフェイスからタスク実行する手順の詳しい説明
- 1 利用可能な CLI コマンドとそのサブコマンドの説明

Storage Management オンラインヘルプは、次の 2 通りの形態で用意されています。

- 1 **状況依存のヘルプ:** 状況依存のオンラインヘルプにアクセスするには、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックします。
- 1 **目次:** 状況依存ヘルプのヘルプ画面には、オンラインヘルプの目次へのリンクがあります。この目次にアクセスするには、まずグローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックします。次に、Storage Management **目次ページ**に**戻る** リンクをクリックして目次を表示します。このリンクは各ヘルプ画面の上部と下部に表示されます。オンラインヘルプの全記載内容にアクセスするときは、この目次を使用します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Server Administrator の使用

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズ ガイド

- [Server Administrator セッションの開始](#)
- [ログインとログアウト](#)
- [Server Administrator ホームページ](#)
- [オンラインヘルプの使い方](#)
- [ユーザー設定ホームページの使い方](#)
- [Server Administrator コマンドラインインタフェースの使い方](#)
- [Dell Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定](#)
- [Server Administrator の制御](#)

Server Administrator セッションの開始

ローカルシステムで Server Administrator セッションを開始するには、デスクトップの Dell™ OpenManage™ Server Administrator アイコンをクリックします。

リモートシステムで Server Administrator セッションを開始するには、Webブラウザを開いて次の 1 つをアドレスフィールドに入力し、<Enter> を押します。

https://ホスト名:1311

ホスト名は管理ノードシステムに割り当てられた名前、1311 はデフォルトのポート 番号を表します。

または

https://IP アドレス:1311

IP アドレスは、管理下システムの IP アドレス、1311 はデフォルトのポート番号を表します。

Server Administrator ログイン ウィンドウが表示されます。

- 📌 **メモ:** ブラウザで有効な応答を受信するために、アドレスフィールドに https:// (http:// ではない) と入力します。
- 📌 **メモ:** Dell™ OpenManage® Server Administrator のデフォルトポートは 1311 です。ポート番号は必要に応じて変更できます。システムプリファレンスの設定手順は、「[Dell Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定](#)」を参照してください。
- 📌 **メモ:** Internet Explorer バージョン 7.0 を使って Server Administrator を起動する場合、セキュリティ証明書の問題を表示する途中警告のページが表示される場合があります。システムセキュリティを確保するには、新しい X.509 証明書を生成し、既存の X.509 証明書を再利用するか、証明機関(CA)からルート証明書または証明書チェーンをインポートすることをお勧めします。このような証明に関する警告メッセージを受けることのないよう、使用する証明書は信頼できる CA から受ける必要があります。X.509 証明書管理の詳細については、「[X.509 証明書管理](#)」を参照してください。

ログインとログアウト

Server Administrator にログインするには、事前に割り当てられた **ユーザー名** と **パスワード** をシステム管理 **ログイン** ウィンドウの該当するフィールドに入力します。ログインページをバイパスし、デスクトップの **Dell OpenManage Server Administrator** アイコンをクリックして Server Administrator ウェブアプリケーションにアクセスする方法については、「[シングルサインオン](#)」を参照してください。

- 📌 **メモ:** Server Administrator にログインするには、事前に割り当てられたユーザー権限が必要です。新しいユーザーを設定する手順は、「[設定と管理](#)」を参照してください。

定義されたドメインから Server Administrator にアクセスするには、正しい **ドメイン** 名も指定する必要があります。

- 📌 **メモ:** **アプリケーション** ドロップダウンメニューは、1 つの Dell OpenManage Server Administrator コンポーネントにしかアクセスできない、システムでは選択不能フィールドとして表示されます。2 つ以上の Dell OpenManage Server Administrator コンポーネントが管理下システムで使用できる場合のみ、ドロップダウンメニューは機能します。

Microsoft® Active Directory® を使用してログインするには、**Active Directory** ログイン チェックボックスを選択します。

Server Administrator セッションを終了するには、「[グローバルナビゲーションバー](#)」上の **ログアウト** をクリックします。**ログアウト** ボタンは、各 Server Administrator ホームページの右上隅にあります。

シングルサインオン

Microsoft Windows® システムでシングルサインオンオプションを使用すると、十分な権限を持つログインユーザーはすべてログインページをバイパスし、デスクトップの **Dell OpenManage Server Administrator** アイコンをクリックするだけで Server Administrator Web アプリケーションにアクセスできます。

- 📌 **メモ:** シングルサインオンの詳細については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q258063> の Knowledge Base の記事を参照してください。

ローカルマシンアクセスの場合は、マシンに適切な権限 (ユーザー、パワーユーザー、または管理者) のあるアカウントを持っていることが必要です。他のユーザーは Microsoft Active Directory と照合して認証されます。

Microsoft Active Directory に対してシングルサインオン認証を使用して Server Administrator を起動するには、次の追加パラメータを渡す必要があります。

```
authType=ntlm&application={ プラグイン名 }
```

プラグイン名は omsa, ita などになります。

次に、例を示します。

```
https://localhost:1311/?authType=ntlm&application=omsa
```

ローカルマシンのユーザーアカウントに対してシングルサインオン認証を使用して Server Administrator を起動するには、次のパラメータも渡す必要があります。

```
authType=ntlm&application=[プラグイン名]&locallogin=true
```

プラグイン名は omsa, ita などになります。

次に、例を示します。

```
https://localhost:1311/?authType=ntlm&application=omsa&locallogin=true
```

また、Server Administrator は他の製品 (Dell OpenManage IT Assistant など) もログインページを通らずに直接 Server Administrator の Web ページにアクセスできるように機能が拡張されています (現在ログインしており、適切な権限を持っている場合)。

対応 Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステム環境のシステム

対応の Windows Server® 2003 オペレーティングシステム環境のリモート管理下システムから Server Administrator にログインするには、ブラウザのセキュリティオプションを設定する必要があります。

ブラウザのセキュリティ設定によっては、Server Administrator が使用するクライアント側のスクリプトを実行できない場合があります。クライアント側のスクリプトを使用できるようにするには、リモート管理下システムで次の手順を実行します。

 **メモ:** クライアント側のスクリプトを使用できるようにブラウザを設定していない場合、Server Administrator にログインするときに空白の画面が表示される場合があります。この場合は、エラーメッセージが表示され、ブラウザを設定するように指示が出ます。

Internet Explorer

1. ブラウザを起動します。
2. ツール → インターネットオプション → セキュリティ をクリックします。
3. 信頼済みサイトのアイコンをクリックします。
4. サイト をクリックします。
5. ブラウザのアドレスバーからリモート管理下システムにアクセスするために使用する Web アドレスをコピーし、この Web サイトをゾーンに追加する フィールドに貼り付けます。
6. カスタムレベル をクリックします。

Windows 2000 の場合

- その他 の下の、ページの自動読み込み のラジオボタンを選択します。
- Active Scripting の下の、有効 ラジオボタンを選択します。

Windows 2003 の場合

- その他 の下の、ページの自動読み込み のラジオボタンを選択します。
- Active Scripting の下の、有効 ラジオボタンを選択します。
- アクティブ スクリプト の下の Internet Explorer web ブラウザコントローラのスクリプトを許可する ラジオボタンを選択します。

1 OK をクリックし新しい設定を保存します。

1 ブラウザを閉じます。

1 Server Administrator にログインします。

Server Administrator に、ユーザーの資格情報のプロンプトを表示せずにシングルサインオンするには、次の手順を実行してください。

1. ブラウザを起動します。
2. ツール → インターネットオプション → セキュリティ をクリックします。
3. 信頼済みサイトのアイコンをクリックします。
4. サイト をクリックします。

5. ブラウザのアドレスバーからリモート管理下システムにアクセスするために使用する Web アドレスをコピーし、この Web サイトをゾーンに追加するフィールドに貼り付けます。
6. **カスタムレベル** をクリックします。
7. **ユーザー認証**で、**現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする** のラジオ ボタンを選択してください。
8. **OK** をクリックし新しい設定を保存します。
9. ブラウザを閉じます。
10. Server Administrator にログインします。

Mozilla

1. ブラウザを起動します。
2. **編集**→**プリファランス** をクリックします。
3. **詳細設定**→**スクリプトとプラグイン** をクリックします。
4. **ナビゲータ** チェックボックスで **JavaScript を有効にする** が選択されていることを確認します。
5. **OK** をクリックし新しい設定を保存します。
6. ブラウザを閉じます。
7. Server Administrator にログインします。

Server Administrator ホームページ

 **メモ:** Server Administrator を使用中は、Web ブラウザのツールバーボタン (**戻る**、**更新**) を使用しないでください。Server Administrator のナビゲーションツールだけを使用してください。

いくつか例外がありますが、Server Administrator には 3 つの主な領域があります。

1. [グローバルナビゲーションバー](#) は一般サービスへのリンクを提供します。
1. [システムツリー](#)には、ユーザーのアクセス特権に基づいて、表示可能なすべてのシステムオブジェクトが表示されます。
1. [処置 ウィンドウ](#)には、ユーザーのアクセス特権に基づいて、選択したシステムツリーオブジェクトで使用可能な管理処置が表示されます。処置ウィンドウには 3 つの機能領域があります。
 - 処置タブには、ユーザーのアクセス特権に基づいて、選択したオブジェクトで使用可能な一次処置または処置のカテゴリが表示されます。
 - 処置タブは、ユーザーのアクセス特権に基づいて、処置タブで使用可能な二次オプションのサブカテゴリに分かれています。
 - [データ領域](#) には、ユーザーのアクセス特権に基づいて、選択したシステムツリーオブジェクト、処置タブ、およびサブカテゴリの情報が表示されます。

さらに Server Administrator ホームページにログインすると、システムモデル、システムに割り当てられた名前、および現在のユーザーのユーザー名とユーザー特権 がウィンドウの右上隅に表示されます。

[表 5-1](#)システムに Server Administrator がインストールされたときに GUI フィールド名と該当システムが一覧表示されます。

表 5-1 以下の GUI フィールド名に対するシステムの可用性

GUI フィールド名	該当システム
モジュラーエンクロージャ	モジュラーシステム
サーバーモジュール	モジュラーシステム
メインシステム	モジュラーシステム
システム	非モジュラーシステム
メインシステムシャーシ	非モジュラーシステム
BMC	Dell PowerEdge x8xx と x9xxシステム
iDRAC	Dell xx0x システム

[図 5-1](#) は、非モジュラーシステムに管理者権限でログインしたユーザー用のサンプル Server Administrator ホームページのレイアウトを示します。

図 5-1 サンプル Server Administrator ホームページ - 非モジュラーシステム



処置 ウィンドウ

図 5-2 は、モジュラーシステムに管理者権限でログインしたユーザー用のサンプル Server Administrator ホームページのレイアウトを示します。

図 5-2 サンプル Server Administrator ホームページ - モジュラーシステム



処置 ウィンドウ

システムツリーのオブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトに対応する処置ウィンドウが開きます。主なカテゴリを選択するには処置タブをクリックし、詳細情報や特定の処置にアクセスするには処置タブのサブカテゴリをクリックして、処置ウィンドウを移動します。処置ウィンドウのデータ領域に表示される情報は、システムログから、状態インジケータ、システムプローブページまでさまざまです。処置ウィンドウのデータ領域で下線が付いたアイテムには、さらに詳細レベルの機能があります。下線が付いたアイテムをクリックすると、処置ウィンドウに詳細レベルを持つ新しいデータ領域が作成されます。たとえば、プロパティ 処置タブの **正常性** サブカテゴリにある **メインシステムシャーシ / メインシステム** をクリックすると、正常性状態をモニタしたメインシステムシャーシ / メインシステム オブジェクトに含まれるすべてのコンポーネントの正常性状態が表示されます。

メモ: 設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、処置タブ、およびデータ領域機能を表示するには、管理者またはパワーユーザー権限が必要です。さらに、管理者権限でログインしたユーザーのみが、シャットダウン タブに含まれているシャットダウン機能などの重要なシステム機能にアクセスできます。

グローバルナビゲーションバー

グローバルナビゲーションバーとそのリンクはプログラム内のすべてのユーザーレベルから使用可能です。

- 1 **プリファランス** をクリックすると、**プリファランス** ホームページが開きます。「[ユーザー設定ホームページの使い方](#)」を参照してください。
- 1 **サポート** をクリックすると、Dell サポートの Web サイトに接続します。
- 1 **ヘルプ** をクリックすると、オンラインヘルプのウィンドウが開きます。「[オンラインヘルプの使い方](#)」を参照してください。
- 1 **バージョン情報** をクリックすると、Server Administrator のバージョン情報と著作権情報が表示されます。
- 1 **ログアウト** をクリックすると、現在の Server Administrator プログラムセッションを終了します。

システムツリー

システムツリーは Server Administrator ホームページの左側に表示され、システムの表示可能なコンポーネントをリストにします。システムコンポーネントはコンポーネントの種類によって分類されています。**モジュラーエンクロージャシステム / サーバーモジュール** のメインオブジェクトを展開したときに表示されるシステム / サーバーモジュールの主要カテゴリは**メインシステムシャーシ / メインシステム、ソフトウェア、ストレージ**です。

ツリーを展開するには、オブジェクトの左側にあるプラス記号 (+) をクリックするか、オブジェクトをダブルクリックします。マイナス記号 (-) が付いているものは、展開されていてそれ以上展開できないエントリを指します。

処置 ウィンドウ

システムツリーのアイテムをクリックすると、コンポーネントまたはオブジェクトについての詳細が処置ウィンドウのデータ領域に表示されます。処置 タブをクリックすると、使用できるすべてのユーザーオプションがサブカテゴリのリストとして表示されます。

システム / サーバーモジュールツリーのオブジェクトをクリックすると、コンポーネントの処置ウィンドウが開き、使用できる処置タブが表示されます。データ領域にはデフォルトでは、選択したオブジェクトの最初の処置 タブから事前選択されたサブカテゴリが表示されます。事前選択されたサブカテゴリは通常、最初のオプションです。たとえば、**メインシステムシャーシ / メインシステム** オブジェクト

をクリックすると処置ウィンドウが開き、そのウィンドウのデータ領域に **プロパティ** 処置タブと **正常性** サブカテゴリが表示されます。

データ領域

データ領域はホームページ右側の処置タブの下にあります。データ領域は、システムコンポーネントのタスクを実行したり詳細を表示したりする場所です。ウィンドウに表示される内容は、現在選択されているシステムツリーオブジェクトと処置 タブによって異なります。たとえばシステムツリーから **BIOS** を選択すると、デフォルトでは **プロパティ** タブが選択され、システム BIOS のバージョン情報がデータ領域に表示されます。処置 ウィンドウのデータ領域には、状態インジケータ、タスクボタン、下線アイテム、およびゲージインジケータなど多くの共通機能があります。

システム / サーバーモジュールコンポーネントステータスインジケータ

コンポーネント名の横のアイコンはそのコンポーネントの状態を表します(ページの最終更新時点)。

表 5-2 システム / サーバーモジュールコンポーネントステータスインジケータ

	緑のチェックマークは、コンポーネントが健全(正常)であることを示します。
	感嘆符が入った黄色の三角形は、コンポーネントが警告(非重大)状態にあることを示します。この状況は、プローブまたはその他のモニタツールによって特定の最小値や最大値を満たさないコンポーネントが検出された場合に発生します。警告状態は早めの対処を要します。
	赤い X は、コンポーネントがエラー(重要)状態にあることを示します。赤い X は、コンポーネントがエラー(重要)状態にあることを示します。危機状態は早急な対処を要します。
	ブランクスペースは、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。

タスクボタン

Server Administrator ホームページから開いたウィンドウのほとんどには、少なくとも **印刷**、**エクスポート**、**電子メール**、**更新** の 4 つのボタンが表示されます。一部のウィンドウにはその他のタスクボタンも含まれています。たとえば、ログ ウィンドウには、**名前を付けて保存** ボタンと **ログのクリア** ボタンもあります。各タスクボタンに固有の情報は、Server Administrator ホームページの **ヘルプ** をクリックすると表示中の特定のウィンドウについて詳細が表示されます。

- 1 **印刷** をクリックすると、開いているウィンドウのコピーがデフォルトのプリンタに印刷されます。
- 1 **エクスポート** をクリックすると、開いているウィンドウの各データフィールドの値を一覧にしたテキストファイルが作成されます。エクスポートファイルは指定の場所に保存されます。データフィールド値を区切る区切り文字をカスタマイズする手順は、「[ユーザーとシステムのプリファランスの設定](#)」を参照してください。
- 1 **電子メール** をクリックすると、指定の電子メール受取人に宛てた電子メールメッセージが作成されます。電子メールサーバーとデフォルトの電子メール受取人を設定する手順は、「[ユーザーとシステムのプリファランスの設定](#)」を参照してください。
- 1 **更新** をクリックすると、処置ウィンドウのデータ領域のシステムコンポーネント状態の情報が再ロードされます。
- 1 **名前を付けて保存** をクリックすると、処置ウィンドウの HTML ファイルが .zip ファイルに保存されます。
- 1 **ログのクリア** をクリックすると、処置ウィンドウのデータ領域に表示されたログからすべてのイベントが消去されます。

 **メモ:** エクスポート、電子メール、名前を付けて保存、およびログのクリア ボタンは、パワーユーザー特権または管理者権限でログインしたユーザーにのみ表示されます。

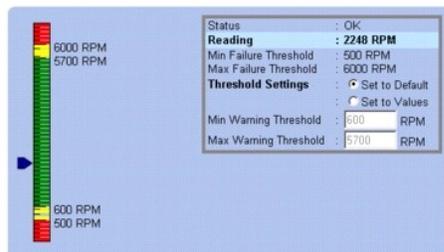
下線付きアイテム

処置ウィンドウのデータ領域の下線付きアイテムをクリックすると、そのアイテムの詳細が表示されます。

ゲージインジケータ

温度プローブ、ファンプローブ、および電圧プローブはそれぞれゲージインジケータで表されます。たとえば、[図 5-3](#)には、システムの CPU ファンプローブからの読み取り値が表示されています。

図 5-3 ゲージインジケータ



オンラインヘルプの使い方

Server Administrator ホームページの各ウィンドウでは、状況に応じたオンラインヘルプを使用できます。グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中のウィンドウについて詳しい情報が掲載されたヘルプウィンドウが開きます。オンラインヘルプは、Server Administrator サービスの各要素を実行するのに必要な特定の動作について説明するように設計されています。Server Administrator が検出するシステムのソフトウェアとハードウェアのグループとユーザー特権レベルに従って、表示可能なすべてのウィンドウにオンラインヘルプが用意されています。

ユーザー設定ホームページの使い方

プリファランス ホームページのデフォルトウィンドウは、**プリファランス** タブにある **アクセス設定** です。

プリファランスホームページから、「ユーザー」と「パワーユーザー」特権を持つユーザーへのアクセスを制限したり、Simple Network Management Protocol(SNMP)パスワードを設定したり、ユーザーとセキュリティ保護されたポートシステムのプリファランスを設定できます。

Server Administrator ホームページ同様、プリファランスホームページには 3 つの主な領域があります。

- 1 グローバルナビゲーションバーは一般サービスへのリンクを提供します。
 - **Server Administrator に戻る** をクリックすると、Server Administrator のホームページに戻ります。
- 1 プリファランスホームページの左ウィンドウ枠(システムツリーが Server Administrator ホームページで表示されている)には、Managed System のプリファランスカテゴリが表示されません。
- 1 配置ウィンドウでは、Managed System で使用できる設定とプリファランスを表示します。

図 5-4 にサンプルプリファランスホームページのレイアウトを示します。

図 5-4 サンプルプリファランスホームページ



Server Administrator コマンドラインインタフェースの使い方

Server Administrator コマンドラインインタフェース(CLI)を使うと、ユーザーはモニタしているシステムのオペレーティングシステムのコマンドプロンプトから必要なシステム管理タスクを実行できます。

CLI は、特定のタスクを念頭に置いたユーザーがシステム情報を迅速に取得するのに役立ちます。たとえば CLI を使用すると、管理者は特定の時間に実行されるバッチプログラムやスクリプトを作成できます。これらのプログラムが実行されると、ファン RPM などの対象コンポーネントについてレポートを入手できます。これらのプログラムが実行されると、ファン RPM などの対象コンポーネントについてレポートを入手できます。コマンド結果はファイルに転送して、あとで分析できます。レポートは、管理者が使用パターンを調整したり、新しいシステムリソース購入を実証したり、問題のあるコンポーネントの正常性に注目する場合に役立ちます。

CLI の機能と使い方の詳細については、『Dell OpenManage Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。

Dell Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定

この項には以下のトピックがあります。

- 1 [ユーザーとシステムのプリファランスの設定](#)
- 1 [X.509 証明書管理](#)

ユーザーとシステムのプリファランスの設定

プリファランスホームページから、ユーザーとセキュアポートシステムを設定します。

メモ: ユーザー、またはシステム設定をリセットするには、「システム管理者」特権でログインする必要があります。

次の手順を実行して、ユーザープリファランスを設定します。

- 1 グローバルナビゲーションバーの **プリファランス** をクリックします。
プリファランスホームページが表示されます。
- 2 **一般設定** をクリックします。
- 3 事前に選択されている電子メール受信者を追加するには、指定するサービス連絡先の電子メールアドレスを **宛先**:フィールドに入力し、**変更の適用** をクリックします。
メモ: 任意のウィンドウで **電子メール** をクリックすると、そのウィンドウの添付 HTML ファイルと一緒に電子メールアドレスに送信するメッセージが送信されます。
- 4 ホームページの外観を変更するには、**スキン** または **スキーム** フィールドで別の値を選択して **変更の適用** をクリックします。

次の手順を実行して、セキュアポートシステムの環境を設定します。

1. グローバルナビゲーションバーの **プリファランス** をクリックします。

プリファランス ホームページが表示されます。

2. **一般設定** と **Webサーバー** タブをクリックします。

3. **サーバー設定** ウィンドウで、必要に応じてオプションを設定します。

1. **セッションのタイムアウト** 機能を使うと、セッションがアクティブでいられる時間を制限できます。指定の時間(分)、ユーザー操作がない場合に Server Administrator をタイムアウトにするには、**有効** ラジオボタンを選択します。セッションがタイムアウトしたユーザーは、セッションを続行するにはログインし直す必要があります。Server Administrator セッションタイムアウト機能を無効にするには、**無効** ラジオボタンを選択します。

1. **HTTPS ポート** フィールドでは、Server Administrator のセキュアポートを指定します。Server Administrator のデフォルトのセキュアポートは 1311 です。

 **メモ:** ポート番号を、無効な番号または使用中のポート番号に変更すると、その他のアプリケーションまたはブラウザが Managed System の Server Administrator にアクセスできなくなる可能性があります。デフォルトポートの一覧については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

1. **IP アドレスのバインド先** フィールドで、セッション開始時に Server Administrator がバインドする Managed System の IP アドレスを指定します。システムに該当するすべての IP アドレスをバインドする場合は、**すべて** ラジオボタンを選択します。特定の IP アドレスにバインドする場合は、**特定** ラジオボタンを選択します。

 **メモ:** IP アドレスのバインド先の値を **すべて** 以外の値に変更すると、他のアプリケーションまたはブラウザが Managed System の Server Administrator にアクセスできなくなる可能性があります。

1. **SMTP サーバー名** フィールドと **SMTP サーバーの DNS サフィックス** フィールドでは、所属会社または組織の SMTP とドメイン名サーバー(DNS)のサフィックスを指定します。Server Administrator で電子メールを送信できるようにするには、適切なフィールドに所属会社または組織の SMTP サーバーの IP アドレスと DNS サフィックスを入力する必要があります。

 **メモ:** セキュリティ上の理由から、SMTP サーバーから外部アカウントへの電子メール送信を許可していない会社や組織もあります。

1. **コマンドログサイズ** フィールドに、**コマンドログファイル**の最大ファイルサイズを MB 単位で指定します。

1. **サポートリンク** フィールドでは、管理下システムのサポートを提供する事業者の URL を指定します。

1. **カスタム区切り文字** フィールドでは、**エクスポート** ボタンを使用して作成されたファイルでデータフィールドを区切る文字を指定します。; 文字はデフォルトの区切り文字です。その他のオプションは !、@、#、\$、%、^、*、-、@、:、|、および、です。

1. **SSL 暗号化** フィールドで、セキュリティ保護された HTTPS セッションの暗号化レベルを指定します。使用可能な暗号化レベルには、**オートネゴシエート** および **128 ビット以上** があります。

- **オートネゴシエート:** ブラウザの暗号化のレベルに関係なく接続できます。ブラウザは、Server Administrator web server と自動的にネゴシエーションして、そのセッションで使用可能な最も高い暗号化レベルを選択します。暗号化レベルの低いレガシーブラウザでも、Server Administrator に接続できます。

- **128 ビット以上:** 128 ビット以上の暗号化レベルを持つブラウザからの接続を可能にします。すべての確立されたセッションに、使用されるブラウザに基づいて次の暗号スイートのうちの 1 つが適用されます。

SSL_RSA_WITH_RC4_128_SHA

SSL_RSA_WITH_RC4_128_MD5

SSL_DHE_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA

TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA

SSL_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA

TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA

TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA

SSL_DHE_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA

 **メモ:** 128 ビット以上 オプションでは、40 ビットまたは 56 ビットなど低い SSL 暗号レベルのブラウザでは接続できません。

 **メモ:** 変更を適用するには、Server Administrator web server を再起動します。

 **注意:** 暗号化レベルを 128 ビット以上に設定している場合は、同レベルまたはより高い暗号レベルのブラウザを使用して、Server Administrator の設定にアクセスしたり、その設定を変更したりすることができます。

4. **サーバー設定** ウィンドウのオプション設定が完了したら、**変更の適用** をクリックします。

X.509 証明書管理

リモートシステムの身元を確認し、リモートシステムとやり取りする情報を他の人が閲覧したり変更したりできないようにするには、Web 証明書が必要です。システムのセキュリティを確保するために、以下の励行を推奨します。

1. 新しい X.509 証明書の生成、既存の X.509 証明書の再使用、あるいはルート証明書または証明書チェーンの認証局 (CA) からのインポートを行う。

1. Server Administrator がインストールされているすべてのシステムが一意なホスト名を持つ。

 **メモ:** 証明書管理を実行するには、管理者権限でログインする必要があります。

プリファランスホームページを使って X.509 証明書を管理するには、**一般設定** をクリックし、**Web Server** タブをクリックしてから **X.509 証明書** をクリックします。

次のオプションを使用できます。

1. **新しい X.509 証明書の作成** - このオプションは、Server Administrator にアクセスするための証明書を作成するために使用します。
1. **既存の X.509 証明書の再使用** - このオプションは、あなたの会社が所有権を持つ既存の証明書を選択して、この証明書を使って Server Administrator へのアクセスを制御します。
1. **ルート証明書のインポート** - このオプションは、信頼される認証局から受け取ったルート証明書と証明書の応答 (PKCS#7 形式) をインポートできるようにします。
1. **CA からの証明書チェーンのインポート** - このオプションは、信頼される認証局から証明書の応答 (PKCS#7 形式) をインポートできるようにします。信頼される認証局には、Verisign、Thawte、Entrust などがあります。

Server Administrator の制御

Server Administrator は、Managed System を再起動するたびに自動的に起動します。Server Administrator の手動起動、停止、再起動を行うには、次の手順を使用します。

 **メモ:** Server Administrator を制御するには、管理者権限でログインする必要があります (対応の Red Hat® Enterprise Linux® または SUSE® Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは root でログイン)。

Server Administrator の起動

Microsoft Windows オペレーティングシステム

Server Administrator を開始するには、サポートしている Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムで、以下の手順で実行します。

1. **サービス** ウィンドウを開きます。
2. **Dell Systems Management Server Administration (DSM SA) 接続サービス** アイコンを右クリックします。
3. **Start (開始)** をクリックします。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム

対応の Red Hat Enterprise Linux または SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator を起動するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
dsm_om_connsvc start
```

Server Administrator の停止

Microsoft Windows オペレーティングシステム

Server Administrator を停止するには、次の手順を実行します。

1. **サービス** ウィンドウを開きます。
2. **DSM SA Connection Service** アイコンを右クリックします。
3. **停止** をクリックします。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム

対応の Red Hat Enterprise Linux または SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator を停止するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
dsm_om_connsvc stop
```

Server Administrator の再起動

Microsoft Windows オペレーティングシステム

Server Administrator を停止するには、次の手順を実行します。

1. **サービス** ウィンドウを開きます。
2. **DSM SA Connection Service** アイコンを右クリックします。
3. **再起動** をクリックします。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム

対応の Red Hat Enterprise Linux または SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator を再起動するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
dsm_om_connsvc restart
```

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

バージョン 5.5 の新機能

Dell OpenManage Server Administrator バージョン 5.5 ユーザーズガイド

● 5.5 DVD 構成

Server Administrator のこのリリースの新しい特徴は以下のとおりです。

- 1 以下のストレージ管理サービス機能をサポートします。
 - 1 コントローラタスク - ビンキャッシュの管理、外部設定プレビューのインポート、外部設定の操作、外部ポリシーのクリア、コントローラプロパティの変更、負荷分散、復帰可能なホットスベア、予想可能な障害時の自動交換
 - 1 仮想ディスクタスク - メンバーディスクの交換、ポリシーの変更(ディスクキャッシュポリシー)

 **メモ:** 対応オペレーティングシステムのリストについては、デル提供メディアまたはデルサポートサイト support.dell.com にある「Dell システムソフトウェアサポートマトリックス」を参照してください。

5.5 DVD 構成

『5.5 Systems Management Tools and Documentation DVD』には以下が収録されています。

目次	バージョン
Systems Build and Update Utility	1.0.7
ISO イメージ (Dell Systems Build and Update Utility)	1.0
ISO イメージ (『Dell Systems and Console Agent CD』 (Dell OpenManage ソフトウェア))	5.3.0.1

DVD ドライブをお持ちではない場合は、DVD ルートにあるこの ISO イメージから CD を作成してご利用ください。

ただし、x6xx および x7xx Dell systems および Windows Server 2008 に対応するバージョン 1.0.7 の Dell Systems Build and Update Utility が必要であれば、Dell Support サイトの support.dell.com から ISO イメージファイルをダウンロードできます。また、Dell OpenManage Server Administrator と Dell OpenManage Management Station ソフトウェアバージョン 5.5 のウェブパッケージをデルサポートサイト support.dell.com からダウンロードすることもできます。DVD ドライブのないシステムでは、これらのウェブパッケージの内容を CD または USB キーに転送できます。

[目次ページに戻る](#)